

松平村誌

707-209



1200501583946

Kodak Gray Scale

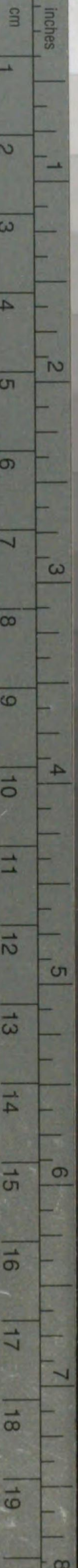
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

序

炮烙、六所の二峯、屹然として峙ち、巴川の清流深々として岩を嚙んで下るの地、即ち吾が松平村である。

松平村は、實に松平氏即ち後の徳川氏發祥の地である。松平氏の初代二代は、此地に據つて其根柢を樹てたのである。而して更に大給氏も鈴木氏も出たのである。

元來松平村は、平の名の示す如く、山間の平地を拓いて、或は田とし、或は圃と致々營々として生活に努めたものである。

かくて一旦松平氏の興るに當つては、此地の住民は、この撓まざる努力を以て、松平氏を援けた者が多かつたであらう。松平氏の次第に大を成して、遂に東照公に至つて

天下の覇權を握るに至れる大活動の最初の力は、全く此地に培はれたものと云ふべきである。されば松平村は、我國の歴史上實に忘るべからざる地點である。

今や松平村誌成りて、將に剗削に附せられんとする由である。その原稿を一覽するに松平氏勃興時代より、現在の教育、産業、交通、衛生等の實狀に及んで居る。郷土誌

の編纂は眞に難事業である。歴史にのみ偏して現在を忘れてはならず、さりとてまた



707-209

707-209

松平村誌目次

松平村役場	寫眞
幸海尋常小學校	全
岩倉尋常小學校	全
九久平尋常小學校	全
瀧脇尋常小學校	全
豊松尋常小學校	全
松平青年學校	全
縣社六所神社	全
高月院	全
六所山炮烙山遠景	全
大給城趾	全
名號石	全
第一編 自然誌	
第一章 境界面積	一
第二章 地勢及氣候	一
一、地勢	一
二、氣候	一

第三章 山、川、瀑、布	二
一、山岳	二
二、河川	三
三、瀑布	四
第二篇 人文誌	
第四章 沿革	七
第五章 行政區域	一五
第六章 戶數及人口	一六
第七章 諸官公衙	一八
一、松平村役場	一八
二、巡查部長派出所及駐在所	二四
三、松平郵便局	二五
第八章 産業及産物	二六
一、農業	二六
イ 種子撰擇	二七
ロ 稲苗代田	二七
ハ 肥料	二八
ニ 病虫害驅除	二八
二、農産物及生産額	二八

歴史を無視しては郷土誌は成立せぬのである。然るに本村誌の簡にして要を得て居る事は、編輯者の苦心の存する所であらう。茲にますます松平村の發展を祈りつゝ、一言感想を陳ぶる次第である。

昭和十一年九月

岡崎市圖書館長 柴田顯正

三、農家ノ副業	三
イ 養蠶業	三
ロ 牧畜業	三
ハ 園藝業	三
ニ 薬加工業	三
ホ 林業	三
四、水産業	三
五、工業ト工産物	三
第九章 交通	四
第十章 教育	四
第十一章 社寺	五
一、神社	五
二、佛閣	五
第十二章 舊蹟	六
一、舊蹟	六
第十三章 名所	六
第十四章 墳墓	六
第十五章 諸団体及諸會員	六
第十六章 災害	六

第十七章 人物	九五
イ 武人	九五
ロ 文人	一〇四
ハ 篤行者	一〇八
第十八章 褒賞	一一一
附録	
三河騷擾記	一一五

は し が き

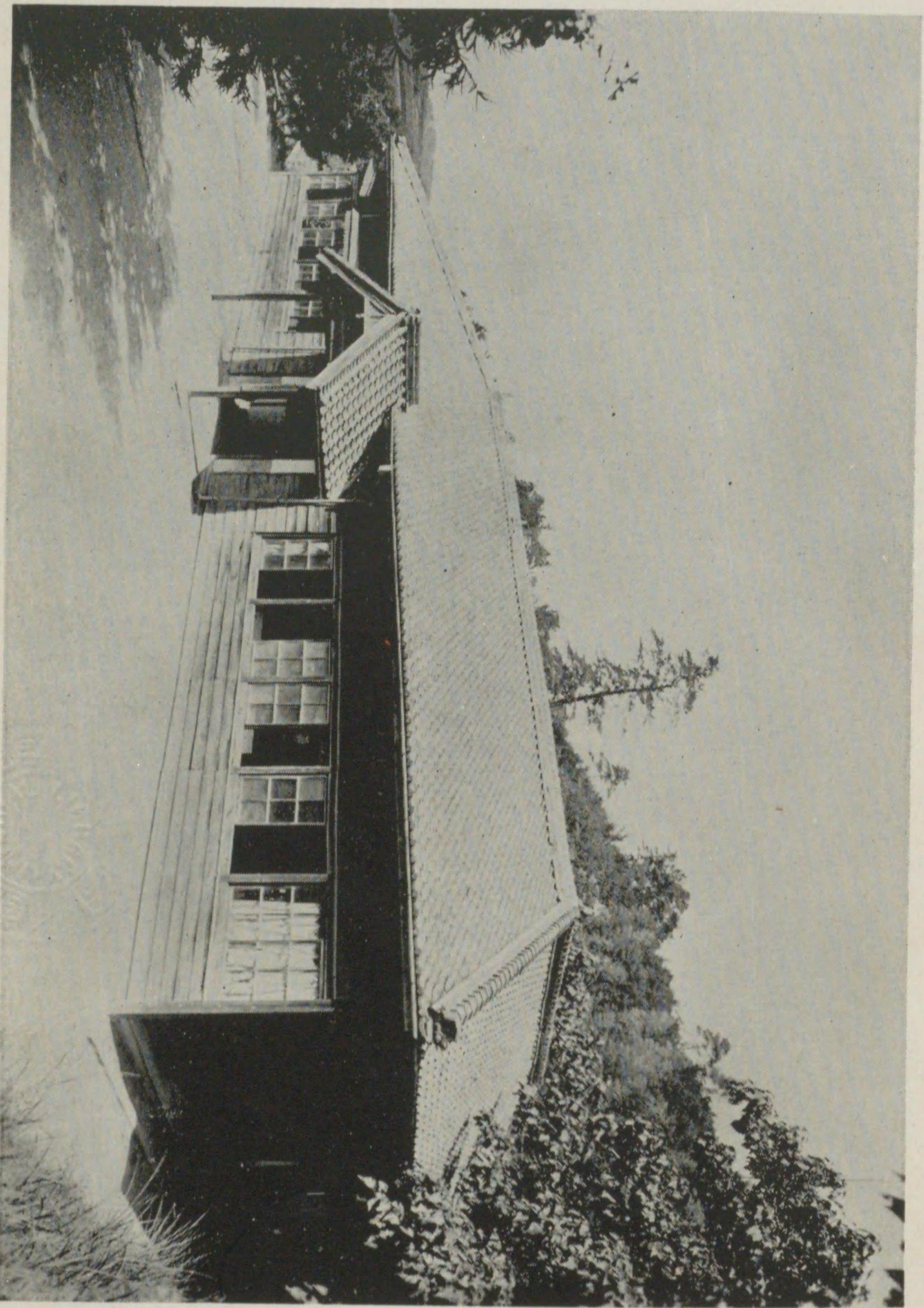
一本誌は松平村の創立に當り總ての事跡を詳にし先賢の遺業を偲ばんと、明治四十三年材料の蒐輯に着手し大正七年末大體の草稿成りたるも其の儘放棄し在りたり、依て昭和三年編輯委員を改め再調せられたるも完結に至らず今日に及へり。

思ふに修史の事固より容易に在らずと雖も荏苒放置せば草稿の散逸するを憂ひ不肖を顧ず本春來劇務の中に小閑を偷みて漸く完結せしめたるも元より文才有るに非ず只先人の起稿を纏め僅に近時の事項を増補したるに過ぎざれば文體が現時に相違すると共に不備の點多々在るを保し難く他日訂正増補して改刷し以て完璧を期せられんことを希求して止まざるなり。

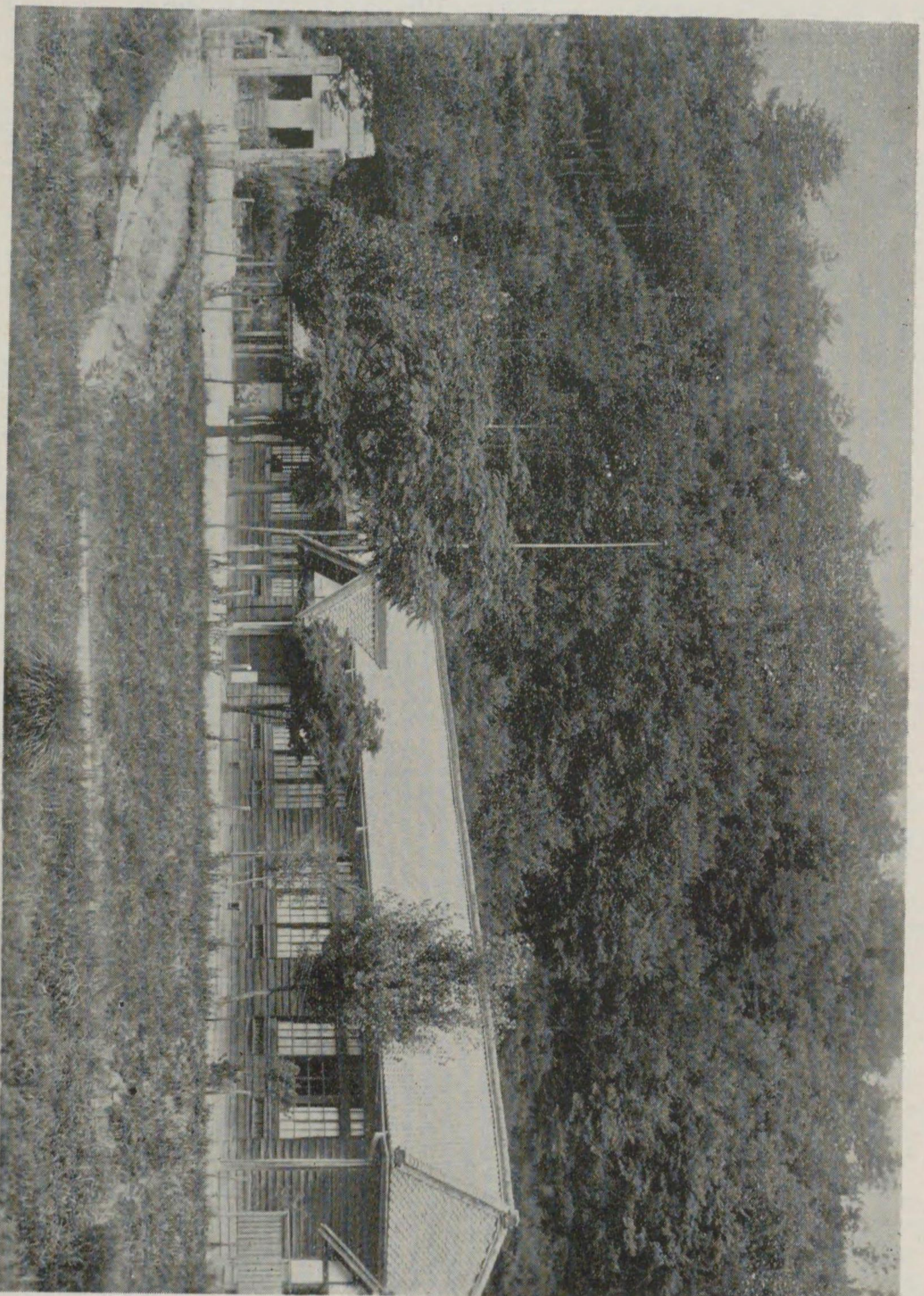
茲に上梓するに臨み貴重なる資料と便宜を與へられたる各位に對し謹みて謝意を表す。

昭和十一年六月

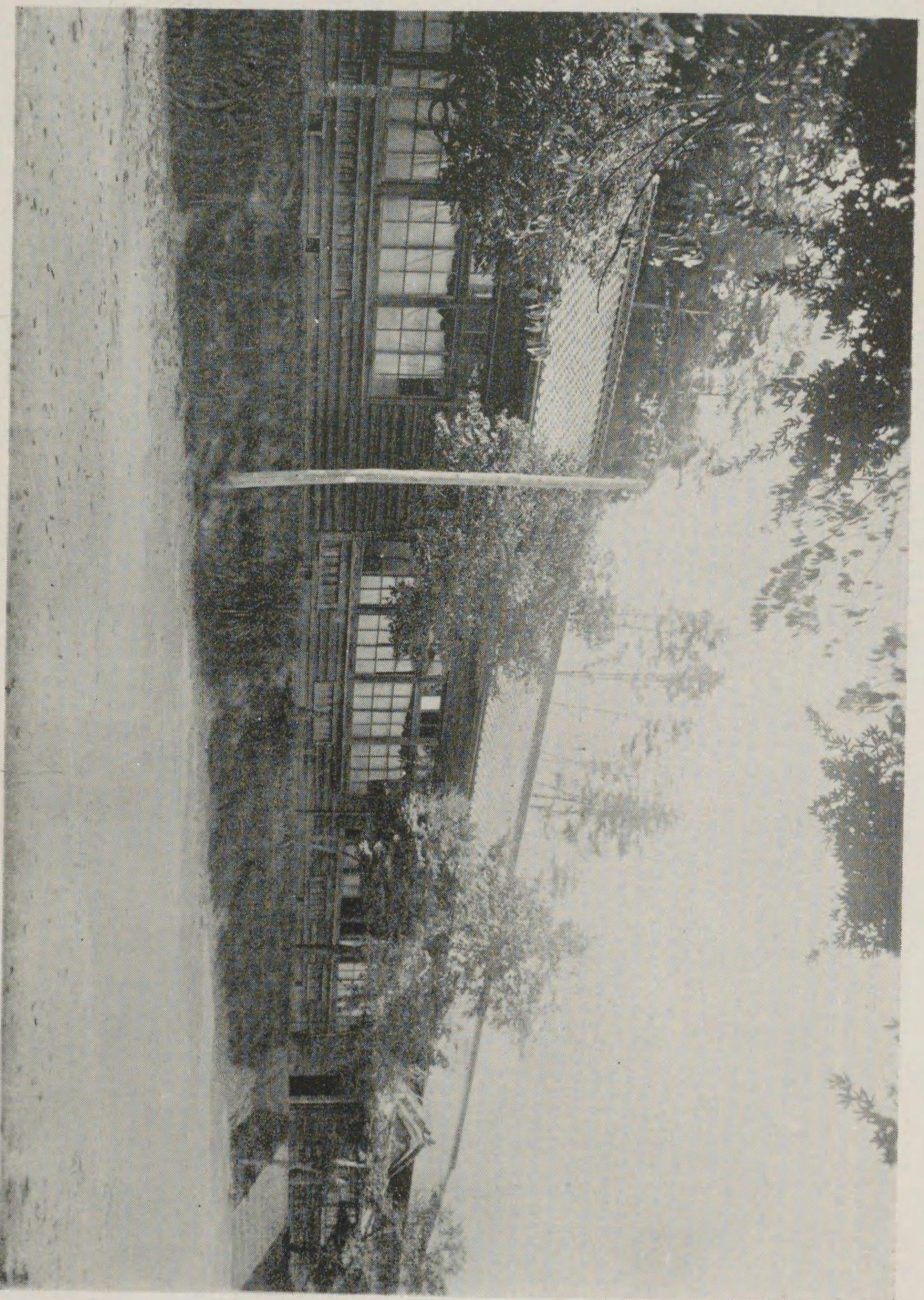
編者記す



松平村役場

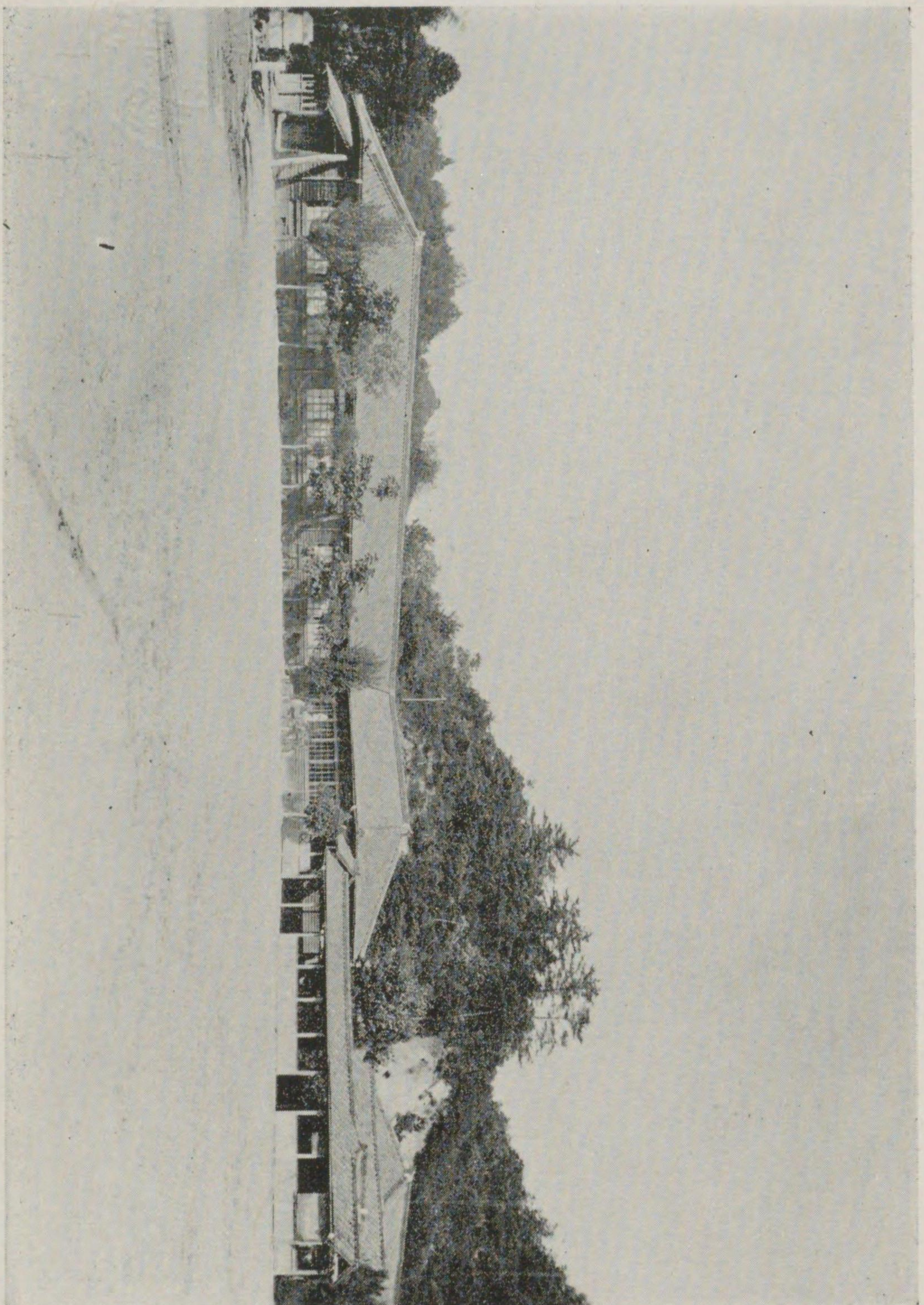


幸海尋常小學校

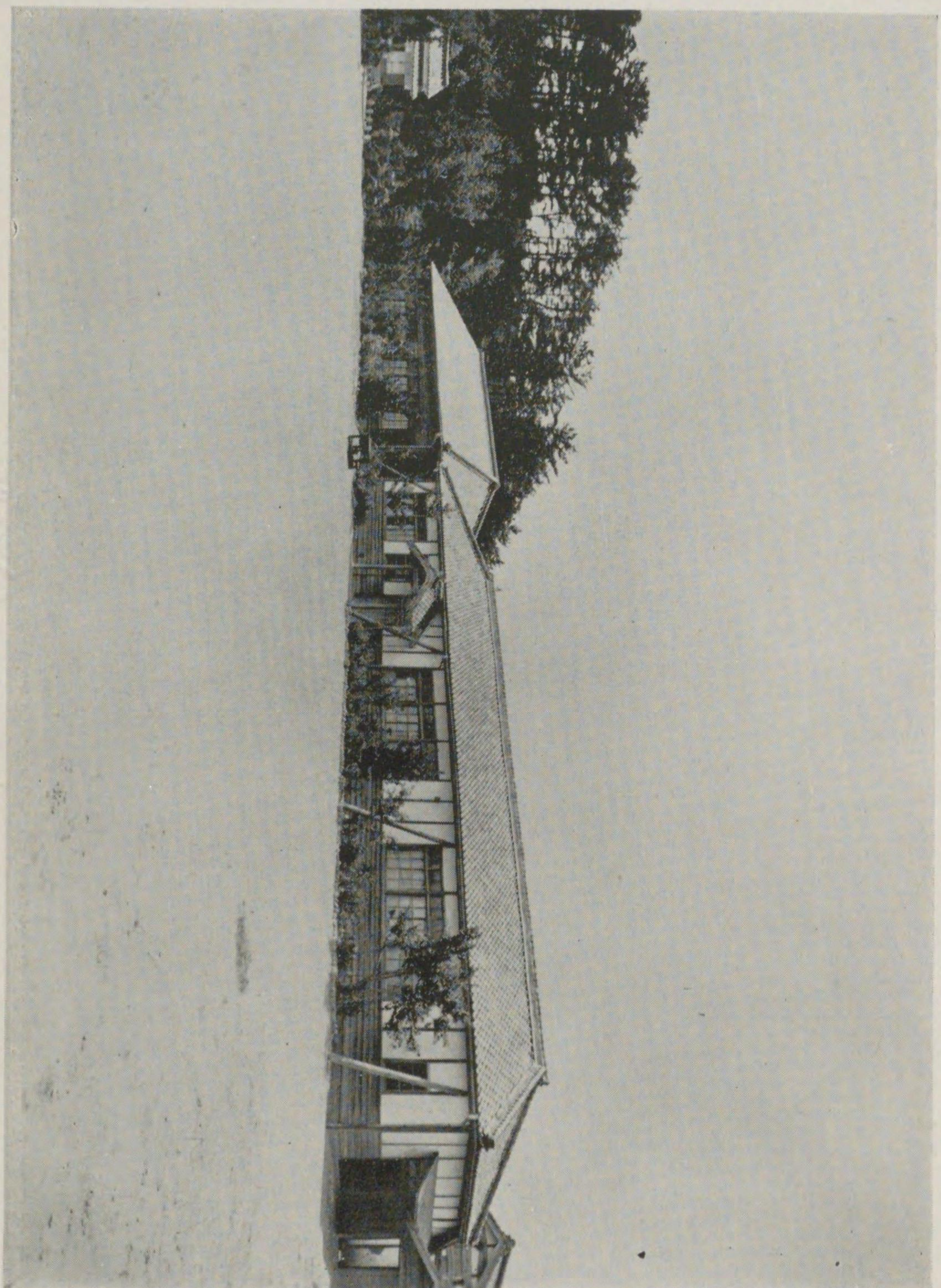


岩倉尋常小學校

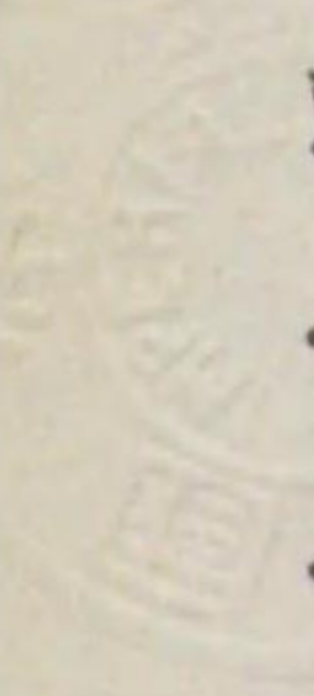


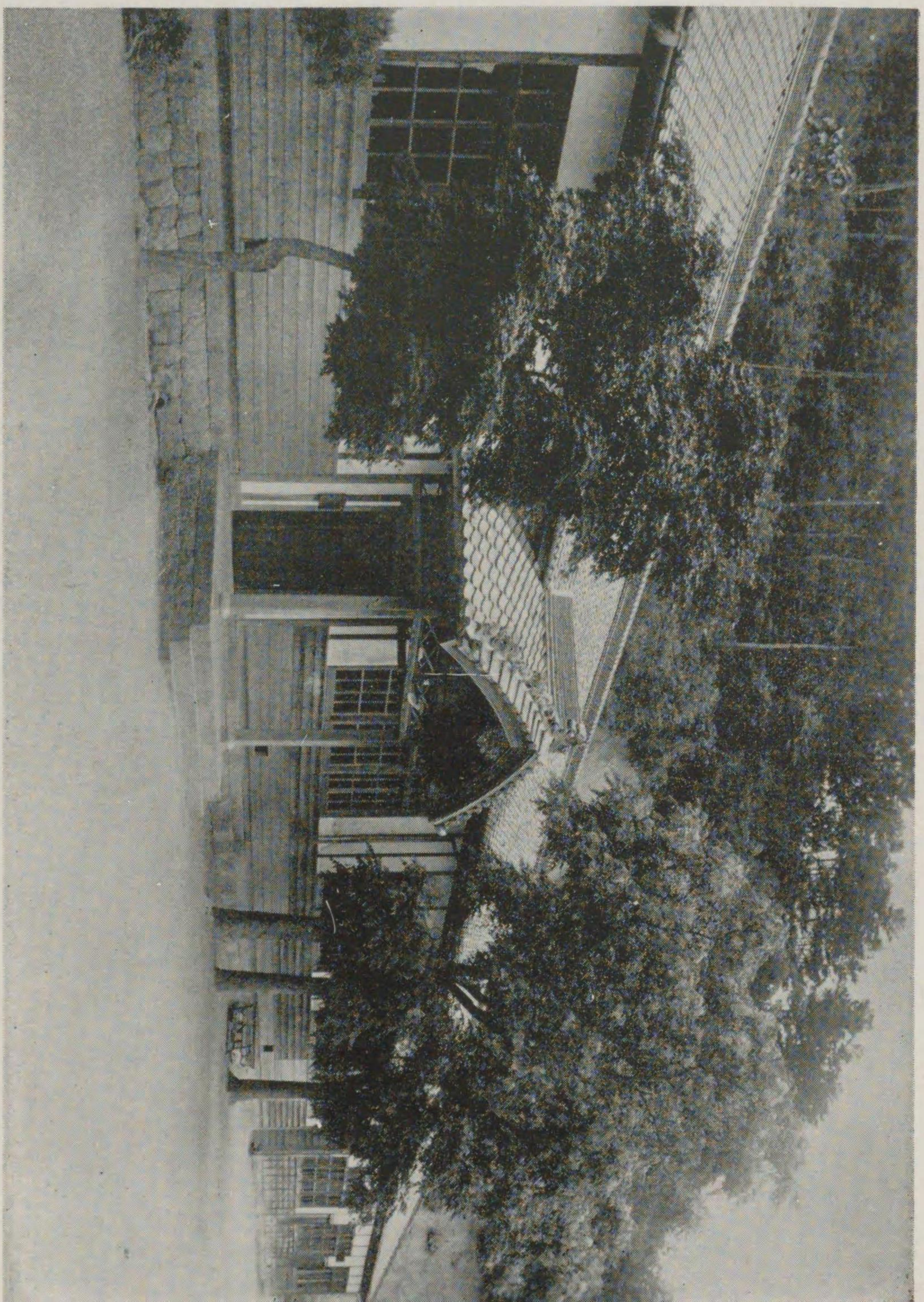


九久平尋常小學校

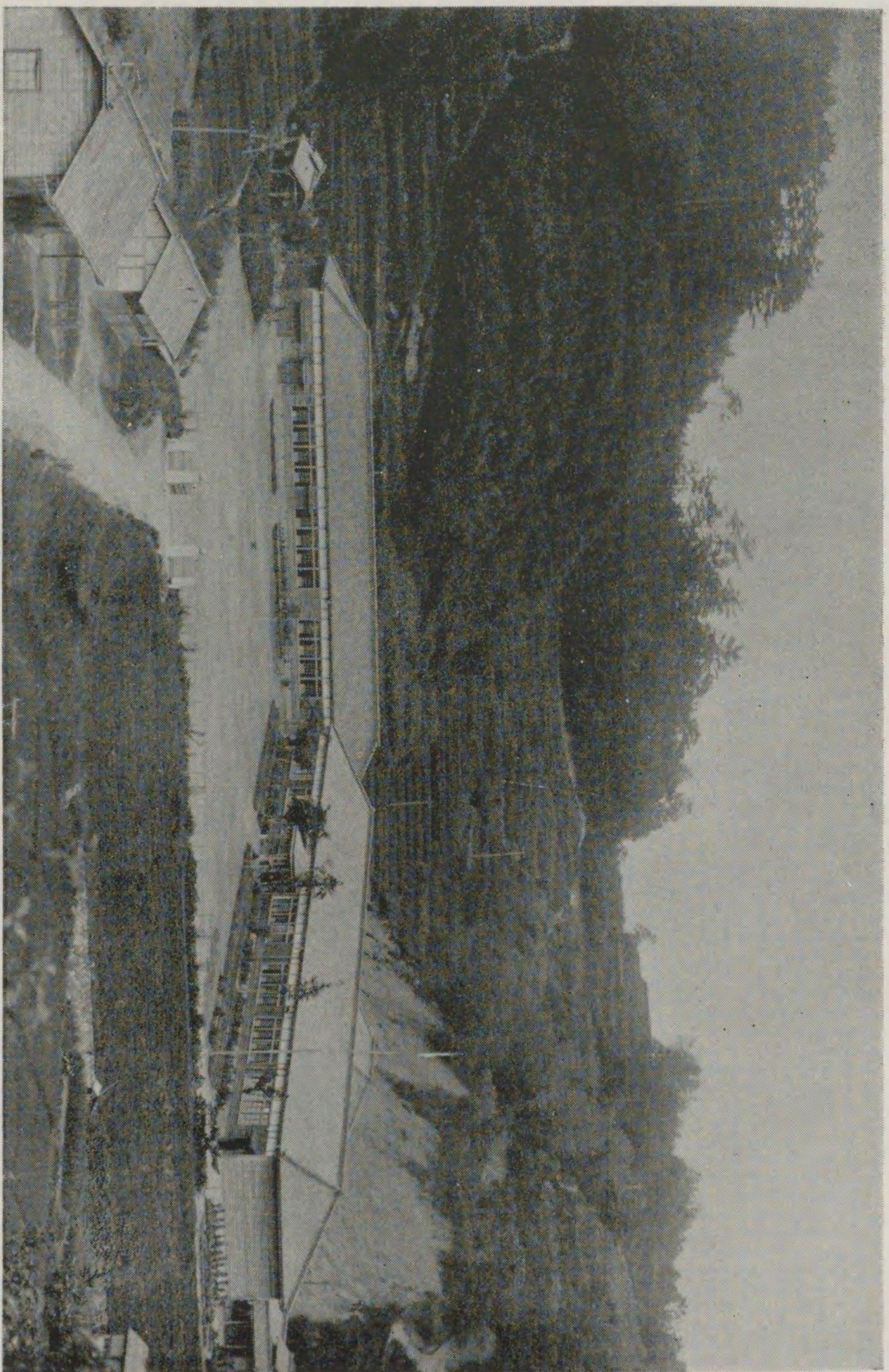


瀧脇尋常小學校

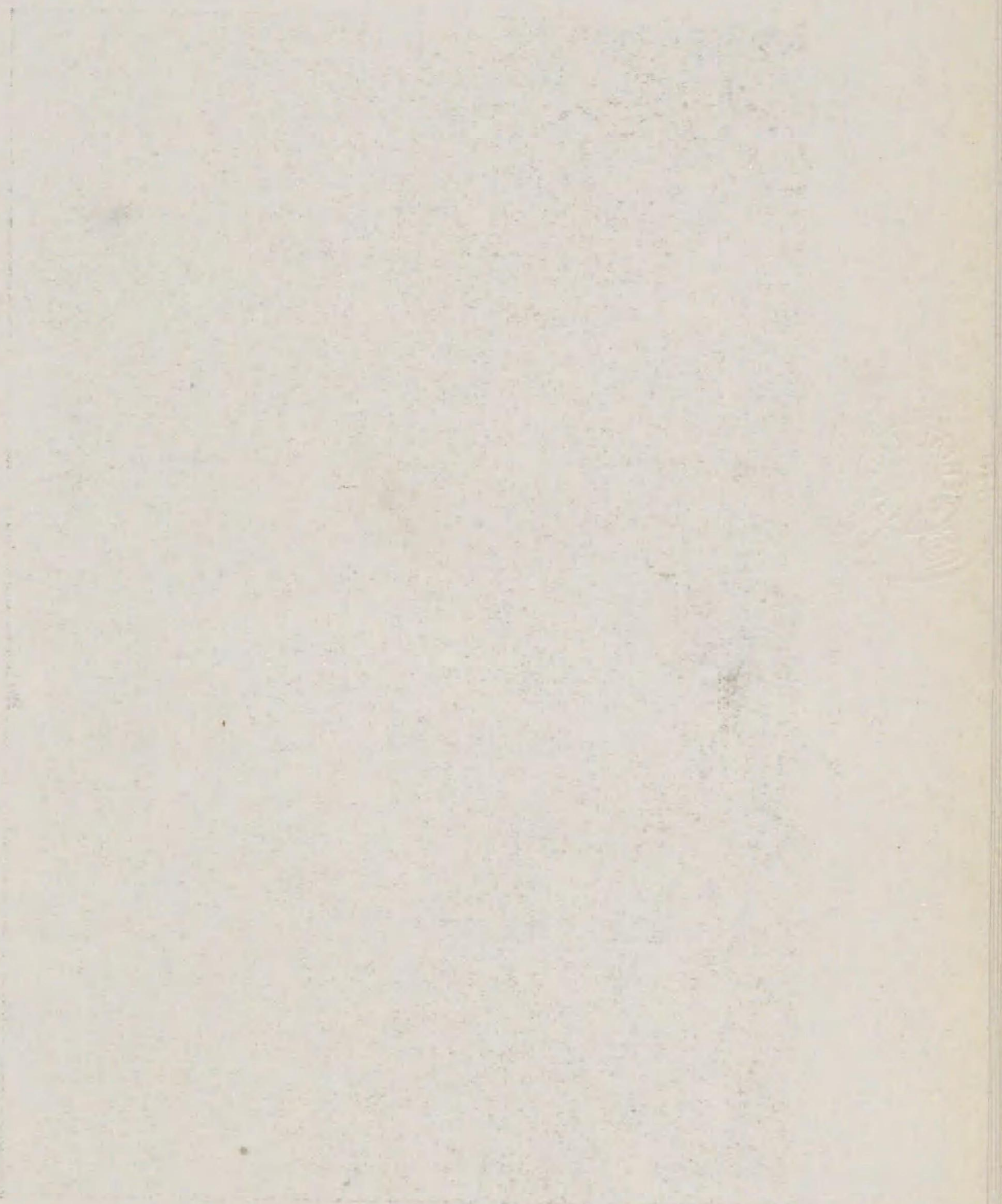


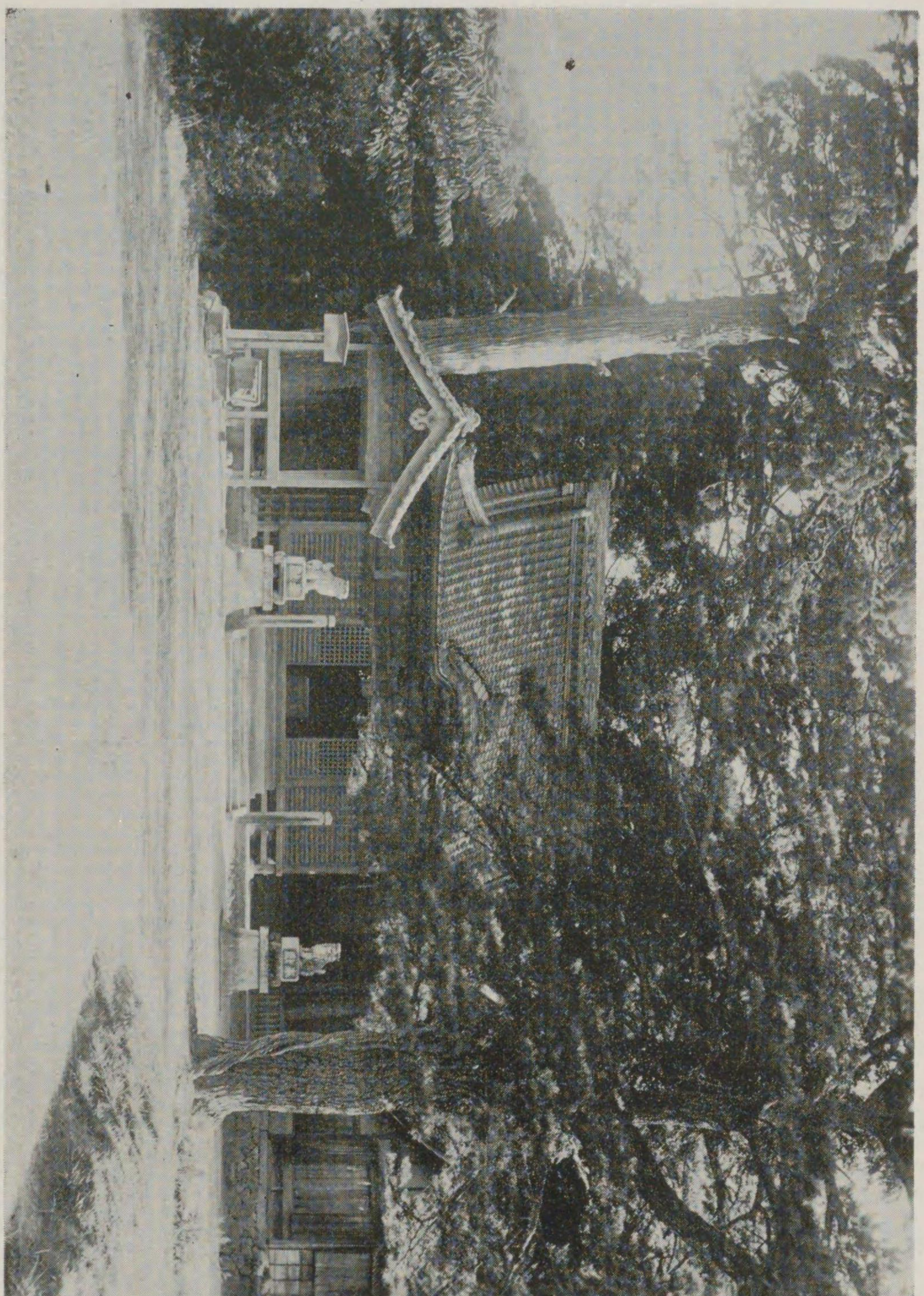


豊松尋常小学校

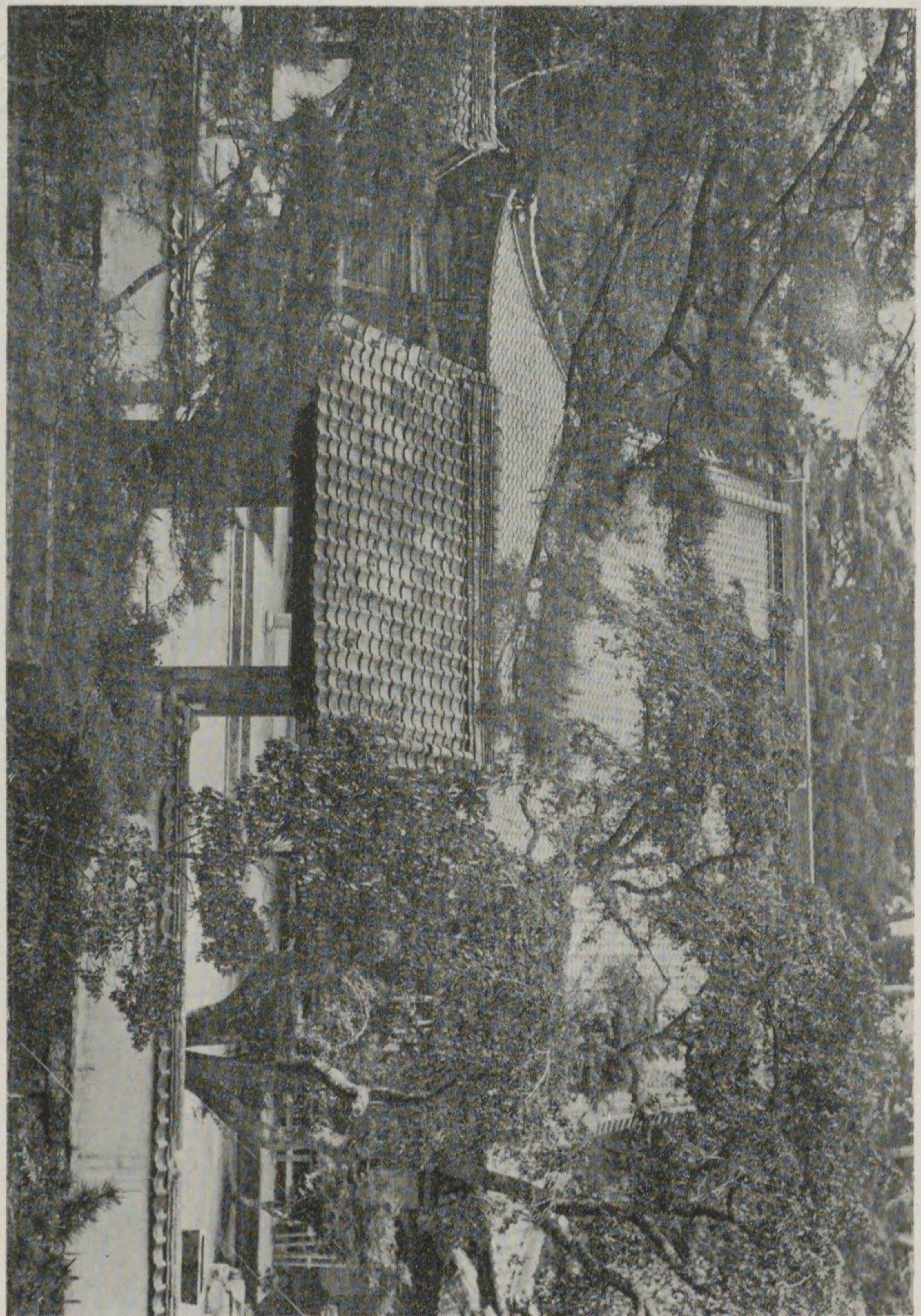


松平青年學校

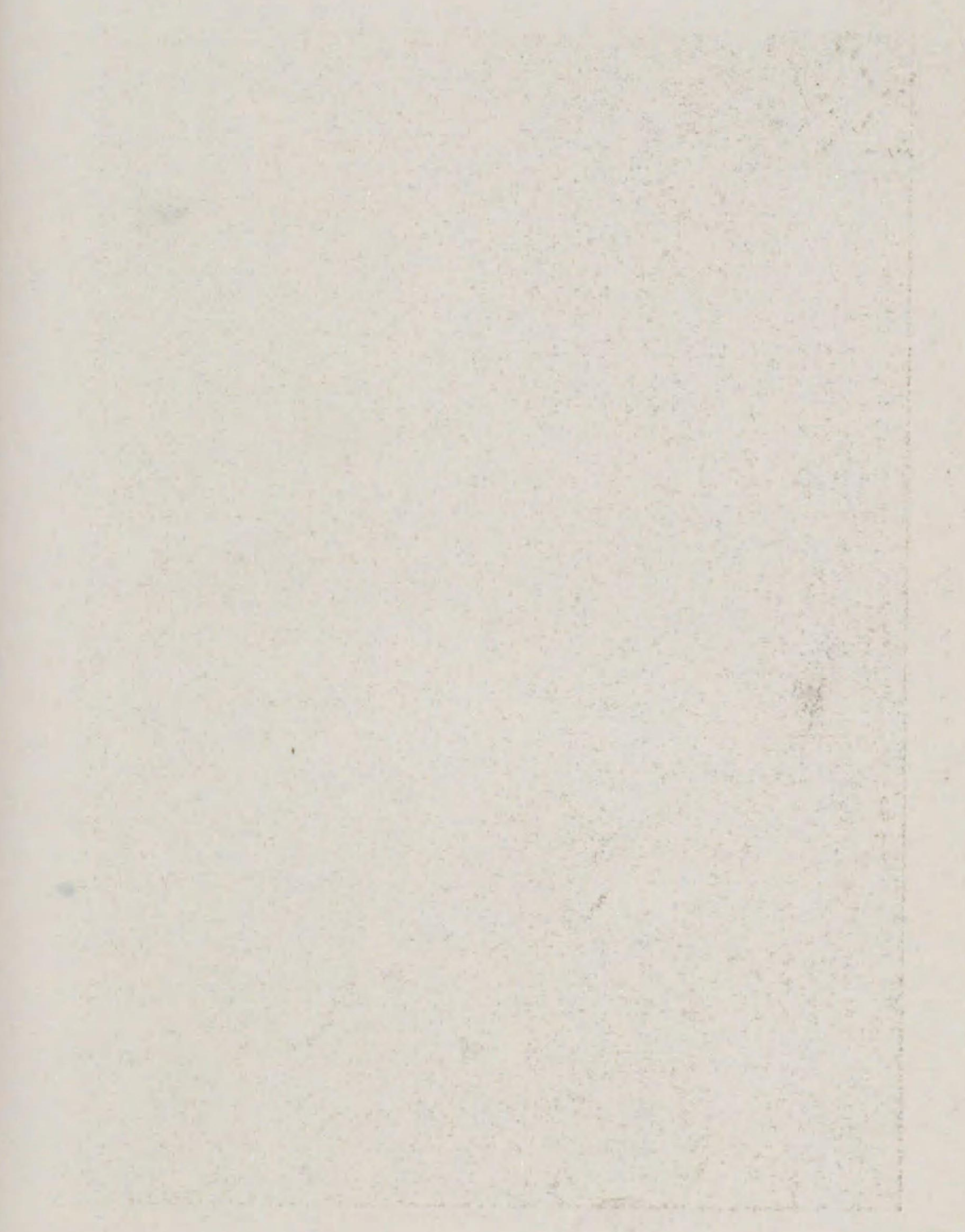


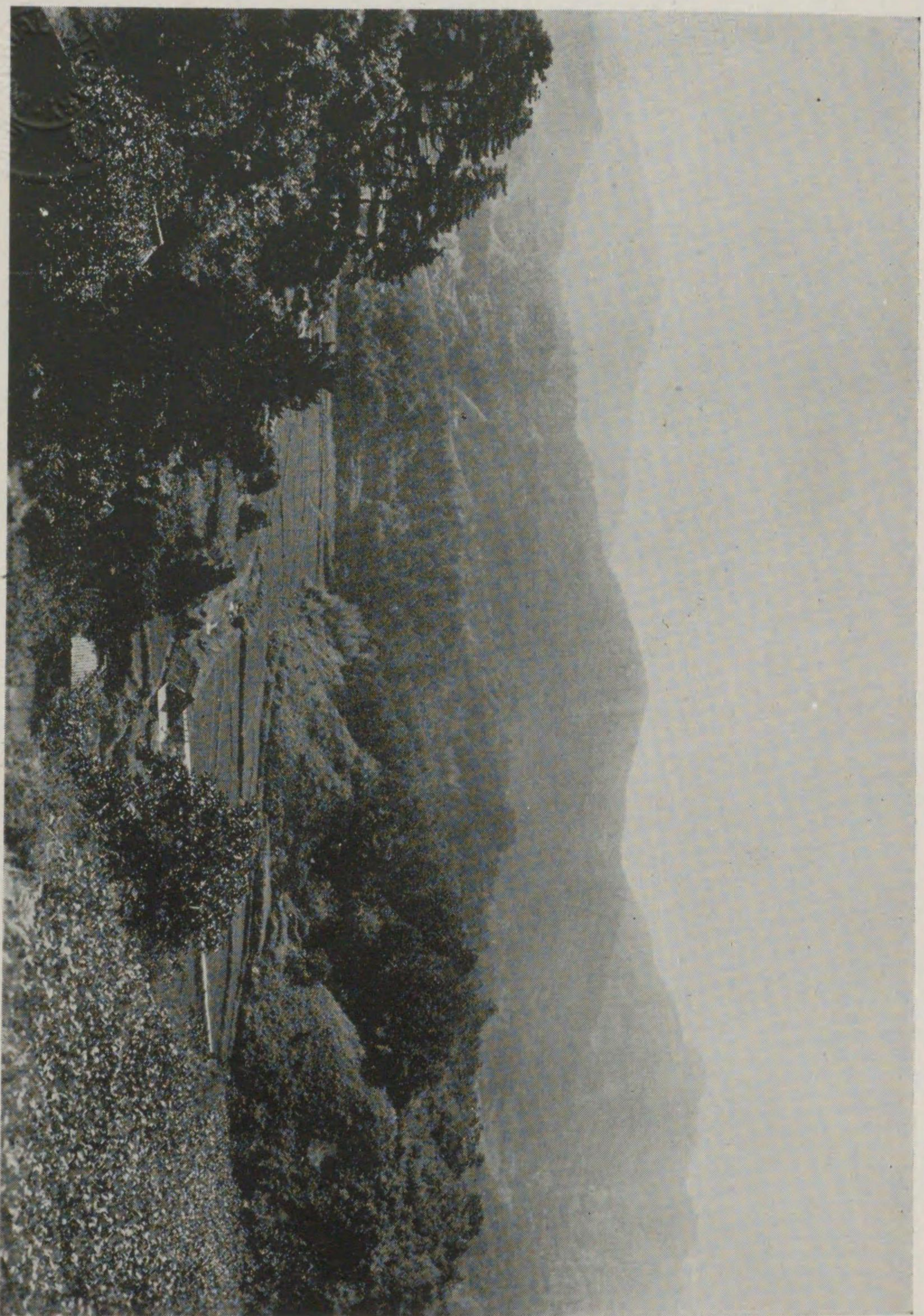


社 神 所 六 社 縣

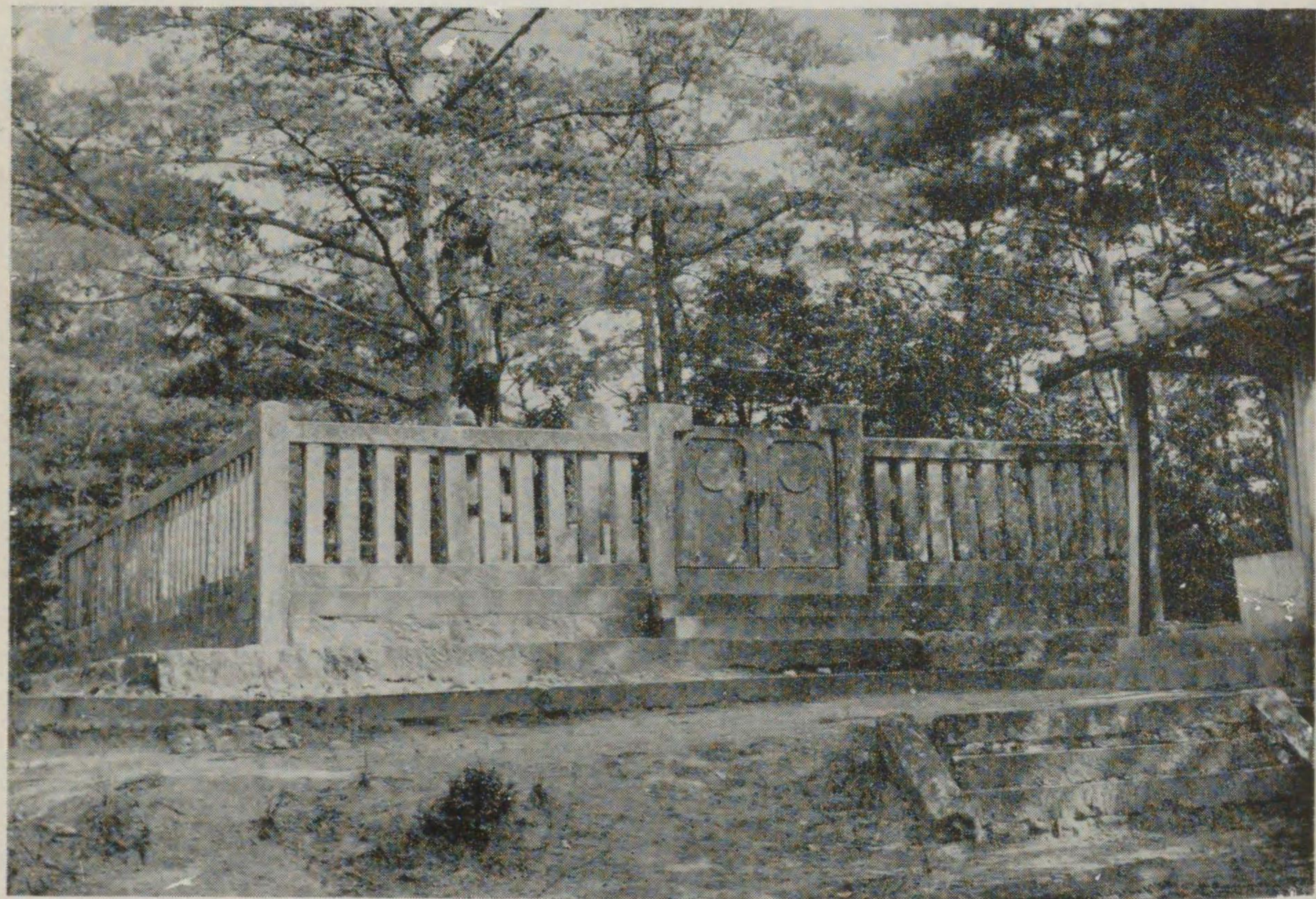


高月院





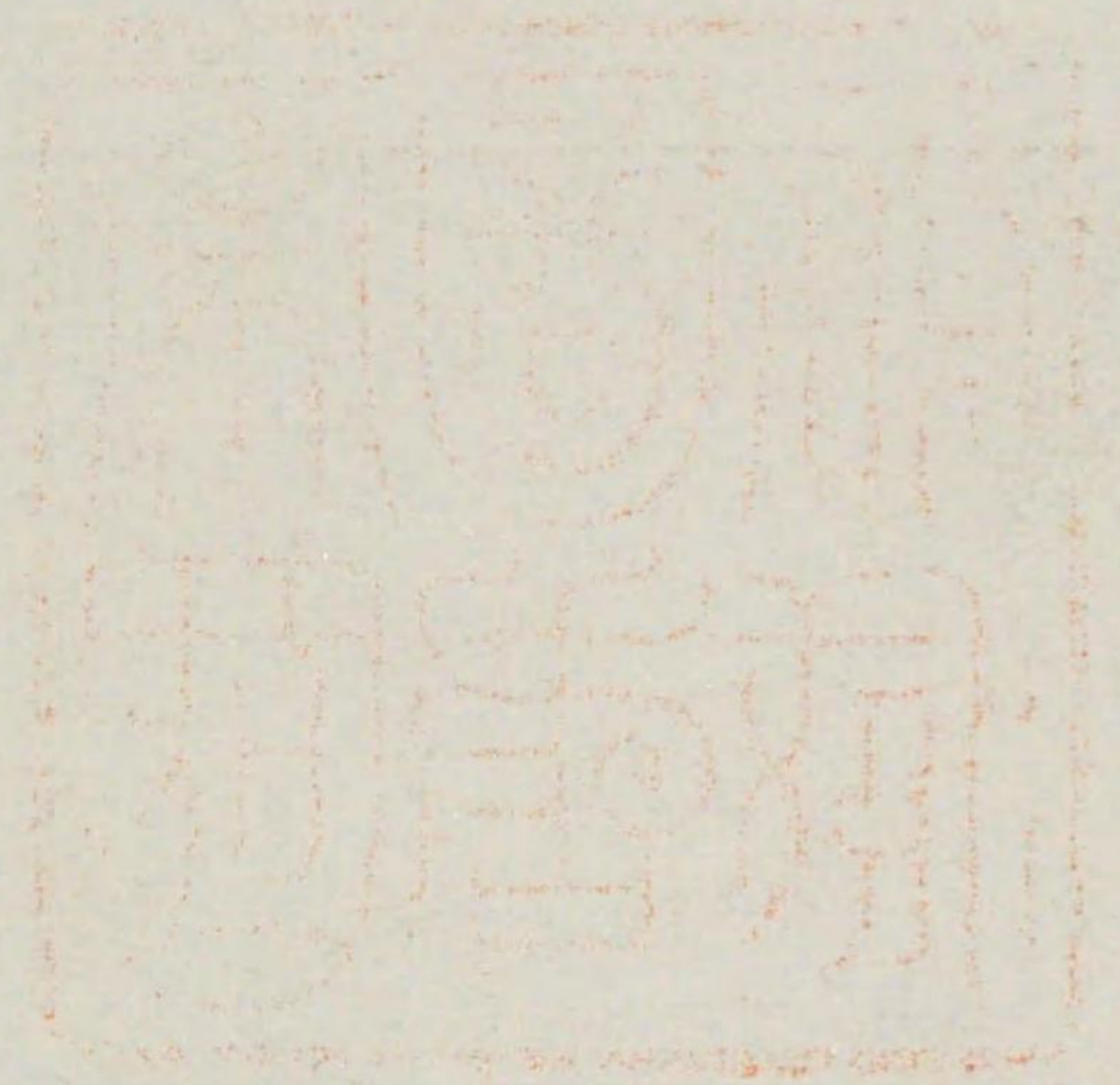
六所山炮烙山遠景



大 給 城 址



石 號 名



第一編 自然誌

第一章 境域面積

我が松平村ハ東加茂郡ノ西南隅ニ位シ東ハ本郡下山村ト境シ西ハ西加茂郡高橋村ニ接シ南ハ郡界川ヲ隔テ、額田郡岩津町及常磐村ニ界シ北ハ本郡盛岡村ニ連ル。幅員ハ東西九、六軒、南北八、六軒ニシテ其ノ面積四七、八一平方軒アリ。

第二章 地勢及氣候

第一節 地勢

本村ノ地形ハ恰モ鴨ノ兩翼ヲ張リ吻ヲ開キテ翔ケルガ如ク赤石山系ノ餘派東ヨリ入り來リテ先ヅ炮烙、六所ノ二山トナリ一起一伏數派ニ分レテ村内ヲ走り更ニ東北ヨリ來レル一派ト共ニ地勢ヲナシ其ノ地勢恰モ人ノ掌ヲ開キタルガ如ク大小ノ河川多クハ東北ヨリ出デ、西南ニ環流シ指間ニ僅カノ平野ヲ生ズ則チ巴川沿岸平野、郡界川沿岸平野、瀧川沿岸平野、仁王川沿岸平野等其ノ主ナルモノナリ。

第二節 氣候

氣候ハ概ネ温和ナルモ地勢ノ關係上氣温ノ差ハ比較的大ナリ、極暑ノ八月ニハ攝氏三十五六度ニ昇ルコトアルモ、驟雨ノ屢々來ルアリ朝夕ハ清涼ナリ、極寒ノ一月ニハ零下二三度ニ降ルコトアリト雖モ、錯綜セル山脈ノ遮ギルアリテ寒風ノ甚シキモノナシ。

雨量ハ年內一、七〇〇耗ヲ上下シ、降雨日數モ五十日内外ヲ往復シ乾濕ツノ度ニ適ス。

降雪ハ年內僅々數回ニ過ギズ、積雪量モ一〇糎以上ニ達スルコト稀ニシテ、偶々山岳ノ北斜面ニ於テハ降雪後二三日殘雪ヲ見ルコトアリ。

風位ハ季節風ノ影響ニヨリ冬季ハアジヤ大陸方面ヨリ來ル北西風多ク、六月以降ハ太平洋方面ヨリ來ル南東風多シ。コノ温暖ニシテ濕潤ナル風ハ所謂梅雨時期ヲナスモノナリ。

九月上旬季節風交代ノ時ニ於テ暴風豪雨ヲ來シ沿川ノ地ニ水害ヲ見ルコトアリ。霜ハ十一月上旬ヨリ四月上旬ニ終ルヲ例トス。

第三章 山、川、瀑布

第一節 山 岳

炮烙山 大字日明ニアリ、海拔六九一米本村第一ノ高山ニシテ遠ク名古屋方面ヨリ望見スルコトヲ得、全山概ネ灌木雜草ヲ以テ覆ヒ蕨、婀娜（オゴ）ヲ産ス、傾斜ナガラカニシテ山容炮烙ヲ伏セタルニ似タリ、往古日明山、白鹿山、保宇呂久山トモ書ケリ。

六所山 元吉木山ト稱ス、大字東宮口ニアリテ炮烙山ニ南隣シ海拔六〇六米、山上ニ縣社六所神社ヲ祀ル、參道及ビ山上ノ境内ハ老樹鬱蒼トシテ繁茂ス、遙ニ猿投山ト對峙シ尾三濃勢ノ平野ヲ一眸ニ收ムルコトヲ得。

天ヶ峰 大字仁王ニアリ、海拔三一五米、山麓ニ松平親氏カ天下平定ヲ祈リシ安全寺アリ。

城 山 大字大田ニアリ、海拔二九〇米、山嶺ニ古城趾アリ。

高根山 大字大津ニアリ、海拔二六九米ヲ有ス。

秋葉山 大字築山ニアリ、海拔三〇一、五一米往時頂上ニ秋葉神社ヲ祀レリ。

第二節 河 川

巴 川（乾流） 源ヲ南設樂郡巴山ニ發シテ本郡ヲ東北ヨリ流レ來リ本村ヲ貫流シテ

矢作川ニ注グ、河床低クシテ灌溉ノ利ハナケレドモ急流ヲ利用シテ發電所ヲ設ケ、九久平以南ハ舟筏ノ便アリ、又鮎ノ産尠カラズ。本村ノ流路一〇籽ヲ有ス。

郡界川（支流）源ヲ下山村東蘭ニ發シテ本村ノ南境ヲ流レ、大字中垣内ニ至ツテ巴川ニ合流ス、流程一二籽、沿岸ハ紡績製綿ノ業盛ニシテ大字瀧脇以降ハ殆ド間斷ナク水車ニ利用ス。

仁王川（支流）源ヲ盛岡村大字下平ニ發シ、大字日明、下屋敷ヲ經テ大字築山ニ至リ巴川ニ會流ス、沿岸ノ水田ヲ灌溉シ水車ノ經營ニ利スルコト多シ、大字歌石ノ地内ニ入ルヤ一大谿谷トナリ急湍奔流シテ大小ノ瀧相連鎖スルヲ見ル、延長七、二籽。

瀧川（支流）源ヲ大字松平ニ發シ大字九久平ニテ巴川ニ合ス、水車ニ利用シ灌溉ニ便スルコト多シ、延長五籽。

谷川（小支流）源ヲ大字松平ニ發シ大字下河内ニテ瀧川ニ合流ス。

第三節 瀑 布

二壘瀧 大字瀧脇ニアリ岩磐壘積スルトコロヲ激流落下シテ二層トナリ、上湍一〇米餘、下湍七米往時ハ水勢盛ニシテ壯觀ヲ極メシモ發電所ノタメニソノ水勢ヲ削

ギタリ。

女夫瀧 大字大津ニアリ瀑ハ女夫ノ二ニ分レ夫一〇米餘女約四米アリ。

大瀧 大字築山ニアリ仁王川谿谷ノ終ル所ニテ里傳ニ昔瀑下ノ淵ニ大蛇穴居スト今淵ノ岩石ニ八大龍王ノ字ヲ刻メルアリ。

不動瀧 大字東宮口六所山中ニアリ、俗ニオ瀧ト稱シ登山者ノ沐浴スルモノ多シ。

第一編 人文誌

第四章 沿革

里俗傳フ往昔日本武尊東夷ヲ征討シ給フトキ暫ク矢作川ノ邊リニ淹留シ矢筥ノ料ニ竹ヲ伐ラセ給ヒシニ里民等良キ竹ヲ擇ンデ奉リシカバ尊大イニ悦ビ吉キ木哉ト仰セ給ヒ即チ茲地ノ一帶ヲ吉木山ト稱フト（風土記）（羽田野柳神社考）

延喜ノ頃賀茂郡信茂郷ト書シハ下山郷ト號スルノ起原ナリト云ヒ（延喜式）（和名抄）三河守トシテハ大寶元年ニ許勢祖父ノ任セラレタルヲ初トシテ石上宅嗣、淡海三船、源宗干、紀淑光、大江維時、大江定基、藤原俊成、平賴盛、平知度、源範賴等ガアリ介ヤ掾トシテハ文屋康秀、平定文、大江朝綱ノ如キガアッタ（大日本史）鎌倉時代ニハ守護職ニ安達藤九郎盛長カアッタ（東鑑）文永ノ頃吉木刑部左衛門ガ之ヲ管セリト云ヘト（鹽尻）正史ノ徵スベキ無シ

興國中在原信盛京都ヨリ來ツテ此地ニ住シ永亨以後之ヲ領シ外下山、奥下山、松平郷、大給谷小川郷等ト稱シ（諸寺鐘銘）（棟札）松平氏之ヲ管シ、子孫大ニ勃興シ麾下ノ將士多ク此ノ地ニ輩出スルニ及ビ松平ニ松平泰親、長坂ニ長坂大炊、大給ニ

松平乘元、瀧脇ニ松平乘高、岩倉ニ岩倉隼人、天野麥右工門、戸田又久、中垣内ニ宇野安左衛門、赤原ニ松澤兵庫、九久平ニ鈴木市兵衛、本多主膳、林添ニ藪田忠元、歌石ニ松平新助、酒吞ニ鈴木日向等（梶氏碑文、二葉松、三河提、鈴木氏系譜）アリテ、前後互ニ押領私襲セシガ元和僣武ノ後徳川氏ノ治世ニ至リ、其ノ諸侯旗下ノ士ノ分知スル處トナリ屢々移領轉封ノ事アリシト雖モ明治維新前ニ於ケルモノ概ネ次ノ如ク而シテ天下ノ侯伯ヲシテ松平ノ稱號ヲ唱ヘシメシモ實ニ此ノ地ノ名ナリ。

（武鑑）

治政ハ領主ニ依リ相違アリテ一様ナラサルモ各村庄屋又ハ名主一名、組頭一、二名、百姓代一名ヲ置キ五戸ヲ以テ一組トナシ相互ニ救濟セシメタルナリ。

明治二年六月廢藩置縣ノ際ニ於ケル領主及草高左之如シ

酒 吞 鈴木庄吉領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
酒吞村	三三、七九 <small>石</small>	重原縣	西野村ノ内	三〇、九二 <small>石</small>	重原縣
重田和村	九、九九	同			

吉 田（豊橋） 松平伊豆守領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
白瀬村	九〇、五五 <small>石</small>	豊橋縣	西野村ノ内	二四、八〇 <small>石</small>	豊橋縣

九久平 鈴木清之助領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
西野村ノ内	七八〇 <small>石</small>	重原縣	桂野村	一四、九四 <small>石</small>	重原縣
二本木村	五、六一	同	川向村	六、二六	同
九久平村	三五、一〇五	同			

大 島 石川伊豫守領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
六ッ木村	九、七〇 <small>石</small>	伊那縣	正作村	二、一〇三 <small>石</small>	伊那縣
赤原村	二八、四〇六	同	真垣内村	五、四五	同

岩倉 内山ノ内組分	二〇八、九一九 一六、三九	同	篠平村	二六、七〇	同
梶立村	二、二五七	同	日明村	九、四〇四	同

奥殿 大給恒領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
中村	七、二四三	伊那縣	茅原村	五、〇一四	伊那縣
中垣内村	一五、七四四	同	大津村	五、〇〇〇	同
七賣村	八、二〇四	同	二口村	三、八〇〇	同
大給村	五、二四四	同	所石村	三、三九三	同
大楠村	五、一七二	同	下屋敷村	五、〇九七	同
椿木村	六、〇二二	同	杉木村	五、二九七	同
歌石村	七、五九九	同	仁王村	八、〇一〇	同
大田村	八、九九九	同	宮口村	一〇、三三三	同

瀧脇 松平數馬領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
瀧脇村	一四、二八二	伊那縣	鍋田村	九、三四	伊那縣
西大沼村	四〇、七三三	同	曲リ村	三、五三三	同
遊平村	四、八四〇	同	羽明村	八、四八八	同

松平 松平太郎領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
林添村	二、三、八三〇	重原縣	松平村ノ内	二、七、三六〇	重原縣

下河内 中根讚岐守領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
下河内村	二、五、九三六	重原縣			

築山 妙昌寺領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
築山村	二〇、五九三	伊那縣			

松平 高月院領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
松平村ノ内	一〇三、五八 ^石	重原縣			

松平 長福寺領

村名	草高	新置縣名	村名	草高	新置縣名
松平村ノ内	九、八六 ^石	重原縣			

松平 百姓給與地

村名	草高	新置縣名	松平村合計二八三 ^石 〇九二		
松平村ノ内	五、二六 ^石	重原縣			

合計草高 四、二二六^石六〇四

引用書各部落ニ付キ調査セシモ不明ナル部落ハ郡誌ニ依ル

明治五年一月ニ至リ之等ノ諸縣ヲ合シテ額田縣トナシ第四大區ニ屬シ明治五年十一月更ニ愛知縣ノ所管トナリ第八大區第六小區ニ屬ス。

慶長中築山村ヲ割キテ梶立村アリ、寛永以後ニ鍋田村ヲ割キテ曲リ村アリ、長坂村ヲ大給村ニ合セ、圓川村ヲ中垣内村ニ併セ、瀧脇村ノ内日影澤田ヲ額田郡ニ移シ、明治十一年十二月二十日遊平大沼ヲ長澤村ト稱シ、明治七年篠平ヲ南篠平、宮口ヲ東宮口ト稱シ、西加茂郡ニアルモノト區別セリ。

古書ニ荻生ハ所謂大給ニシテ、小井沼又ハ西大沼ハ大沼、椿井木ハ椿木、九鬼平ハ九久平、七折ハ七賣、林澤連ハ林添ナリ。(慶長水帳)(元祿郷帳)(明治七年調査記)

明治十一年十二月區制ノ廢セラレ、ヤ戸長役場ヲ九久平、桂野、瀧脇、赤原、岩倉、松平、日明、眞垣内、仁王、大楠、酒吞、重田和、西野等ノ各所ニ置キ以テ其近傍ノ村治ヲ執リシガ、明治十七年七月組役場ヲ置カレ第二組役場ヲ重田和村ニ置キ則定、霧山、酒吞、白瀬、重田和、西野、二本木、六ツ木、赤原、岩倉ヲ管區域トシ。

第三組役場ヲ九久平村ニ置キ九久平、中、中垣内、桂野、川向、七賣、瀧脇、長澤、林添、下河内、大給、鍋田、曲リヲ區域トス。

第四組役場ヲ仁王村ニ置キ大楠、築山、梶立、椿木、歌石、大田、茅原、羽明、

大津、二口、下屋敷、所石、杉木、仁王、正作、東宮口、真垣内、南篠平、日明、下平、岩谷、松平ヲ區域トシタリ。

明十八年五月組役場ヲ廢シ戸長役場ト稱ス。

明治二十二年十月、町村制ノ實施ニ際シ則定、霧山、酒吞、白瀬、重田和、西野、二本木ヲ穂積村ト稱シ六ツ木、赤原、岩倉ヲ志賀村ト稱シ組合役場ヲ重田和ニ置キ九久平、中村、中垣内、桂野、川向、七賣、瀧脇、長澤、林添、下河内、大給、鍋田、曲リヲ小川村ト稱シ役場ヲ九久平ニ置キ大楠、築山、梶立、大田、茅原、椿木、歌石、羽明、大津、二口、下屋敷、所石、杉ノ木、仁王、正作、東宮口、真垣内、南篠平、日明、岩谷、下平ノ諸村ヲ合セテ豊榮村ト稱シ松平村ト組合役場ヲ正作ニ置キ村政ヲ行ヒシガ明治三十三年四月十三日穂積村志賀村組合ヲ解除シ、全月二十三日志賀村役場位置ヲ全村大字岩倉ニ定メ全月三十日穂積村役場位置ヲ全村大字霧山ニ定ム、更ニ明治三十九年四月町村合併ノ縣令ニ基キ、小川村、志賀村、松平村、豊榮村、穂積村ヲ廢シ其區域（豊榮村ノ内、大字岩谷下平ヲ除キ、穂積村ノ内大字則定霧山ヲ除ク）ヲ以テ新ニ松平村ト稱シ役場位置ヲ九久平ニ定メ五月一日ヨリ事務ヲ執レリ。

第五章 行政區域

本村區域ハ從來志賀、穂積、小川、豊榮、松平ノ五ヶ村ナリシガ明治三十九年合併ノ結果、現今ノ松平村トナレルモノニシテ左ノ四十一大字ヲ有ス。

酒吞	重田和	白瀬	西野	二本木
六ツ木	赤原	岩倉	九久平	中
中垣内	桂野	川向	七賣	瀧脇
長澤	林添	下河内	大給	鍋田
曲リ	築山	大楠	梶立	椿木
歌石	大田	茅原	羽明	大津
二口	下屋敷	所石	杉木	仁王
正作	東宮口	真垣内	南篠平	日明
松平				

第六章 戸數及人口

明治四十年以後ニ於ケル戸數及人口

年次	戸數	現住人口		計	在籍人口
		男	女		
明治四十年	一七四 _戸	二九五 _人	二九〇 _人	五八六 _人	在籍人口 シ無料資ルタシ查調ヲ籍在
明治四十一年	一七三	三〇八	三〇五	六〇八	
明治四十二年	一六六	三〇六	二九五	五九六	
明治四十三年	一六六	三〇六	三〇二	六〇七	
明治四十四年	一六二	三〇五	三二二	六二六	
大正元年	一六〇	三〇五	三三九	六四四	
大正二年	一五〇	三二七	三二九	六四六	
大正三年	一六二	三四九	三六五	六三四	
大正四年	一五〇	三七九	三九七	六四七	
大正五年	一四八	三二五	三二四	六四三	

大正六年	一五〇	三八五	三四三	六二八	六五四
大正七年	一五〇	三六二	三三〇	六三九	六五七
大正八年	一五一	三六一	三二八	六四七	六六二
大正九年	一四五	三八二	三二四	六四九	六七三
大正十年	一五〇	三八六	三〇五	六三九	六七五
大正十一年	一六〇	三二六	三三五	六四一	六八七
大正十二年	一六一	三二七	三三九	六四六	六九一
大正十三年	一五八	三二三	三三三	六四六	七〇二
大正十四年	一三五	二九九	二九七	五九三	七〇一
昭和元年	一三五	二九八	二九四	五九三	七一一
昭和二年	一四〇	二九一	二九三	五八三	七七八
昭和三年	一三九	二八八	二八四	五七五	七九五
昭和四年	一三六	二八九	二八七	五七三	七四三

昭和五年	二二六	二八三	二八七	五七〇九	七四六〇
昭和六年	二二六	二八三	二八三	五七四	七五六
昭和七年	二二六	二八六	二八三	五三九	七五〇
昭和八年	二二五	三〇四	二九一	五九五	七七二
昭和九年	二五一	三〇四	二九八	五九二	七八五〇
昭和十年	二〇四	二九四	三〇六	六〇〇	七八六

第七章 諸官公衙

一、松平村役場

本村役場ハ大字九久平字荒井拾五番地ニアリ、今合併以來ノ村長、助役、收入役及村會議員ノ氏名ヲ舉グレバ左ノ如シ。

村長名	在職年	在職年數
小幡計之助	自明治三十九年八月一日 至明治四十年五月十日	九ヶ月
中根隣治	自明治四十年五月十一日 至明治四十三年十二月三十一日	三年七ヶ月

助役名	在職年	在職年數
三田角太郎	自明治四十四年一月十一日 至大正二年九月十五日	二年八ヶ月
中根隣治	自大正二年九月二十日 至大正八年一月二十二日	五年四ヶ月
宇野鎗太郎	自大正八年一月二十六日 至昭和三年十二月三日	九年十一ヶ月
小幡計之助	自昭和三年十二月七日 至昭和六年十二月二日	三ヶ年
宮川鎡三郎	自昭和六年十二月七日	現在
中根隣治	自明治三十九年八月三十一日 至明治四十年五月十日	九ヶ月
宇野專一郎	自明治四十年六月六日 至明治四十年八月十九日	二ヶ月
宇野釘三郎	自明治四十年十月一日 至明治四十四年三月二十日	三年五ヶ月
深津藤作	自明治四十四年四月十五日 至大正四年二月二十八日	三年十ヶ月
宮川鎡三郎	自大正四年三月十二日 至大正十一年五月二十四日	七年二ヶ月
佐藤貞五郎	自大正十一年六月二十八日 至大正十二年十一月二十六日	一年五ヶ月
宮川鎡三郎	自大正十二年十二月七日 至昭和六年十二月六日	八ヶ年
鈴木越三郎	自昭和六年十二月十日 至昭和十年十一月三日	三年十一ヶ月
加藤伊三郎	自昭和十年十一月二十六日	現在

收入役名	在職年數	在職年間
平岩桑三郎	自明治三十九年八月二十三日 至明治四十年三月九日	八ヶ月
奥平俊五郎	自明治四十年三月十日 至大正三年五月三十一日	七年二ヶ月
加藤伊三郎	自大正三年六月一日 至昭和十年十一月二十六日	二十一年五ヶ月
奥村元太郎	自昭和十年十二月十四日	現在

議 員

第一回 明治三十九年七月十五日就職

三田角太郎 (重田和)	築瀬清松 (日明)	古川安太郎 (瀧脇)
宇野專一郎 (赤原)	加藤文五郎 (大給)	黒柳鞆三郎 (九久平)
奥村半次郎 (大津)	菅沼録造 (九久平)	中根隣治 (提立)
鶴見文五郎 (岩倉)	酒井重五郎 (東宮口)	深津鈴太郎 (三口)
鈴木惣次郎 (松平)	宮本六太郎 (桂野)	宇野左一郎 (下河内)
宇野釘三郎 (岩倉)	小幡彦三郎 (中垣内)	三浦鉄二郎 (白瀬)

第二回 明治四十二年七月十五日就職

黒柳鞆三郎 (九久平)	大原友次郎 (川向)	加藤桂次郎 (林添)
中泉清七 (大津)	築瀬清松 (日明)	下林乙吉 (九久平)
酒井重五郎 (東宮口)	深見兎毛作 (松平)	深津鈴太郎 (三口)
鈴木久平 (西野)		

補 缺 明治四十二年九月三十日就職

鈴木實太郎 (六ッ木)	佐藤貞五郎 (酒吞)	柴田由五郎 (長澤)
深津金作 (曲リ)	杉山鎗太郎 (岩倉)	成田健太郎 (岩倉)

第三回 明治四十五年七月十五日就職

中根麻次郎 (中)	築瀬清松 (日明)	成田健太郎 (岩倉)
吉田鉄二郎 (二本木)	鈴木桂五郎 (鍋田)	加藤桂次郎 (林添)
宮川鉄三郎 (桂野)	宇野專吉 (岩倉)	佐藤貞五郎 (酒吞)
荒井幸四郎 (九久平)	深見兎毛作 (松平)	高木清吉 (真垣内)
中根伊之作 (七賣)	中根鉄五郎 (下屋敷)	鈴木實太郎 (六ッ木)
宇野恒助 (中)	鈴木熊十 (築山)	梶田信太郎 (赤原)

第四回 大正五年七月十五日就職

宮川鏝三郎 (桂野)	石倉藤吉 (六ッ木)	吉田鏝三郎 (二本木)
太田新 (仁王)	黒柳藤吉 (九久平)	鈴木兼吉 (白瀬)
佐藤貞五郎 (酒呑)	深津藤作 (曲リ)	蟹金九郎 (椿木)
大橋小市 (林添)	鈴木惣次郎 (松平)	成瀬信好 (茅原)
河合壽五郎 (大楠)	宇野專一郎 (赤原)	宇野專吉 (岩倉)
加藤文明 (九久平)	青山藤太郎 (中垣内)	神谷善浪 (瀧脇)

第五回 大正九年七月十五日就職

宇野左一郎 (下河内)	鈴木實太郎 (六ッ木)	鈴木兼吉 (白瀬)
柴田梅三郎 (林添)	中泉精一郎 (九久平)	浦野立作 (東宮口)
鈴木越三郎 (歌石)	成瀬信好 (茅原)	河合長二郎 (岩倉)
成田兵太郎 (岩倉)	黒柳柄三郎 (九久平)	宮川鏝三郎 (桂野)
大原友次郎 (川向)	青山藤太郎 (中垣内)	小野田豫三郎 (大給)
鈴木銀五郎 (南篠平)	中根隣治 (提立)	吉田鏝三郎 (二本木)

第六回 大正十三年七月十五日就職

宇野由三郎 (中垣内)	寺澤和三郎 (杉木)	宇野專一郎 (赤原)
-------------	------------	------------

築瀬新八郎 (九久平)	築瀬清松 (日明)	吉田鏝三郎 (二本木)
鈴木惣次郎 (松平)	青木鈔市 (大田)	小野田増太郎 (九久平)
鶴見新八郎 (岩倉)	伊藤鑄一 (所石)	梶本峯三郎 (酒呑)
鈴木滿以知 (築山)	成田兵太郎 (岩倉)	高倉藤九郎 (桂野)
加藤角三郎 (九久平)	伊豫田吉五郎 (九久平)	深津藤作 (曲リ)

第七回 昭和三年七月十五日就職

大原周吉 (川向)	梶本峯三郎 (酒呑)	伊藤當太郎 (岩倉)
吉田鏝三郎 (二本木)	築瀬信治 (九久平)	深津英四郎 (九久平)
鈴木越三郎 (歌石)	寺澤和三郎 (杉木)	今井貞次 (中垣内)
小野田豫三郎 (大給)	伊藤鑄一 (所石)	高木清吉 (眞垣内)
成田兵太郎 (岩倉)	河合源之進 (羽明)	鈴木實太郎 (六ッ木)
古川安太郎 (瀧脇)	鹿嶋鹿太郎 (九久平)	加藤常太郎 (松平)

第八回 昭和七年七月十五日就職

三浦鏝二郎 (白瀬)	深津鈴太郎 (二口)	宇野喜作 (下河内)
鈴木實太郎 (六ッ木)	寺澤和三郎 (杉木)	今井貞次 (中垣内)

古川安太郎 (瀧脇)	伊藤當太郎 (岩倉)	鈴木文平 (築山)
原田銀一 (日明)	宇野善九郎 (岩倉)	板倉祐作 (九久平)
高倉藤九郎 (桂野)	鈴木惣次郎 (松平)	青木鈔市 (大田)
黒柳久雄 (九久平)	大橋小市 (林添)	竹内善長 (鍋田)

第九回 昭和十一年七月十五日就職

荒井半三郎 (九久平)	柴田銀次郎 (九久平)	杉本嘉市 (東宮口)
鈴木重三郎 (松平)	鈴木越三郎 (歌石)	大原鑛吉 (川向)
鈴木銀五郎 (南篠平)	鹿嶋鹿太郎 (九久平)	古川安太郎 (瀧脇)
鈴木實太郎 (六ツ木)	伊東重平 (九久平)	岡野幾三郎 (大楠)
三浦鎗太郎 (岩倉)	足立孝之助 (岩倉)	森幸太郎 (酒呑)
三田錠太郎 (重田和)	宇野鏡一 (中垣内)	大橋小市 (林添)

二、巡査部長派出所及駐在所

巡査部長派出所ハ九久平ニアリテ松平村、下山村、ノ巡査駐在所ヲ管轄シ巡査駐在所ハ九久平、下屋敷ノ二ヶ所ニアリシガ昭和九年二口ニ新築シテ下屋敷ヨリ移轉シ二口駐在所トナリ何レモ警察事務ヲ分掌ス、其ノ受持大字名ヲ左ニ列記ス。

九久平巡査駐在所

松平村ノ内 酒呑、重田和、白瀬、西野、二本木、六ツ木、赤原、岩倉、九久平、中、中垣内、桂野、川向、下河内、大給、鍋田、曲リ

二口巡査駐在所

松平村ノ内 七賣、瀧脇、長澤、林添、松平、日明、眞垣内、東宮口、南篠平、正作、仁王、杉木、所石、大楠、下屋敷、提立、椿木、築山、歌石、大津、大田、二口、茅原、羽明

三、松平郵便局

大字九久平ニアリ其ノ創設ハ明治十二年十月十六日九久平郵便局 (五等) トシテ同地五十一番屋敷ニ設置セシヲ始トス、其ノ集配區域ハ五十七ヶ村ナリキ、當時ハ東大沼局ト舉母局トノ中繼局タリ。

明治十八年一月一日ヨリ貯金事務ヲ、明治二十五年一月一日ヨリ爲替事務ヲ、明治三十一年二月一日ヨリ小包ノ各取扱ヲ開始ス、明治四十二年六月一日松平郵便局ト改稱ス、大正八年三月六日ヨリ電信、電話ヲ、昭和六年二月十一日ヨリ電話交換ヲ開始セリ、歴代ノ局長左ノ如シ。

明治十二年十月十六日ヨリ 下林甚五郎 明治二十五年五月九日ヨリ 鹿島甚八郎
 明治四十三年四月十一日ヨリ 鹿島鹿太郎 大正二年二月十九日ヨリ 中根金造
 大正十年八月二十九日ヨリ 奥平俊五郎 大正十三年十一月十四日 奥平釘作

第八章 産業及産物

一、農 業

(大正六年ノ統計ニ依ル)

本村生産ノ主ナルモノハ農業ニシテ全戸數ノ六割強ハ之ヲ營ム、而シテ其ノ耕地ハ土地總面積ノ約二割八分ニ過ギズ即チ

土地總面積	耕地面積	耕地ノ土地總面積ニ對スル百分ノ比
二四七一、五町	畑田 四一四七反 二九〇七反	二八、五

而シテ其ノ耕地タルヤ、多クハ山間谿谷ニアリテ、平田トテハ極メテ少ク、所謂棚田トシテ各所ニ散在ス、土質又花崗岩ノ碎末ヲ基トセルアリ、粘土質ヲ基トスルアリテ、實ニ灌溉、排水ニ不便ヲ來シ大部分ハ沼田ト稱シ一毛作田ニシテ二毛作田ノ如キハ十分ノ一ニモ過ギズ。

今兩者ノ反別ヲ示セバ左ノ如シ

一毛作田	三六七、五町	稻 植 付	三八六、二町
二毛作田	四七、二町	其 他	二八、五町

今ヤ農會ノ指導宜シキヲ得テ漸次美田良圃ヲ見ルニ至ルベキモ未ダ一般農家ニアリテハ舊來ノ習慣ヲ墨守シテ之レガ改良ヲナスノ思想ニ乏シク其ノ耕作ノ如キニ至ツテハ人力ヲ更ニ吝マズ文明ノ農具ヲ利用シテ、大農ヲ企圖スルモノ更ニ無シ故ニ耕地ノ割合ニ農産物ノ收穫少ク村當局之ヲ憂ヒテ種々ノ方法ヲ以テ斯道ノ改良發展ヲ講ジツ、アリ、本村農業家ニアリテ遺憾トスベキハ柴草ヲ刈ル者尠クタメニ窒素肥料タル堆肥厩肥ヲ作ルコト能ハズ、年々其ノ補充策トシテ高價ナル金肥ヲ購入シテ施肥シツ、アリ、故ニ土質ハ年一年ト瘠土トナルノ傾向アリ、サレド近來改良進歩セル點ヲ示セバ

(イ) 種子撰擇 從來米麥ノ種子ハ一般ニ簸撰ヲナシ普通ノ水ニ浮シテ、其ノ浮キタルモノヲ除キタル位ニ留マレルモ近來ハ如何ナル農家ニアリテモ塩水撰ヲ行ハザルモノナキニ至レリ。

(ロ) 稻苗代田 之レ舊來ハベタ蒔ト稱シ苗代一面ニ蒔キタルガ、今ヤ殆ンド其跡ヲ

絶チ四尺巾ノ短冊苗代トナレリ、之ガタメ水ノ掛引、除草、害虫驅除等ニ至大ノ便ヲ與ヘ從テ健全ナル苗ヲ仕立ツルニ至レリ。

(ハ) 肥料 土壤ヲ改良セントスルニハ柴肥ヲ第一トスレドモ前ニ説ケル如キ状態ニテ年々補肥、元肥トシテ、練粕、大豆粕等ノ輸入多キハ大ニ憂フベキ所ナリ、サレド近來堆肥、厩肥等ノ獎勵急ナルヲ以テ覺メタル農家ニアリテハ之等肥料ヲ製造シツ、アルモノ少カラズ。

(ニ) 病虫害豫防 古ハ稻作等ニ病虫害發生スル時ハ之レ本年ハ天候惡シキタメナリ氣温穩ナラズ即チ凶作ナリト稱シテ、更ニ豫防驅除ノ方法ヲ講究セズ甚ダシキモノニ至ツテハ太鼓、鐘ノ類ヲ打チ鳴ラシテ害ヲ送ルナリト稱シ大聲ニ謳歌シツ、行列ナドナス所モアリシガ近來ハ農會ノ設置サル、ヤ豫メ其驅除ノ方法ヲ指導シ一朝病虫害ノ發生ヲ見ルヤ共同一致シテ驅除シ又小學生徒等ニモ採卵、害虫驅除、麥奴拔取等ヲ獎勵シ孜孜トシテ、豫防策ヲ講ズルヲ以テ、流石ノ害虫モ病因モ其ノ暴ヲ逞シウスルコト能ハザルニ至レリ。

二、農産物及生産額

農業ノ進歩改良ニ伴ヒ年々其ノ生産額ヲ増進シツ、アル傾向ハ喜ブベキナリ。

然ルニ今ヤ時勢ノ推移ニ依リ麥圃ハ變ジテ桑園ト化シタルタメ其ノ生産額ヲ減ジタルコト多大ニシテ年々他町村ヨリ輸入ヲ仰ガザルベカラザルニ至レリ今左ニ大正六年中ニ於ケル農産物ト其ノ生産額トヲ舉ゲテ參考ニ供セン

種別	作付反別	産額	價格
粳米	三六一町 三〇畝	四五七五〇斗	九一五〇〇円
糯米	二四九〇	二七一〇	五六九一
陸米	四〇	三〇	五七
大麥	四〇〇	四七七	三八二
小麥	八四九〇	五四四五	七〇七九
裸麥	一一六四〇	一〇三四〇	一一五八二
大豆	一一二〇	七七〇	一一五五
小豆	六二〇	三五〇	七〇〇
粟	二三〇	一八〇	三六〇
藜	一〇〇	九〇	二一六

三、農家ノ副業

(イ)

養蠶業 古ハ三河一帯養蠶業盛大ナリシト傳フルモ中世以來久シク衰ヘタリシガ現時再ビ勃興シ本村モ又大ニ蠶業ヲ注視シ苟モ耕鋤シ能フベキ地ハ何レノ地ヲ撰バズ拓イテ以テ桑園トナシ尙ホ足ラズシテ米田麥圃ヲ變ゼシメテ桑樹ヲ栽培シ盛ニ養蠶業ヲ營ミツ、アリ、今本村ニ於ケル桑園及ビ桑葉ヲ示セバ左ノ如シ

蒟蒻芋	茄子	葱	菜類	南瓜	西瓜	其他瓜	午莠
一	二	一	一	二	三	九	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	一	二	二	四	六	二	二
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三	一	一	二	七	五	七	二
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八	二	八	七	七	五	七	二
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五	二	三	四	五	九	〇	四
一	六	九	五	六	七	〇	八
一	七	六	九	六	七	〇	八
五	二	六	九	六	七	〇	八

蕎麥	玉蜀黍	豌豆	蠶豆	菜種	甘諸	馬鈴薯	茶	蘿蔔	燕菁	胡蘿蔔	薑	芋
一	一	六	二	一	一	九	七	二	三	九	四	三
四	〇	〇	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	五	四	六	四	一	三	二	七	一	六	七
三	〇	〇	二	六	一	六	二	〇	二	六	〇	八
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	五	三	三	三	八	一	三	一	五	一	六
四	八	〇	四	〇	二	〇	〇	〇	二	七	二	六
三	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	五	三	三	三	八	一	三	一	五	一	六
四	八	〇	四	〇	二	〇	〇	〇	二	七	二	六
三	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	五	三	三	三	八	一	三	一	五	一	六
四	八	〇	四	〇	二	〇	〇	〇	二	七	二	六
三	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

畑	田	桑園	桑葉
一〇七七	二五三		八六七〇
			〇〇
			二五一五〇〇

而シテ大正六年度ニ於ケル養蠶ノ現況ヲ示メセバ

種別	掃立枚數	産額	價格
春蠶	六五九枚	一〇〇一四	七一・二九六
夏蠶	九三	九一九	七九・一七
秋蠶	一四五〇	一六六四四	一二〇・五九六

之等蠶種ハ多クハ輸入品ニシテ本村内ノ蠶種製造家ハ僅カニ三戸一〇八五〇枚ニシテ其ノ上グル金額八千五百圓ナリ。

(ロ) 牧畜業 (家畜及家禽)

本村家畜ノ微々タルハ實ニ驚クベキモノニシテ全戸數中飼養スルモノ僅カニ百分ノ十五ニ過ギズ其微々タル原因多クアレドモ今其ノ一二ヲ舉グレバ耕地狹隘ナル

タメ人力耕作ヲ主トスルコト、牧草ヲ得ル柴山無キコト、肥料トシテ人糞ヲ施用スルコト、土地ノ割合ニ人口多ク耕作ニ動物ヲ使役スル機會少キコト、巴川ノ舟運便ニシテ運搬用トシテ牛馬ヲ使用スルコト割合ニ少キコト等重ナル原因ヲナセルガ如シ。養鶏ハ近年著シク發展セシト雖モ尙飼養者全戸數ノ三分ノ一ニ過ギズ之等牧畜ハ農家ノ副業トシテ最モ適當ニシテ勞少ク利多キ業ナレバ益々其ノ隆盛ヲ圖リ社會ノ需要ヲ充スベク心掛クベキコト目下ノ急務ナリ。今大正六年末ニ於ケル家畜及家禽ノ情況ヲ示セバ左ノ如シ。

種別	牛		馬		飼養戸數	成禽	價格	産卵	價格
	牝	牡	牝	牡					
内國産	三一	三三	五一	三四	四〇一	一四一二	一四一二	一六五〇〇〇	三三〇〇
外國産	一	—	—	—	—	—	—	—	—
雜種	七	二五	—	—	—	—	—	—	—
年内出産	二	三	—	—	—	—	—	—	—
年内斃死	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(ハ) 園藝業 當地方ニテ果樹類中最モ適當セルモノハ柿ナルベシ、何レノ農家ニ至ルモ數本ノ柿ヲ植栽セザルナシ、尙ホ荒地ヲ利用シ又ハ宅地ノ空所ヲ利用セバ不知ノ間ニ大ナル收入ヲ得ルニ至ラン、今本村ニ於ケル果樹類ヲ表示セバ左ノ如シ

種別	植栽本數	産額	價格
蜜柑	二八四本	七六八圓	三〇七圓
柿	一六七五	一九六一圓	一五七〇
桃	二六	一二	四
梨	一一三	六三	一九
梅	五九二	一二九圓	一六七七

(ニ) 藁細工業 農家ニ取リテ最モ大切ナル手藝ナレドモ之ヲ營ムモノ少ク年産額一千九百圓ヲ舉グルニ過ギズ。

(ホ) 林業 農家ノ副業中養蠶ト相俟チテ最モ大切ナルハ林業ナリトス、而シテ本村ハ山又山、谷又谷ニシテ到ル所山岳重疊シ林業ニ適セザルハナシ、今本村山林ノ反別ヲ見ルニ土地總反別二千二百九十六町五反步中一千四百五十六町四反ニシテ

實ニ總面積ノ六割強ヲ占ム、而シテ之レガ所有別ヲ示セバ左ノ如シ。

種別	反別	種別	反別
村有	一七〇反	神社	二一反
寺院	二五三	私有	一四一二〇

尙ホ之等私有林中ヲ細別スレバ左ノ如シ。

種別	反別	種別	反別
用材林	三五〇反	薪炭林	一〇〇〇反
竹林	六二〇反	竹林	六二〇反

本村ノ山林ハ殆ンド天然林ニ屬シ、殊ニ美良ノ用材林ハ漸次伐採セラレ、老成林ハ其影ヲ絶ツニ至リ、濫伐ノ弊ナキニアラズト雖モ近來大ニ山林事業ヲ重視スルニ至リ、其伐採後直ニ造林ヲナスノ傾向ヲ生ジタルハ喜バシキ現象ナリ、幸ニ本村ガ有スル全山林ヲシテ殖栽ノ實ヲ舉グルヲ得バ其ノ利益益々計リ知ルベカラザ



ルモノアラン、唯山林ノ事業ハ短日月ニ其成果ヲ見ル能ハズシテ數十百年後ニ待
 タザルベカラザルヲ以テ其ノ重要ニシテ有利ナルヲ確認シツ、目前ノ收入アル薪
 炭林ヲ以テ満足シツ、アルハ遺憾ナリト云フベシ、然レドモ村當局大ニ願ミル所
 アリ、御大典紀念事業トシテ大ニ公有林ヲ整理シ模範竹林及村有林ヲ計畫シ着々
 造林中ナリ。因ニ本村ノ林産物ヲ舉グレバ左ノ如シ。

種別	量	價格
丸及角材	六二〇尺貫	一〇〇五〇圓
挽材	三一〇才	三二三〇圓
竹材	七四四五把	七九二三圓
石材	五四六八〇才	二九六八五圓
竹皮	八一〇貫	五七〇圓
割木	四八五柵	五八二〇圓
香料	二五八〇貫	二八五圓
諸菌類	六五〇斤	七一圓

木	六四九七貫	一〇七九圓
炭		

(大正七年三月末調)

四、水産業

漁業 漁業中ノ最タルモノハ鮎漁トス、我が巴川筋ノ鮎ハ其ノ香味甚ダ美ニシテ、
 彼ノ木曾、長良ノ産ニ優ルモ劣ルナシ、産額一ケ年二千圓以上ニシテ之ヲ漁スル
 ハ多クハ釣ト築トニヨル、釣ハ毎年六月一日ヨリ開始ス、之レニ従事スルモノ約
 五十有餘人、築ハ九月一日ヨリ開始シ現今ハ鍋田、大楠ノ二ヶ所ニアリ、其他鰻、
 鯉、鯰、鮠モ又捕獲セラル其ノ産額モ亦少カラズ。

因ニ我が巴川ニ於ケル築漁ハ遠ク慶長年間ヨリ行ハル、モノノ如シ、今舊記ニ
 依リテ之ヲ證センニ本村大字九久平菅沼家(舊地頭鈴木家 代官タリシ家)ニ右ニ關係セシ數多ノ
 書ヲ藏セリ、其ノ一節中ニ曰ク知行所山中之住居故魚物不自由可有之間右川筋
 江築掛魚取候様上意三人共重疊難有旨申上慶長七壬寅年ヨリ築掛魚取申候政重
 儀同九甲辰年十一月二十日四十四歳ニテ病死(下畧)云々トアリ。
 (コノ政重トハ麾下ノ士鈴木家二代目ノ祖鈴木市兵衛政重ニシテ、三人共トアル
 ハ則定ノ鈴木酒吞ノ鈴木及政重ノコトニシテ世ニ之ヲ三鈴木ト稱ス)偉人及墳

墓ノ條參照

爾後寛政七乙卯年八月ニ至リ菅沼源一ナルモノヲ目付役トシ築漁一切ノ事ヲ監視セシメラレタリ、當時同川漁業ノ權ハ一ニ右鈴木家ニアリタリ、村民若シ此ノ業ニ従事セントスルモノアル時ハ必ズ同家ニ願ヒ出デ許可ヲ得鑑札ヲ受ケ且ツ運上（鮎二百尾乃至三百尾）ヲ納ムルノ制ナリシナリト、其ノ築ヲ掛ケシト云フ、地ハ字名ヲ築場ト稱シ九久平ノ中ニアリ。
 今大正六年中ノ水産漁業額ヲ舉グレバ左ノ如シ。

種類	産	額	價	額
鮎		四五 <small>貫</small>	一八〇 <small>円</small>	
鯉		七四〇	二一一二	
ハ	へ	一三七	一六四	
鱒		三〇	四五	
鮠		四〇	八八	

計	其他
一〇六六	六二
二六八一	七四

(大正七年三月末調)

五、工業ト工産物

本村工業中其ノ重ナルモノハ製絲、紡績、製綿及織布等ニシテ今其ノ狀況ヲ示セバ左ノ如シ。

種別	箇	所	工男	女	數
生絲		一			八〇
紡績		五二			三四一
製綿		六			四八
織布		五			七三
瓦		一			二
合計		六五			五四四

(大正七年三月末調)

其ノ他加工業ハ各所ニ行ハルレド其ノ重ナルモノト生産額トヲ表示シテ本村工業ノ一斑ヲ窺知セン。

種別	製造戸數	生産額	價額
綿織物	五戸	一〇五四一〇 <small>反</small>	一〇六五〇 <small>五円</small>
綿絲	五二	二四九九九 <small>四貫</small>	五一九五三一
生絲	二	一一二〇	八六四一四
製綿	六	一九七七〇〇	一五八一〇〇
菓	三	—	五二〇
製氷	四	四一〇〇〇	三二八〇
切干	—	一一三	六二
干餛飩	六	一四四四	八〇〇
木製品	四	四二五	三七八
建具	三	八一〇	九五〇

種別	製造戸數	生産額	價額
履物	一	一九〇	二三〇
足袋	一	五〇〇	一二〇
竹細工	—	—	一一〇〇
鐵細工	三	一〇二七	九六七
瓦	一	一八〇〇	五四〇
漬物	—	一〇一二五	二五三一
干大根	七二	二一	七
素麵	五	三七八	二一〇
計			八八二二四五

(附) 紡績工業ノ沿革

明治十四年六月碧海郡本郷村ノ人鈴木逸治氏八十鍾紡績器械二臺ヲ携へ來リ本村大字桂野ニ於テ紡績事業ニ従事ス。之レ現今ニ至レルノ始メナリ鈴木氏ハ明治十五年百鍾ノ器械トナシ、越エテ十六年ニハ百二十鍾ノモノ四臺ヲ据へ付ケ漸次擴

張ニ努メラレシニ、十八年ニ至リ同地方ノ人々モ紡績業ノ有望ナルヲ認メ各所ニ工場ヲ新設シテ斯業開始ヲナス、明治二十二年ニ至リテハ事業益々興隆シ大字大給、築山、長澤、仁王、杉木、重田和ノ各所ニ起リタルモ綿打器ノ完全ナルモノナキ爲メ困難セリ、其後改良セラレタル綿打器ノ發明ニヨリ事業次第ニ發展シテ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ。

其ノ販路ニ至リテハ明治二十三年ニ至ル迄ハ岡崎地方ナリシモ今日ニテハ額田綿絲商組合ノ手ヲ經テ本縣及静岡、東京、埼玉、茨城、滋賀、大阪等ニ販賣サレツ、アリ。

第九章 交通

水路ハ巴川ニ白帆去來シテ舟筏ノ便アリ。陸路ハ岡崎市ヨリ足助町ニ通ズルモノ及ビ舉母町ヨリ新城町ニ通ズル兩縣道及本村内ヲ縦横ニ貫通シ車馬ノ往來ニ便ナリ、特ニ大字九久平ヨリ岡崎市及足助町ニ通ズル乗合馬車及ビ乗合自動車ノ便アリテ毎日十數回ノ往復アリ、今本村内ヲ通ズル重要道路ヲ表示スレバ左ノ如シ。

(車道以下ノ路線ヲ除外ス)

路 線 名	村 内 杆 數	改 築 年
府縣道岡崎 足助線	八、九四五 <small>杆</small>	明治二十七年
全 舉母 新城線	七、八五四	明治四十二年
全 花澤 岡崎線		大 正 十 年
全 舉母東宮口線	三、九六〇	明治三十四年
全 足助東宮口線	二、八四六	明治三十四年
全 花澤 足助線	二、三四二	未 改 築
全 則定 舉母線	、五四五	明治三十一年
町村道酒吞九久平線	三、三五二	明治三十一年
全 六ツ木岩倉線	六、三七〇	不 明
全 桂野 岡崎線	、〇七一	明治二十八年
全 川向 舉母線	四、八四〇	大正十年乃至昭和八年
全 瀧脇九久平線	三、一〇七	明治三十四年

全	長澤 大柳線	、〇四五	昭和四年
全	松平 日影線	二、一一六	昭和四年乃至昭和十年
全	日明 九久平線	、六八〇	明治三十五年
全	松平 九久平線	、八一三	昭和七年
全	澤連 九久平線	一、〇三五	不 明
全	下屋敷 舉母線	二、七八九	明治二十八年
全	歌石 舉母線	二、五四一	昭和六年
全	乘越 九久平線	三、〇五〇	昭和七年乃至昭和十一年
全	九久平 岩倉線	、一一四	昭和十年
全	西野 舉母線	一、三三六	昭和三年

第十章 教 育

明治三十九年町村合併ノコトアルヤ從來ノ學校ハ全年末ヲ以テ法規上廢校トナル
依テ翌明治四十年一月一日ヲ以テ新ニ九久平尋常高等小學校、豊松尋常高等小學校、

幸海尋常小學校、岩倉尋常小學校、瀧脇尋常小學校ノ五校ヲ設置セリ。同四十一年
義務教育年限延長セラレ何レモ尋常科第五學年ヲ設ケ次年第六學年ヲ設ケ爾來尋常
科ハ第六學年迄ノ課程ヲ課スルコト、ナレリ。從ツテ高等科ハ二學年制ヲ施スニ至
ル。

義務年限ノ延長ト人口ノ増加トハ就學兒童數ヲ増シ校舍狹隘ヲ來スニ至レリ。加
之其ノ多クハ設備不完全ニシテ時勢ノ進運ハ之レガ完成ヲ促シタリ。

此ニ於テカ村民大ニ奮起スル所アリテ、明治四十一年ヨリ大正五年ニ至ル九ケ年
間ニ全部ノ新改築ヲ見ルニ至レリ。即チ明治四十一年ニ於テ豊松尋常高等小學校ヲ、
翌四十二年ニ瀧脇尋常小學校ヲ改築ス。之ト相前後シテ他ノ三校モ改築或ハ増築ノ
議起リシガ偶々九久平、幸海、岩倉ノ三校併合ノ問題起リ、數年ノ協議モ遂ニ不調
ニ終リタレバ大正三年岩倉尋常小學校ヲ、全四年ニ九久平尋常高等小學校ヲ同五年
幸海尋常小學校ヲ新築セリ。之レガ總經費實ニ貳萬七千九百六拾六圓ニシテ、村民
ノ負擔重且大ナリト云フベシ。

時代ノ進運ハ教育ノ必要ヲ認ムルコト之ニ止ラズ、大正八年三月認可ヲ得四月一
日ヨリ幸海、岩倉、瀧脇ノ三校ニ高等科ヲ併置セリ。

尙補習教育ノ徹底ヲ期スル爲大正五年八月各小學校ニ實業補習學校ヲ併設ス。
 大正十五年四月青年訓練所令ノ發付セラル、ヤ九久平實業補習學校ヲ充當シテ村
 一圓ノ青年訓育ニ充テ其ノ設備ノ充實スルヤ昭和三年六月充當ヲ廢シテ獨立シタル
 松平青年訓練所ヲ九久平小學校ニ併設セリ。

昭和八年二月村會ヨリ建議アリ、續テ經濟更正委員、同調査委員ノ合同會議ノ決
 議トニ依リテ各小學校ニ併置ノ高等科ヲ廢シテ實業補習學校令ニ依ル晝間學校ヲ設
 置スルコトニ決シ四月四日認可ヲ得松平公民學校ヲ創設シ役場ヲ假校舍トシテ四月
 六日ヨリ授業ヲ開始ス、同時ニ九久平小學校ニ併置シアル實業補習學校ヲ除ク外四
 實業補習學校ヲ廢止セリ。

昭和十年四月青年學校令ノ發付ニ因リ七月一日ヨリ學則ヲ變更シ松平村立青年學
 校ト改稱スルト共ニ青年訓練所ハ廢止セリ。

左ニ各學校ノ沿革概要ヲ記セハ左ノ如シ。

幸海尋常小學校沿革大要

一、明治六年十一月二十二日學校（校名不詳）ヲ創設シ酒吞村祐源寺ヲ以テ假校舍
 トシ寺僧ニ囑シテ教授ヲ始ム。

一、明治八年十一月十九日聯區ヲ改正シ一學校ヲ設ケ祐源寺ヲ假校舍ニ充テ酒吞學
 校ト命名ス。

一、明治九年鶴鳴學校ト改稱シ重田和村々社ノ舞臺ヲ假校舍トシ全年七月二十一日
 酒吞村某農家へ移轉シ再ビ酒吞學校ト改稱シ尙ホ文字ヲ改メ幸海^{さきのみ}學校トス。

一、明治十二年十二月七日校舍新築成リ大正五年迄繼續ス。

一、明治十四年東加茂郡第十五番幸海學校ト改稱ス。

一、全十五年東加茂郡第十四學區公立學校トナル。

一、全二十年四月昨年發布ノ小學校令ニ基キ聯區ヲ改メ舊來ノ學校ヲ東加茂郡幸海
 尋常小學校ト改稱セリ。

一、明治二十二年町村制實施ノタメ東加茂郡穗積村立幸海學校ト改稱ス。

一、明治三十三年十二月七日高等科設置ノ議ナル。

一、全三十四年四月二十五日併置許可サレ開校式ヲ行フ。

一、全三十五年二月中旬校舍新築ノ議起リ協議會ヲ開キシモ議決セズ偶日露戰爭ト
 ナリ遷延ス。

一、明治四十年高等科ヲ廢ス。

- 一、村合併ノ結果明治四十年一月一日ヨリ東加茂郡幸海尋常小學校ト改稱ス。
- 一、大正五年三月校舍改築ニ着手シ全年十一月落成式ヲ舉行ス。
- 一、昭和九年三月三十一日高等科ノ教科ヲ廢止ス。

岩倉尋常小學校沿革大要

- 一、明治八年二月十三日岩倉學校ヲ創設シ岩倉平古、宇野吉平宅ヲ假校舍ニ充テ、爾來二三ノ民家ニ移ル。
- 一、明治十五年十二月七日岩倉字平藪ニ新校舍ヲ建設シ大正四年四月マデ全校ニ於テ教授セリ。

- 一、明治二十年東加茂郡尋常小學校ト稱セラル。
- 一、全二十五年東加茂郡志賀村立岩倉尋常小學校ト改稱ス。
- 一、村合併ノ結果明治四十年一月一日ヨリ東加茂郡岩倉尋常小學校ト改稱ス。
- 一、明治四十三年四月義務教育延長ニ伴ヒ校舍狹隘トナリ舊志賀村役場ヲ以テ假分教場ニ充テ一學級ヲ收容ス。
- 一、大正三年八月校舍改築ニ着手シ全四年四月十四日落成式ヲ舉行ス。
- 一、昭和六年三月三十一日限り高等科ノ教科ヲ廢止ス。

九久平尋常小學校沿革大要

- 一、明治六年十二月十五日九久平學校ヲ創設シ九久平村吉祥院ヲ以テ假校舍ニ充テ其後九久平村字寺前酒釀造倉庫ヲ修繕シ校舍トナシ之ニ移ル。
- 一、明治二十年學制改正ニ依リ東加茂郡尋常小學校九久平學校ト改稱ス。
- 一、全二十七年校地ヲ現今ノ地ニ定メ校舍ヲ新築シテ之ニ移ル。
- 一、全三十二年四月尋常小學校補習科ヲ設置ス。
- 一、全三十三年校舍ヲ増築ス。
- 一、全三十四年四月尋常小學校補習科ヲ廢シ高等科ヲ併置ス、依テ校名ヲ東加茂郡小川村立九久平尋常高等小學校ト改稱ス。
- 一、明治三十五年三月二十日學齡兒童就學並ニ出席ノ成績佳良ナル廉ニ依リ本縣ヨリ教授用品購求費トシテ金四拾圓ヲ賞與セラル。
- 一、村合併ノ結果明治四十年一月一日ヨリ東加茂郡九久平尋常高等小學校ト改稱ス。
- 一、全四十二年四月校舍狹隘ノ故ヲ以テ大字九久平庚申堂ヲ假教場ニ充テ一學級ヲ收容ス。
- 一、大正二年二月十二日不幸火災ニ遇ヒ校舍全部烏有ニ歸ス、依テ大字九久平村社

神明宮舞臺、高德寺、正受寺、庚申堂及九久平避病室等ヲ假教場ニ充テ辛シテ
兒童ヲ收容シ授業ヲ開始ス。

一、大正四年五月校舍新築工事ニ着手シ全年十月假移轉ヲナシ全十二月十六日落成
式ヲ舉行ス。

一、大正十一年四月一日ヨリ高等補習科ヲ設置ス。

一、昭和九年三月三十一日限り高等科及高等補習科ヲ廢止ス。

瀧脇尋常小學校沿革大要

一、明治八年三月大田學校ノ分校ノ意味ヲ以テ技學校ト稱シ瀧脇村專光寺ノ一部ヲ
以テ假教場ニ充テ、全寺住職ニ囑シテ開校ス。

一、全十一年全村長松院ニ移リ全十六年マデ繼續ス。

一、全十四年東加茂郡第十八番瀧脇學校ト稱セララル。

一、全十六年東加茂郡第十七學區瀧脇學校ト改ム。

一、全十六年七月東加茂郡第十七學區瀧松學校ト改稱セラレ新ニ松平ヲ聯區内ニ加
フルコト、ナル。

一、全十七年新校舍ヲ瀧脇村ニ新築シ之レニ移ル。

一、全二十年四月瀧脇學校ト改稱シ全時ニ松平ハ聯區外トナル。

一、全二十五年東加茂郡小川村立瀧脇尋常小學校ト改稱ス。

一、村合併ノ結果明治四十年一月一日ヨリ東加茂郡瀧脇尋常小學校ト改稱セララル。

一、全四十二年二月新築工事ニ着手シ全七月竣工落成式ヲ舉行ス。

一、昭和五年三月認可ヲ得テ移轉改築ニ着手同年十二月竣工ス。

一、昭和九年三月三十一日限り高等科ノ教科ヲ廢止ス。

豊松尋常小學校沿革大要

一、明治五年太政官興學布達ニ基キ全年末仁王村ニ仁王郷學校ヲ開設ス。

一、全六年本縣布達ニ基キ十一月仁王郷學校ヲ廢シ、更ニ仁王小學校ヲ仁王村安全
寺内ニ開設ス之レ仁王小學校ノ創メナリ。後杉木村蓮生寺ニ移ス。

一、全十二年十一月仁王村ニ校舍ヲ新築シ之レニ移ル。

一、大田小學校ハ初メ茅原村成瀬家ノ一隅ヲ假教室トシテ開校シ茅原小學校ト稱シ
十二年頃大田小學校ト改稱ス。

一、明治三十一年四月一日從前ノ仁王(豊榮村松平村組合立)大田(豊榮村松平村組合立)小學校ヲ廢シ
豊松第一(仁王)全第二(大田)尋常小學校ヲ開設ス。

- 一、全三十五年五月豊松第一第二各尋常小學校ヲ廢止シテ豊榮村、松平村組合立豊松尋常小學校ヲ開設ス。
 - 一、明治三十六年四月五日豊榮村松平村組合立豊松高等小學校校ヲ開設シ假リニ大田尋常小學校内ニ置ク。
 - 一、明治三十七年九月二十八日豊松高等小學校ニ 兩陛下ノ御影ヲ拜戴ス。
 - 一、全三十八年五月十四日豊松高等小學校ヲ廢シ翌日豊松尋常小學校ニ併セ豊松尋常高等小學校ト稱シ即日開校ス。右ニ依リ曩キニ豊松高等小學校ニ拜戴セル 兩陛下ノ御影ヲ奉還シ奉ル。越エテ全年九月二十四日ヲ以テ 再ビ兩陛下ノ御影ヲ拜戴ス。
 - 一、村合併ノ結果明治四十年一月一日豊松尋常高等小學校（松平村立）ヲ開校ス。
 - 一、明治四十一年初メヨリ松平村大字二口ニ校舍新築ヲ始メ全年十二月十五日落成式ヲ行フ之レヨリ先キ十月十五日工半ニシテ仁王、大田ヨリ引移レリ。
 - 一、昭和九年三月三十一日限り高等科ノ教科ヲ廢止ス。
- 松平青年學校沿革
- 一、昭和八年二月二十一日村會議員全員ヨリ意見書ノ建議アリ其ノ議ヲ納レ調査ニ

着手ス。

- 一、同年二月二十五日松平村經濟更生委員及調査委員ノ共同協議會ヲ開催シタルニ 全會一致ヲ以テ即時斷行ヲ決議セラレタルニ依リ準備ニ着手ス。
- 一、三月四日敷地ヲ選定シ地主ニ交渉ヲ開始ス。
- 一、三月六日測量ニ着手ス。
- 一、三月十六日實業補習學校學則改正認可申請ヲナス。
- 一、三月二十三日校舍假用ノ義認可申請ヲナス。
- 一、四月四日學則變更ノ件及校舍假用ノ義認可アリタリ。
- 一、四月六日授業開始（當日ノ入學生百四十五名）
- 一、五月二十日地鎮祭ヲ行フ。
- 一、昭和九年三月二十四日新校舍へ一部移轉シ同日第一回卒業式ヲ行フ（卒業生十七名）
- 一、六月十三日校舍竣功。
- 一、七月十二日竣工式舉行。
- 一、敷地坪數三千百四十四坪。

- 一、建坪五百二十二坪八勺二才。
- 一、總經費四萬二百五十六圓ヲ費シタリ。
- 一、昭和九年度ニ於ケル青年訓練所ノ施設經營適切ニシテ特ニ設備優良トシテ昭和十年二月九日愛知縣ヨリ賞狀ヲ受ケタリ。
- 一、昭和十年四月青年學校令ノ發布セラル、ヤ實業補習學校規程、青年訓練所令ハ廢止トナリタルニ依リ學則ノ認可ヲ得テ七月一日ヨリ松平青年訓練所ヲ廢止シ松平公民學校ト合併シテ松平村立青年學校ト改稱ス。

第十一章 社 寺

一、神 社

縣社 六所 神社

境内五町三反二畝四歩

大字東宮口六所山（海拔六〇六米）ニ鎮座アリ、祭神ハ猿田彦神、事勝國勝長狹神、岐神、天照大神、倉稻魂命、日本武尊ヲ奉祀ス。

此ノ神社ノ由來ハ徳川氏ノ祖先松平太郎左衛門尉親氏公永和三年八月十九日奥州

塩竈大明神ヲ勸請シ建立セラレタル靈社ナリ。

此ノ山ヲ吉木山（芳樹山トモ書ク）ト稱シ「芳樹ノ宮」ト名ケ或ハ蜂嶺神社ト云ヒタルモ其ノ後六所大明神ト號シ奉ル。天下泰平、國家安穩、五穀豊穰、武運長久ヲ祈誓シ給ヒ松平家御代々直參御崇敬深クアラセラレ宮口村ヲ社領ト定メラル、慶長七年正月徳川家康公御上洛ノ際高月院ナル祖先ノ御廟所へ御參拜アリシ時高二十石ヲ大明神へ初穂料トシテ下サレタリ。

武道ノ神トシテ戰捷祈願ノ參拜者頗ル多ク日清役ニ於ケル原田十吉氏ノ玄武門ヲ破リ得タルハ平素信仰ノ靈驗ナリト云フ。

明治六年社格ヲ郷社ニ列セラレ六所神社ト改稱シ祭日ヲ陽曆九月十九日ト改ム、大正五年二月十九日二口村社神明社及稻荷社ヲ合祀ス、大正六年四月二十五日神饌幣帛料供進神社ニ指定セラレ祭日ヲ十月一日ニ改ム、大正八年下宮拜殿ヲ建築シ翌年祭文殿ヲ新築ス、大正十年三月三十一日社格昇進ノ儀出願大正十一年九月二十六日内務大臣ヨリ縣社ニ列スルノ指令アリ更ニ祭日ヲ改メテ十月九日トナス、祭日ニハ獻馬、空砲、棒ノ手等ヲ奉納スルヲ例トス。

村社 志賀神社

境内地四反五畝三步

大字岩倉ニアリ、祭神ハ國狹槌命ヲ祀ル、創建年ハ詳カナラザルモ、應仁元年三月再建セルヲ見レバ夫レ以前相當年月アリタリト思考ス。(應仁元年ハ紀元二千百二十七年ナリ) 明治四十年十月二十六日神饌幣帛料供進神社ニ指定セラル、昭和八年九月祭文殿神饌所ヲ新築ス、境内ニ津島社、秋葉社、御鋏社、稻荷社、神明宮、高根社、白山社ノ七社アリ。

村社 神明宮

境内地壹反六畝二十六步

大字九久平字宮ノ根拾五番地ニアリ、祭神天照大神、軻遇突知命、須佐之男命ノ三柱ヲ祀ル。

創建ハ詳カナラサルモ、天正年古帳ニ宮ノ根、神田等ノ名稱アルニ徴スレバ夫以前ノ鎮座ナラン。

軻遇突知命ハ藥師ヶ嶽ニ、須佐之男命ハ宮洞ニ何レモ鎮座アリシヲ明治十年四月宮ノ根ニ移轉シ更ニ大正二年十二月二十五日合祀セリ。

大正十二年社殿、拜殿ヲ新築シ大正十五年七月二十二日神饌幣帛料供進神社ニ指定セラル、末社ニ御鋏社、市杵島社ノ二社アリ。

村社 豊榮神社

大字杉木字的場ニアリ祭神ハ受鞭之命、譽田別命、軻遇突知命、伊佐波登美命、少彦名命、須佐之男命ノ六柱ヲ祀ル。

大正二年五月五日正作村社八幡社、仁王村社秋葉社、下屋敷村社御鋏社、並ニ各末社トヲ合祀シテ現在ノ處へ移轉改築ス、大正四年十一月十八日社名ヲ豊榮神社ト改稱シ四大字ノ氏神ト崇メ奉ル、總テノ設備完備セシニ依リ昭和九年十月十八日神饌幣帛料供進神社ニ指定セラル。

因ニ神社ノ合祀ヲ楔機トシテ四大字ハ總テ同一行動ヲ取ルベク一部落トナシテ豊榮區ト稱シ、一區トナス極メテ圓滿ニ自治ヲ行フ是レ偏ニ神ノ加護ナリ。

村社 孔子守神社

大字鍋田ニ鎮座シ、祭神伊弉册尊、御兒大權現ヲ合祀ス、此御兒大神ト申シ奉ル

ハ神功皇后、譽田別皇子、武内宿禰ノ三尊トス、而シテ其ノ創立ヲ詳カニセス、中古再建ノ棟札ト稱スルモノ左ニ

一尺二寸七分

敬白

奉建之更三州足助之庄戸嶋ノ郷中ナベタ村お千子宮御身体奉作更大旦
那彦一郎親道久禪門並ニ作者光用伊豆守

天正八年庚辰三月十一日

固ニ言フ戸嶋ハ外下山ノ郷ノトシモナリ

信仰ニ年曆ヲ詳ニセザルモ地頭松平丹後守其夫人ノ姪メルニ當リ乳子守神社ニ安産ノ祈願ヲナシ境内椎ノ葉ヲ持チ歸リ夫人ト共ニ崇拜嚴カナリシニ果シテ其婦安カニ産ノ紐ヲ解キ剩ヘ男子ヲ分娩セシカバ神德ニ報ヒ奉ラントテ爾後年々米三升ヲ献納シ以テ恒例トナシ明治初年ニ至レリト云フ、此ノ事遠近ニ傳ヘ安産ノ守神トシテ參拜崇信椎ノ葉ヲ請フモノ年ヲ逐フテ多キニ至ル。

村社 八幡神社

八幡神社ハ松平郷ノ産土神ナリ、慶長ノ頃松平太郎左衛門尉尙榮、東照宮ヲ合祀ス、今ノ攝社東照宮是レナリ。祭日ニハ近村ヨリ馬ヲ牽來リテ、之ヲ社前ニ献スルノ例アリ。末社辨財天ハ在原業平ノ守本尊ニシテ子孫ニ傳ヘ、信盛入郷ノ際護持シ來リテ、今ノ地ニ社殿ヲ營ミ安置セシモノナリト云フ。

因ニ全村社境内ニ在原氏及松平三代産井戸ト云フアリ。在原氏在居以來代々此ノ井戸ノ水ヲ汲ミテ子孫ノ産湯ニ用フ、故ニ産井戸ノ名アリ、或ハ沙汰ナシノ井戸、又ハ奥ノ井戸、又ハ見捨ノ井戸ト云フ、其故詳カナラズ。

其ノ他村社一覽表

村社	神名	所在地	祭神	創設年月
村社	神明社	中	天照皇大神	不詳
村社	市杵島神社	中垣内	市杵島姫命	全上
村社	神明宮	桂野	天照皇大神	永享七丁卯年
村社	八幡社	川向	譽田別尊	不詳
村社	神明社	七賣	天照皇大神	全上
村社	春日神社	瀧脇	天兒屋根命 外三神	全上

村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社
津島神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
長澤	林添	大給	下河内	曲ッ	六ッ	赤原	日明	真垣内	南篠平	所石	大楠	提立	椿木	築山					
素盞鳴命	天照皇大神	全上	日本武尊	天照皇大神	國狹槌命	全上	天照皇大神	全上	譽田別命	素盞鳴命	天照皇大神	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上
不詳	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社	村社
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
歌石	大津	大田	茅原	羽明	酒吞	重田和	白山瀬	西野	二本木										
天照皇大神	木花咲耶姬命	伊弉諾命	菅原大神	天照皇大神	伊弉諾命	素盞鳴命	伊弉册命	天照皇大神	豐受姬命										
不詳	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

二、佛閣
高月院
淨土宗智恩院末（鎮西派白笹流）ニシテ大字松平ニアリ、境内官有地千五百〇四歩、檀家六十戸アリ。

開基見譽寛立、貞治六年七月ノ創建ニシテ寂靜寺ト號セリ。應安ノ頃松平親氏歸依シ本松山高月院ト改ム。天文年間松平親忠ノ五男超譽存牛住職トナリ、其兄長親地ヲ寄附シ廟ヲ改築ス、後徳川家光ニ至リ堂宇改築爾後明治迄ノ間渾テ徳川家ノ修繕ニ係ル。朱印地百石松平ノ郷ヲ領ス、宗内十八檀林中ノ靈刹ナリ。元祿十四年繪旨常紫衣勅許本尊阿彌陀如來立像高三尺安阿彌定朝ノ作ト傳フ、猶其ノ他寶物トシテ佛像畫幅及大永、慶長、元祿等ノ文書數多アリ。境内位置頗ル閑雅秋季紅葉茸狩等ニ適ス。

妙昌寺

曹洞宗豊後國泉福寺末梁山ト號シ大字築山ニ在リ境内ハ官有地ニシテ檀家五十二戸アリ。

開基無外圓昭禪師延文年間ノ創始ニシテ初メ圓昭庵ト號セリ、二世無着妙融三世無染融了トナス。此頃松平親氏屢々來リ聞法歸依シ庵ヲ改メ寺トナシ妙昌寺ト號ス之レ前二師ノ名ヲトル所ナリ。而シテ無染ヲ妙昭寺開山トシ第一世トナス。四世大中ノ時本尊釋迦如來及文珠譜賢ノ脇立等成ル。七世法屋ニ至リ寺格等渾テ備ル。妙

昌寺中興トナス、十二世卍堂ノ頃寺號妙唱ニ作リ又妙昌ト改ム、十四世智外鐵忍ニ至リ法脈相違ノ事發リ八世ヨリ十三世マデヲ削リ自ラ妙昌寺八世ト稱ス是ヨリ法脈相承シテ絶ヘス、現住ヲ二十六世トナス。

寶物松平親氏寄附地藏菩薩、唐畫孔雀之圖、禪僧之圖等古文書慶長以降徳川家ニ係ル文書ヲ存ス。

境外末寺長壽庵、養國庵、伊玉庵、清源庵、徳雲軒、守中寺、愛道寺、覺庵、菩提院、長松軒等アリタルモ今其跡ハ字名トシテ存スルノミナリ。

信光寺

眞宗大谷派外下山信光寺ハ大字大田ニ在リ境内ハ民有地ニシテ檀家三百余戸アリ。開基教祐阿闍梨（教祐ハ惠心僧都ノ弟子三井寺ノ僧ナリ）井田ノ里ニ一字ヲ建テ教信寺ト號ス、法弟祐源跡ヲ承ギ後數世ヲ經テ板田村ニ移轉ス、二十一世頓祐ノ嘉禎年間親鸞聖人三州矢作柳堂ニ留錫アルヤ頓祐親シク法話ヲ聞キ眞宗ニ歸囑ス聖人九字ノ名號及聖徳太子自畫影ヲ賜フ又正嘉元年聖人ノ眞影ヲ賜ハル。其後額田郡坂崎ニ移轉ス。二十八世頓慶ノ文明元年蓮如上人士呂化導ノ時命ニヨリテ今ノ地ニ移

轉セリ。

是ヨリ先松平信光ノ子德彌太父ノ勸メニヨリ心覺阿闍梨（天台宗圓教院西加茂郡野口）ノ弟子トナリ髮ヲ剃リ祐心ト號ス（年十才）後文明十一年二月上洛蓮如上人ニ謁シ教化ヲ蒙リ眞宗ニ歸入シ名ヲ西心ト改ム。上人六字名號及正信謁文自影念珠扇子等ヲ賜フ。西心國ニ歸リ會々當寺ニ來リ頓慶ニ會ス。頓慶西心ノ德識ヲ愛シ入レテ寺務ヲ續ガシム、西心寺號ヲ信光寺ト改メ外下山ト號ス、而シテ寺格等備ハル。爰ニ於テ西心ヲ以テ當寺中興トナス。

專光寺

眞宗大谷派本瀧山護方院專光寺ハ大字瀧脇ニ在リ。

開基誓慶天文八年ノ創建ナリ誓慶ハ幼名仙千代加賀石川專光寺康宣ノ二子ニシテ、瀧脇城主松平三郎太夫乗清ノ養子トナリ乗祥ト改ム、後チ乗清男子ヲ生ム、乘遠ト名ク茲ニ於テ乘祥家督ヲ辭シ薙髮シテ本願寺證如上人ノ弟子トナリ兄ニ請フテ、專光寺ヲ分立ス、慶長十八年寂ス年九十六後十三世明治十八年六月火災ニ罹リ堂宇庫裡等悉ク焼失ス、二十六年再建成ル、寶物圓光大師眞影蓮如上人御讚文全六字名號

親鸞聖人九字名號等アリ。

皆福寺

眞宗大谷派上宮山皆福寺ハ大字白瀬（通稱畑「はたけ」）ニ在リ境内民有地反別一反歩余檀家三百余戸アリ。

開基永西寶治年間ノ創建ニシテ天臺宗ナリ、永西ハ正元元年六月八日寂ス、四世光玄ニ至リ本願寺覺如上人ノ弟子トナリ眞宗ニ歸屬ス、本尊立像阿彌陀如來ハ源信和尚ノ作ナリト傳フ、

寶物光明品連座ノ御影覺如上人ノ裏書、蓮如上人ノ六字名號等數點アリ。

皆福寺ノ今ノ地ハ中古移轉セシ所ニシテ元酒吞梅上（むねがね）ニ在リシヲ故アツテ移轉セリ、今ノ地ハ古字ヤトコ又神田ト云ヒシ由或說ニハ畑ハ酒吞ノ内ナリシヲ檢地ノ結果白瀬領ノ趣ニ云ヒナシタリト故ニ氏神ハ酒吞ニ屬ス。

吉祥院

曹洞宗築山妙昌寺末天龍山吉祥院ハ大字九久平字寺前ニ在リ境内官有地反別九畝

六步所有地反別一町九反七畝步アリ。

天文二十辛亥年五月鈴木織部康政祖先追福ノタメ一字ヲ建立ス。妙昌寺四世大中光甫和尚ヲ請シテ開山トナス（鈴木氏ハ紀州藤代ノ産平内太夫善阿彌ト號ス、承久元年十一月朔日三州矢並村ニ於テ死去ス、三河鈴木ノ始祖トナス）本尊釋迦如來木像丈ク一尺三寸寶曆年間本堂再建明治三十九年四月火災燒失大正三年本堂再建成ル寶物惠心僧都作立像阿彌陀如來丈ク六寸正徳六年閏三月十六日鈴木良久寄進全二年九月全人寺領寄附寶永三年碧雲石及心越禪師掛軸鈴木氏ヨリ寄附。

徳山寺

眞宗大谷派西平山徳山寺ハ大字中垣内ニ在リ境内民有地反別一反三畝十五步檀家四十六戸信徒六十。

開基玄流院徳山居士創立年月日不詳元谷下總道場ト云フ、應永中新田氏ノ餘黨潛ミシモノナリトモ云フ、本尊阿彌陀如來畫像天文七年本願寺證如上人裏書開山圓立之ヲ第一世ト稱ス。延暦年間今ノ地ニ移轉ス。位牌アリ蔦ノ紋表ニ眞嚴院前從五位下陵庭令誦譽涼月永休大居士、裏ニ享保元丙申年トアリ、一ハ表ニ安國院殿徳蓮社

家譽道和大居士、裏ニ元和二年四月十七日（徳川家康公）トアリ寺ヲ隔ツル三町余ノ所ニ山田玄仲ノ墓ト云フアリ。

其の他

山號寺院號	所在地	開基又ハ開山	創設年月
曹洞宗圓城山祐源寺	大字酒吞	鈴木三郎重雄	元和元年
淨土宗延命山玉泉寺	赤原	開山 沼連社勝譽傳光文益	寛永十四年十月
眞宗六木山長慶寺	六ツ木	釋了導	嘉永四年四月
曹洞宗岩倉山長慶寺	岩倉	開山 日山良白大和尚	寛永元年五月
淨土宗八王山春光院	全	石川右京亮親忠勢譽愚底	永正十年四月
眞宗御堂山顯正坊	全		
淨土宗瑞璃光山高德寺	九久平	源譽	天保十五年
曹洞宗瀧谷山長松院	瀧脇	松平出雲守乘高長松院 松心院殿從五位下前雲州白雲乘高大居士	天文十三年
眞宗慈明山法興坊	川向		
淨土宗醫玉山花藏院	桂野	傳蓮社秀譽精故大和尚	永祿七年二月八日

曹洞宗 三松山晴暗寺	林添	松平太郎左衛門信和法屋祖順和尚	元祿八年春
曹洞宗 吉木山地藏院	東宮口	光室長運知藏	應仁元年
真宗 本目山蓮生寺	杉木	教春	應仁二年
真宗 教恩寺	歌石		
淨土宗 瀧上山法恩寺	羽明	達空傳了大德	延寶七年九月
真宗 出雲山正受寺	九久平		明治二十一年六月
淨土宗 天下山安全寺	仁王	松平親氏	
真宗 蓮松山是心寺	松平	見真大師	寛政五年
天臺宗 眞永山長福寺	松平	慈覺大師	貞觀年間

第十二章 舊蹟

一、舊蹟

六所山

此ノ山ハ東宮口ノ東南ニアリテ下山村ニ跨ル海拔六百六米、西加茂郡ノ猿投山、

寶飯郡ノ本宮山ト共ニ三河靈山ノ一ト稱セラル。全山杉、檜、樅、椎ナドノ老樹雲ニ聳エテ枝ヲ交ヘ四時綠色深ク晝尙ホ暗シ。

西北ノ方、元ノ二ノ鳥居ノ趾ヨリ登リ行ケバ道程二十餘町ニシテ頂上ニ達スルヲ得ベシ、之レヲ本坂ト云フ。坂ノ半頃ニ至レバ巨大ナル岩石徑ノ左右ニ亢突シテ眼ヲ遮ル、御手水ノ流溢レ出デ、其ノ上ヲ迸リ恰モ白キ糸ヲ垂レタルニ似タリ。コレヲ不動瀧ト云ヘリ、コノ邊最モ避暑ニ宜シク三伏ノ候、浴スル客多ク集ル。コ、ヨリ徑彌々險シクナリテ、太キ木ノ根横ハリ出テ盤錯シテ、自ラ楮ヲナス所アリ。九十九折ナス苔磴ヲ攀チ盡セバ漸ク峯ニ出ヅ、西南ノ方稍々開ケテ、遠ク熊野、鈴鹿等ノ山々ヲ樹間ニ望ミ七十五里ノ灘眼中ニ集ル。此處ヨリ左折シテ爪先キ上リニ登リ行クコト數十歩ニシテ遂ニ絶頂ニ達スベシ。石ノ鳥居アリ之ヲ潜リ入レバ平坦ナル地數百歩アリテ、六所神社ノ本殿ヲ奉祀ス、境内此處、彼處ニ大ナル老杉鬱蒼トシテ繁リ其ノ周リ幾抱ヘニ余ルモノ數株アリ、所謂六所ノ大杉ナリ、此地麋鹿ノ遊ブヲ見ズ、猿猴ノ戯ル、ヲ聞カズ、又狐狸ノ群ルニ遇ハズト雖モ耳馴レヌ小鳥ノ聲ヲ渡リテ物淋シ、コレナン彼ノ佛法僧トカ、閑古鳥トカ云ヘル類ナラン、コノ邊一層神々シクシテ自ラ頭ノ下ルヲ覺ユ、社前ニ禮拜シテ更ニ踵ヲ東ニ廻セバ纔カニシ

テ蜂ヶ峰神社アリ、俗ニ奥ノ院ト云ヘリ、又其ノ東ニ蠶玉神社ヲ祀ル、奥院ト蠶玉神社トノ間ニ古ヘ行基菩薩ノ加藤某ヲ誘ヒ來リテ陶器ヲ燒キシトナン云ヘル跡アリ今尙土中ヨリ皿小鉢ノ類數多出ヅ、ソレヨリ南ニ下レバ麓ノ地一帯廣ヤカナル植林地アリ、檜杉等ノ嫩苗漸々トシテ日ニ映スルヲ見ルナリ。

城山城趾

城山ハ大田、下河内、歌石ノ三大字ニ跨リ山嶺ニ古城趾アリ、石ヲ疊ミテ壘トナシ、土ヲ鑿リテ塹トナセシ跡今尙ホ歴然トシテ存セリ、傳ヘ云フ昔時太田道鑑ノ築キ據リシ所ナリ、後松平和泉守信光大ニ修理シテ男光親ヲシテ、之レヲ守ラシメ大給ノ牙城トナス、光親能見ニ築城スルニ及ヒ廢城トナレリト、光親ハ能見松平ノ祖松平伯ノ家ナリ。

大給城趾

長坂大炊之助ノ居城ニシテ其ノ子孫長坂新左衛門一族北給ノ岩下庄左衛門（山下ト言フモノアリ）中垣内宇野安左衛門等謀リテ亂ヲナス、近郷ノ豪族從フモノ多シ、

三河ノ守護職細川勝久之ヲ平グル能ハズ。此ノ時松平信光岩津城ニアリ攻メテ圓川ニ戰ヒ大ニ之ヲ敗リ、新左衛門等多ク討死ス、城陷リ信光ノ有トナリ其ノ子親忠ノ二男乘元ヲシテ守ラシム。乘元ノ長男乘正城ヲ修理シ更ニ堅城トナス、三世乗勝ハ不幸ニシテ父ニ先立チ大永四年十一月卒ス。四世親乘長子源次郎（后眞乗ト改メ五世トナル）ト共ニ弘治元年今川義元ニ從ヒ尾州蟹江城ヲ攻メテ大功ヲ立ッ。天正三年二月瀧脇城主乗高ト戰ヒ利アララスシテ尾洲ニ走ル堅城遂ニ灰燼ス。

因ニ五世眞乗天正十年三月（三十七歲）逝去シ六代家乘ハ岩村城ニ移リ遂ニ大給城ハ廢セラル。

城趾ハ九久平ノ双龍橋ヨリ東ニ折レ五町餘瀧川ニ沿ヒテ字長坂ニ至ル右岨ヲ仰ゲバ山嶺高クシテ白雲嶺ヲ埋メ萬仞ノ青巖絶壁ヲナシ樹間ニ隱顯スルヲ見ニ之レ即チ大給城趾ナリ、進ンデ山麓ニ至レバ神明社前ニ達スベシ、元城郭鎮護ノ社トナス而シテ、之ヨリ急坂數丁、即チ城ノ大手ニシテ今猶ホ礎ノ幾分ヲ存ス、嶺ヲ割リ墻ヲ築キ、或ハ門趾アリ、之ヲ過ギ西ニ廻ハレバ、平地階段ヲナシ猶ホ南ニ廻レバ牙城ノ趾アリ。

絶頂東西三十間南北四十間許リ此邊濠ヲ堀リ石ヲ疊ミ或ハ巨巖ニ柱ヲ立テタル穴

アリ。蓬葦繁茂スト雖モ尙ホ其ノ墟ヲ止ム。西南ハ自然ノ巨岩壘々斷涯絶壁登ルベカラズ、眞ニ要嶮ト謂フベキナリ。目ヲ轉ズレバ一眸千里西參尾勢更ニ遮ルニ物ナシ又奇石アリ俗ニ蛙石ト云フ。老松アリ廻リ丈餘首斬松ト云フ。惜ム可シ大正十五年風害ニテ枯木セリ、東ニ下レバ老臣今井圖書ノ邸趾アリ其ノ邊ニ巨石アリ下ニ巖窟アリ幽玄盲人トイフ而シテ東二三町ヲ隔テ、松平加賀守乘元ノ噴墓アリ、又千葉畑ノ趾ト云フアリ。往昔ハ荻生ト書シ儒者徂徠ノ祖先此地ヨリ出デ而シテ徂徠屋敷ト云フアリ。

本縣ハ大正天皇御大典記念トシテ縣下名稱舊跡凡三百ヶ所ヲ調査シ其ノ記録ヲ調製センコトヲ企劃シ中ニ就キ事蹟ノ湮滅セントスル虞アルモノハ特ニ若干ノ補助金ヲ町村ニ交付シテ石標ヲ建設セシムルコト、ナレリ、而シテ本城趾亦其ノ一ニ入り大正五年十二月建設ヲ了セリ其ノ文ニ曰ク

(表面)

大給城趾

愛知縣

(裏面)

應仁文明之際松平信光在岩津欲經綸四方大給城主長坂新左衛門保久城主岩下庄左衛門等不從信光乃發兵討之殺兩將以大給與其子親忠、親忠更併細川城與之其子乘元乘元乃居大給城是爲大給松平鼻祖乘元乃子乘正初在細川城依軍功領土漸加永正七年大修築大給城移爲子乘勝先父歿弟親乘嗣與同族瀧脇城主松平乘高有隙天正三年爲乘高所燒城奔尾張親乘長子眞乘在細川城從德川家康戰功最多其子家乘天正十年封上野那胡移之子孫相繼轉封各地維新之際爲西尾藩主眞乘第二子眞次依功賜上野田寬永四年以爲祖先噴瑩之地移於大給元祿十六年至其孫乘成從干與殿本城遂廢矣而世稱大給松平者前二家之外猶美濃岩村豊後府内兩藩主其裔孫今皆列華族今茲當大典本縣調查名勝舊跡本城趾亦居其一因建碑表之

大正五年十二月

瀧脇城趾

瀧脇日影(今額田郡岩津町地内ニ屬ス)字城山ノ山腹城松ト云ヘル地ニアリ屹立セル丘陵ニシテ方三十間許リ稍低キ所幅四五間ヲ出入スル平地ヲ以テ圍繞シ南ハ山脈高ク聳ヘ東ト西トハ谷深クシテ沼田ヲ擁シ郡界川其ノ北麓ニ通ジ激流矢ヲ射ル如

シ之レ即チ天文ノ頃松平乗元ノ三男松平和泉守右衛門尉乘清ノ築キテ據レル所ニシテ、孫久太夫正乗ニ至リ弘治二年三月岩津ニ戰死ス、正乗ノ孫正勝大阪ノ役ニ功アリ駿河小島ニ一萬石ヲ賜フ、華族瀧脇子爵ノ祖トス。

梶ヶ城趾

大字曲リ字上タコウ田ト築山ノ字界ニ跨リテ城段戸ト稱スル山嶺アリ山嶺ニ數百年前ノ古城趾ヲ存シ東西約三十五間南北約二十間アリテ歌石ノ字界ナル俗稱枯松峠ニ通ズル道路ヲ有シ其ノ路傍ニハ的場ノ跡アリ城趾ハ二段トナリ石垣等ヲ存シ尙之ヲ西南ニ距ルコト約五十間ノ山腹ニ副廓ヲ置キタル遺跡アリ古來口碑ニ傳フル所ニ依レバ一夜梶アリ啼キテ頻ニ警ヲ傳ヘ以テ敵ノ襲來ヲ告ゲ味方ヲシテ戰備ヲ整フルコトヲ得セシメ危難ヲ免レシメタリト依テ爾來梶ヶ城ト稱セラル、ニ至リシモノナリト云フ、守將及年代等別ニ文記ノ徵スベキモノナク未ダ詳カナラザルモ城趾ハ高峰ノ山頂ニアリテ、尾三ノ平野ヲ瞰下シ遠ク尾濃江ノ連山ヲ望ミ四時ノ眺望最モ佳ナリ。

圓川古戰場

圓川（大字中垣内字辨天、平岩、神谷附近ノ舊稱ナリ）ハ巴川ト郡界川ノ合流スル所ナリ辨天ノ社アリ、額田郡岩津町桑原ト相對シ郡界橋ヲ架ス。
應仁、文明ノ際松平信光ト長坂新左衛門、岩下庄右衛門、宇野安左衛門等ト合戦ニ及ビタル所ナリ、而シテ長坂ハ源兵衛山ニ陣シ、信光ハウゲト山ニ對陣セシト云フ。

郷敷城址

親氏公ノ時松平附近ノ諸城降服セリト雖モ、不時ノ夜襲ヲ慮リ、居館ヨリ南五町ノ一嶮山ノ頂上ヲ拓キ、城郭ヲ築キ、夜中ノミ此ノ處ニ屯營ス、此城ヲ郷敷城ト號ス、里人今ニ於テ此ノ山ヲ「御城山」ト呼ビ、城趾ハ最モ展望ニ適シ、東北ハ嶮山連亘シ、西方遙カニ名古屋城ヲ望ミ、西南ハ直下丘陵起伏、村落其ノ間ニ點在シ、參尾ノ平野、矢作ノ長流、伊勢ノ海、衣ガ浦等皆ナ双眸ノ中ニ入ル、斯ノ如キ地勢ヲ選ビテ親氏公ノ此所ニ築カレシハ、蓋シ他日地ヲ三河ノ西南ニ得テ、霸業ヲ大成



スルノ基礎ト爲サレシニハアラザルカト推想セララル。

在原家館址

村社八幡神社境内ニ接續セル林地ニアリ、在原家ハ其家系平城天皇第四ノ皇子阿保親王ニ出ヅ、親王十九代ノ苗裔左衛門太郎在原廣俊ノ嫡男信盛、弘安二年公家ヲ出デ武家トナリ、外下山郷ヲ拜領シテ入郷ス、其ノ際本村ノ松樹鬱々トシテ繁茂セルハ、家門隆盛ノ兆ナリトシ、村名ヲ松平郷ト改ム、信盛ノ嫡男信重、家督ヲ繼ギテ、松平太郎左衛尉越前守信重ト稱ス、信重男子ナキヲ以テ、應永年中世良田右京亮親氏ヲ女婿ト爲シ、家督ヲ讓リテ隱居シ其ノ年ノ暮信重死去ス、館ノ址ハ信盛以下泰親ニ至ル迄居住シ、仍松平氏モ數代居住セシト云フ。
因ニ松平氏現今ノ屋敷ハ尙榮入郷ノ時關キタルモノナリ。

松平氏家系

親氏公ノ長子ヲ信廣ト云フ、岩津ノ戰ニ重傷ヲ負ヒ軍事ニ當ル能ハス、故ニ宗家ハ次子信光ヲシテ襲カシメ、身ハ松平ニ閑居ス、是レ松平氏ノ始祖ナリ。

信廣ノ長子長勝家ヲ襲キ松平宗家四代親忠ニ仕ヘテ數々戰功アリ、明應二年十月十三日井田野ノ戰ニ岡崎勢ニ加リテ奮戰遂ニ戰死ス。

長勝ノ子勝茂、親忠、長親、信忠、清康ノ四代ニ歷任シ天文二年三月二十日岩津城外ノ戰ニ重傷ヲ負ヒ後是カ爲ニ死ス。

勝茂ノ長子信茂モ同日ノ戰ニ敵陣ニ進入シ奮闘シテ戰死ス、次子信吉家ヲ襲ク、天文十一年八月十日小豆坂ノ合戰ニ廣忠ノ命ニ從ヒ今川氏ニ屬シ長子勝吉ト共ニ戰死ス、故ニ次子親長家ヲ襲キ永錄七年七月二日死去ス。

親長ノ長子重長家康ニ仕ヘ天正十二年四月九日長久手ノ役ニ戰死ス。

重長ノ弟、由重家康ニ仕ヘ永錄三年七月二十五日刈谷ノ戰ニ重傷ヲ負ヒ廢人トナル、由重ハ慶長八年十月二十五日死去ス。

由重ノ子尙榮幼ニシテ江戸ニ移ル、關ヶ原ノ役家康ノ旗下ニ屬シ戰功アリ天下平定ノ後松平郷ノ内草高百石餘ヲ拜領、慶長十八年加増アリテ松平郷外二ヶ村ニテ總高五百石ヲ領ス、大阪ノ役本多上野介ノ旗下ニ屬ス、駿府ニ凱旋ノ後歸任申附ラレ在國ス、爾來代々松平ニアリ、隔年ニ年賀登城參勤ス、尙榮在國以來子孫相襲ギ、以テ今日ニ至ル。

本縣ハ御大典記念トシテ縣下ノ名所舊跡ヲ永久ニ保存センコトヲ企劃セラル、ニ當リ松平氏發跡地タル松平家邸宅ノ西南隅ニ碑ヲ建テ之ヲ表ハスコト、セリ、其ノ碑文ニ曰ク

(表面)

松平氏發跡地

愛知縣

(裏面)

應永、永亨年間新田義季之裔德川親氏爲僧稱德阿彌來此地爲庄官在原信重女婿還俗稱松平太郎左衛門是爲松平氏始祖資性仁慈且以備嘗艱苦能通時勢鄉民悅焉乃誅傍近之凶徒築城於要處及弟泰親繼箕裘先襲岩津使二男信光移居之尋取岡崎略大平威望大舉遂爲目代叙從五位下任三河守信光有四十八子一族漸繁稱松平氏者益多後經數世復姓於德川終至家康統一天下開三百年太平之業者其源實在茲矣今也物變星移遺跡漸將湮滅因當大典建碑表之

大正五年十二月

第十三章 名所

觀音山

高月院ノ後山ヲ登ルコト四五町屏風ヲ立テタル如キ嶮山アリ、觀音山ト稱ス、山ノ中腹ニ大岩石アリ、親氏公觀音ヲ岩洞ニ勸請シ、其ノ岩上ニ直立シテ、七日間天ニ祈リシ所ナリト云フ。明治二十二年九月故内藤耻叟氏松平ニ來リ、德川氏ノ祖塋ヲ拜展シ觀音山ニ登リシ時ノ所感ニ曰ク「觀音堂ハ頗ル高爽ノ地ニアリテ、四望尤開豁ナリ、因テ按スルニ、親氏公ハ新田義貞公ノ一族ヲ以テ、志ヲ得ズ僅カニ危難ヲ免レテ、此山中僻村ニ潜居シ、竊カニ後舉ノ大志ヲ抱クモ、未ダ其ノ志ヲ伸ブルヲ得ズ、此ノ山上ニ登リテ、四望スレバ、尾越ハ足利高經ガ據守スル所ニシテ、高經ハ即チ義貞公ヲ越前ニ擊ツ者ナリ、其ノ瞻スル時感憤悲愴ノ狀果シテ如何ゾヤ、今ニシテ之ヲ思フモ、猶悲風凜烈ノ狀アリ」ト眞ニ然リト謂フヘシ。

菅沼ノ岩窟

大給城山ノ餘脉西南ニ走リテ九久平ノ脊梁ヲナス、其ノ陽ヲ菅沼ト云フ。此所ニ

一ノ奇山アリ観音山ト稱ス、全山皆巨巖ヲ以テ疊ミ樹木ノ生ズルモノ稀レニ只僅カノ岩躑躅、萩、薄ノ類其ノ間ヲ縫フノミ巖ノ大ナルモノ長サ幾十丈ナルヲ知ラズ小ナルモ能ク丈餘ニ及ベリ、平カナルアリ、圓キアリ、尖レルアリ、銳キアリテ其ノ狀虎ノ踞マルガ如キアリ、獅子ノ眠ルガ如キアリ或ハ鵬ノ青空ヲカケルガ如ク或ハ鯨ノ白波ヲ蹴ルニ似タリ、其ノ數幾百千巖、巖ト重ナリ石、石ト接シ其ノ間洞窟ヲナス所亦多シ、中ニ就キテ最モ大ナルモノ高サ九尺深サ三十尺ニ至ル洞ノ内晝猶ホ暗クシテ、點滴ノ音ヲ聞ク奥ニ觀世音菩薩ノ石像ヲ安置ス、故ニ一名ヲ岩屋ノ觀音トモ稱ス、其ノ傍ニ一ノ草庵アリ崖ニ倚リ谿ニ莅ミテ峙ツ堂守ノ老僧アリテ朝暮勤行ノ絶ユルナク鉦子ノ音木靈ニ響ク實ニ幽邃ノ靈場ナリ、山燃ユル春ノ朝杜鵑啼ク夏ノ夕ハ更ナリ、錦織ル秋ノ眺メ雪積ム冬ノ影又一入ノ詩趣アリ故ニ一瓢ヲ腰ニシテ筇ヲ曳クノ雅人墨客常ニ絶ユルコトナシ。

名 號 石

足助街道ト九久平街道トノ分岐點即チ九久市街ノ入口ニ自然石ヲ以テ作レル一大碑アリ、高サ丈餘其ノ形三角柱狀ヲナシ其ノ表面ニ南無阿彌陀佛ノ六字ヲ彫ス、故

ニ世俗稱シテ名號石ト云フ。書ハ額田郡荒井山、九品院ノ大徳徳本和尚ノ揮毫ニ係リ天保十一庚子五月ノ建設ナリ、其ノ傍ニ一大藤樹アリ、鬱蒼タル古杉ニ攀リテ老幹高ク伸ビ蜿蜒トシテ恰モ蛟龍ノ天空ニ冲セントスルガ如ク大小無數ノ枝條四方ニ垂レテ行人ノ肩ヲ摩ス。開花ノ時之ヲ遠ク望メバ紫雲霞巒トシテ身、佛界ニ遊ブノ感アリ、傳ヘ謂フ開花ノ多少ヲ見テ秋季ノ洪水如何ヲト知スルニ一モ誤ルコトナシト云フ、然ルニ暴風ノタメニ老杉ト共ニ斃レ今ハ即チナシ。

因ニ九久平タル今ノ商店軒ヲ並ブルノ地ハ明治二十六年道路改修ノ結果新ニ山腹ヲ堀リ取り其ノ余土ヲ以テ築キ立テタル所ニシテ其ノ以前ハ現在ノ地盤ヨリ二十尺以下ノ低地ニアリタリ故ニ年々歳々巴川氾濫シテ其ノ災害ヲ被リ身命財產等ヲ失フモノ少カラザリシガ故ニ斯ノ如キ頑迷ノ説ヲ信ズルニ至レルナリ。

松 生 島

名號石ニ額キテ後ノ世ノ福多カラシコトヲ願ヒ踵ヲ反セバ之ヨリ種々ノ物ヲ商フ店、甕ヲ並ヘテ最ト賑ハシ某ノ茶亭ニ腰打チ掛ケテ午餉ノ膳ニ諸白イサ、カヲ酌ミ旅ノ勞ヲ慰メツ、アル程ニ「足助へ歸ルカラ御都合マデ如何」ナド聲五月蠅ク強ク

勸ムル馬丁ノ聲ヲモ聞カヌ振シテ乗ラヌモ却テ興多カラメ酒ホトリセシ顔ヲ涼シキ
 風ニ晒ラシ「舞雲ニ乗ジテ歸ル」ナド古キ詩ヲ口吟ミツ、行ケバ九久平ヲ離レント
 スル處ニ雙龍トナン云ヘル橋アリ、此所ヨリ人家疎ニナリテ、巴川廣ク開キ陡ノ間
 ニ集ル、其ノ川縁ニ出ヅレバ眼ノ前ニ細長キ一ノ小島横ハル松生島ト云フ、廣サ二
 百五十坪許リ島ノ中此所、彼所ニ年古ヒシ松樹生ヒ繁リ或ハ風ニ嘯ク虎ノ狀シタル
 或ハ空ヲ駈ケル龍ノ勢シタルナド未ダ見ヌ陸奥ノ松島モ斯クヤアリナンナド偲バル
 水洒レシタル大キナル又細ナル花崗石ノ飛ビ飛ビナル間ヲ登リテ恰モ岩モテ築キ
 タル如キ小高キ丘ニ出ヅレバコ、ニ市杵島姫命ヲ崇メ祀レル小サキ祠アリ、其ノ傍
 ニ自然石ノ石碑アリ、苔蒸ス面ヲ探レバ

「枯枝に鴉乃登萬梨たり安藝の暮」

テフ一句ヲ刻ム是レナン去ニシ元祿ノ昔、翁ノ行脚シテ杖ヲ止メシ紀念ナリト里人
 ノ口ノ端ニ殘ル。夫レヨリ左ニ廻ハレバ飽モテケヅリシ如キ崖ニ出ヅ崖下ノ深サ幾
 丈ナルヲ知ラズ水淀ミテ瑠璃ノ光ヲ放チ波岩ニ咽ビテ水晶ヲ碎ク嗚呼恐ロシト窺キ
 見レバ何時シカ肌ニ粟ヲ生ゼリ、岩ガ根ニ憩ヒテ近ク川上ヲ眺ムレバ駒飛石ノ水面
 ニ浮ビ出ヅルアタリ或ハ瀨トナリ或ハ淵トナリテ所々ニ小鮎鮠ナド心地能氣ニ遊ベ

ル最トモ嬉シ、遠ク川下ヲ望メバ港橋虹ノ如クカ、リ酒土管ナド積メル川瀬舟ノ五
 ツ三ツ登リ來ル眞帆片帆ノ影白ク舟歌ノ聲幽カニ波ヲ渡ルモ又面白シ。

鮎汲むや七里街道松生島

如風

瓢酒相携欲索詩

幾回來謁古神祠

輕舟閑繫巉岩下

將是香魚上綱時

海保貞山

遊九久平松生島詩

搖石

村内ヲ縦貫スル足助街道ヲ辿リテ東北ニ進メバ盛岡村ニ入ル、其ノ村界ノ一字ヲ
 大楠ト云フ、左ハ巴川ノ激流ニ臨ミ右ハ峨々タル山岳相連ナル其ノ山脈中ノ一峰字
 挾石ト稱スル所ニ花崗岩質ノ巨岩アリ、其形殆ンド不規則ニシテ橢圓形ヲナシ、周
 圍約三十尺高サ十四尺許リ數百人ノカヲ集ムルモ容易ク動カシ得ベカラザルノ概ア
 リ、然レトモ試ニ一小兒ヲシテ之ニ指頭ヲ觸レシムレバ忽チ動搖シテ止マラズ恰モ
 崖下ニ墜落セントスルノ狀ヲ呈ス、近人稱シテ「ゆるき石」ト云フ、所謂彼ノ三河
 二葉松或ハ尾三寶鑑等ニ出ヅルモノ則チ之ナリ。

因ニ郡道外下街道ノ傍大字下河内ト大田トノ境ニ同名ノ石アリ、動搖スルコト

前者ニ異ラズト雖モ其ノ形小ニシテ日ヲ同フシテ論ズルニ足ラス。

第十四章 墳墓

○德川家祖先ノ廟所

大字松平高月院境内ニアリ、塋域拾五坪、寶塔三基、一列ニシテ、各高サ三尺一寸往古ノ儘ナリ。

文政元年德川家齊、塋域ヲ修繕セララル。又従前ハ玉籬ハ木柵ナリシニ明治貳拾壹年柳澤保申伯ノ寄進ニ依リ花崗石ニテ改築セラレタリ。

松平太郎左衛門尉源親氏公墓

(中央)

應永元甲戌年四月二十四日逝去 年六十三

諡號 芳樹院殿俊山德翁大禪定門

從五位下三河目代三河守松平太郎左衛門尉源泰親公墓

(向テ右)

永享二庚戌年九月二十日逝去 年七十五

諡號 良祥院殿秀岸祐金大禪定門

藏人源親忠公室墓

(向テ左)

出雲守長親公ノ母堂ニシテ永正三丙寅年八月二十二日逝去

諡號 閑照院殿皎月珠光大禪尼

○松平乘元之墓

大字大給荻生山城趾ノ東ニアリテ墓表ニ大給城主源乘元之墓トアリ。

乘元法諡ヲ松明院ト云フ。荻生城趾ノ麓ニ松明院ト云フ寺ノ趾アリテ乘元創建ノ寺ナリ。松平眞乘天正年間額田郡細川村ニ移ル、此ノ時松明院モ亦從テ移ル。

○松平親乘之墓

大字梶立五輪山ニアリ。

法諡 瑞光院法林淨正居士

天正五年八月二十二日卒ス

○松平出雲守乘清之墓

(瀧脇始祖)

大字瀧脇曹洞宗長松院境内ニアリ。

諡號 長松院殿前雲州如海常心大居士

弘治二年三月二十五日討死

○松平三郎大夫乘遠之墓

(二代)

諡號 全真院殿大安是了居士

弘治二年三月二十五日討死

○乘遠嫡子松平久太夫正乘之墓

長松院殿寂圓性空居士

弘治二年正月五日討死

○松平出雲守乘高之墓 (三代)

諡號 松心院殿從五位下前雲州白雲乘高大居士

文祿元年正月二十九日卒

○鈴木重勝之墓

大字二本木ニアリ、法諡ヲ加相淨慶信士ト號シ、天文十七年十月七日卒ス、此墓表ニ喜安淨悅信士ト連題セリ。

○松平隼人助親正之墓

大字下屋敷ニアリ、墓側立石ノ正面ニ松平隼人助親正墓。右側ニ天保壬卯年夏造之。左側ニハ從五位下本目隼人正親直謹書トアリ。

大字大田信光寺ニ左ノ墓標アリ。

釋師重 應永三年三月二十六日

大納言師賢ノ子

藤原三位中將師重

釋淨誓 永享十一年九月九日

三位中將ノ子

青山次郎親重

釋圓西 大永五年正月十九日

半右工門ノ子

青山彦右工門

釋圓空 永正六年正月二十日

藤四郎ノ子(親重曾孫)

青山半右工門

釋淨圓 天文七年五月十四日

彦右工門ノ子

青山彦太夫

釋隆圓 元龜三年九月十九日

彦太夫ノ子

青山助太夫

釋隆昌 文祿四年三月二十七日

助太夫ノ子

青山藤右工門

○青山忠治之墓

大字築山妙昌寺境内ニアリ。

法諡 大興院殿桂岩英秀大禪定門

永享四年八月二十四日卒ス 年四十七

○祐椿夫人之墓

全シク妙昌寺境内ニアリ

青山忠治ノ室 法諡 仙壽院殿玉永祐椿大禪定尼

永享八丙辰年五月十七日卒ス

○青山光長之墓

全ジク妙昌寺境内ニアリ

法諡 榮徳院殿喜宗淨悦大禪定門

寶徳二庚子年三月三日卒ス

尙ホ全寺ニ芳樹院俊山徳翁（松平親氏）ノ墓石アリ

○鈴木織部康政之墓

大字九久平字社宮神ニアリ

諡號 定光院殿立屋我頓庵主

文祿四乙未年十月十四日卒ス

○鈴木市兵衛政重之墓

大字九久平字宮ノ根ニアリ

諡號 慧光院殿月溪源心居士

慶長九甲辰年十一月二十日卒

諡號 慈照院殿智覺妙因大姉

○松平尙榮之墓

大字林添晴暗寺境内ニアリ

法名 天岳院殿觀譽晴暗居士

承應三年三月卒

○戸田又久之墓

大字岩倉ニアリ。（墓標ノ文字判讀シ得ズ）

○氏江五郎左衛門並ニ夫人之墓

大字酒吞字ウジエニアリ、武田信玄ノ從士ニシテ、天正年間額田郡桑原村ニ於テ岡崎勢ト戦ヒ敗レテ酒吞ニ遁ル、折柄露山村ノ領主島村重之亟ト戦ヒ遂ニ討死セラレシラ此地ニ埋葬ス。故ニ「ウジエ」ノ字名起レリ、後年江戸神田ノ住人、林嘉兵衛墓碑ヲ建ツ。

第十五章 諸團體及諸會員

九〇

一、赤十字社

松平分區現在社員ハ特別社員七名、終身社員六百名、正社員百七十六名、合計七百八十三名ナリ。

一、愛國婦人會

松平村分會現在會員、佩有功章特別會員五名、同贊助員（男子）五名、有功章以外ノ特別修身會員三名、通常終身會員百九十四名、年賦會員百四十一名、合計三百四十八名ナリ。

一、軍人後援會

特別會員一名、通常會員三十五名ナリ。

一、尙武會

明治四十二年ノ創立ニシテ昭和四年三月會則ヲ改正シ、現在會員數千百四十五名ナリ。

一、教育會

明治三十九年ノ創立ニシテ現在會員數、千百四十名ナリ。

一、在郷軍人會

帝國在郷軍人會松平分會々員數、顧問一名、名譽會員十四名、正會員三百十七名ニシテ内會長一名、副會長二名ナリ。

一、松平農會

會員數千四百六十六名ナリ。

一、松平村青年團

現在團員四百三十名ニシテ、内正團員二百十一名、贊助團員二百〇九名ナリ。明治四十二年十一月三日ノ創立ニシテ各學區ニ支部ヲ置ク、支部名左ノ如シ。

幸海支部

岩倉支部

九久平支部

瀧脇支部

豊松支部

一、松平村女子青年團

大正五年二月六日ノ創立ニシテ現在團員百四十五名ナリ、各學校聯區ヲ區域トスル支部ヲ置ク。

一、東加茂郡教員協會南部會

會員數二十七名アリ。

九一

一、海員救濟會

松平村委員部現在會員特別會員二名、通常會員二十名ナリ。

一、山林會

特別會員七十三名、通常會員六名ナリ。

一、武德會

特別會員二十名、通常會員三百五十名ナリ。

一、蠶絲會

通常會員三十八名ナリ。

一、松平村佛教會

昭和三年四月一日ノ創立ニシテ現在會員數一千百四十名ナリ。

一、松平村婦人會

昭和九年四月一日ノ創立ニシテ現在會員一千百名ナリ。

一、松平方面事業助成會

昭和八年四月一日創立シ現在會員一千百四十名アリ。

第十六章 災害

個人ニ禍福アル如ク宇宙ニモ亦禍福アリ、然レ共豊年ト認ムヘキ歳少クシテ厄年多キ感アルヲ遺憾トス、今記録ノ存スル内最モ大ナル被害ヲ摘記スレバ左ノ如シ。

明治十五年十月一日（舊曆）水害

巴川ハ出水甚シク上流ヨリ家屋ヲ始メ多數ノ漂流物ニテ川面ヲ覆ヒ沿岸ノ被害多ク殊ニ九久平ハ現在ヨリ宅地ガ低地ニアリタル爲流失六戸、浸水五十八戸各戸浸水十余尺ニ及ヒ、兩岸共多大ノ損害ヲ受ケタルモ詳細ナル記録ナク其ノ實額ヲ知ルニ由ナシ。

明治二十二年九月十一日水害

明治十五年ヨリ出水位三、四尺（巴川）高く、各川沿岸ノ被害多ク、殊ニ巴川關係地ハ多大ノ害ヲ被リ、家屋ノ流失、浸水夥シク、家屋ト共ニ押シ流サレテ溺死シタル者九久平ニ二名アリ（築瀨芳五郎兩親）損害ニ關スル記録ナキモ今日ニ至ル迄出水位ハ其ノ例ヲ見サル高位ナリキ。

大正八年九月十六日水害

巴川ノ出水位二十六尺、其ノ他各川共氾濫シ被害ハ瀧川沿岸林添ニテ山林崩壊ノ爲メ死者四名、負傷二名ヲ出シタリ、其ノ他ノ被害建物ノ流失倒壊二十九棟浸水五十三棟、道路ノ欠壞九十九ヶ所、橋梁流失三十一本、破損三本、耕地ノ埋没及流失九十三町七反歩ニシテ損害總額三十三萬五千六拾九圓ト推定セリ。

昭和七年七月一日、二日ニ亘ル水害

最高出水位巴川一〇米〇、郡界川六米六ナリ。死者三名（長澤東）負傷五十二名建物ノ流失、倒潰百六十四棟、五割以上ノ減收被害アリタル反別四百五十六町三反歩、内一ヶ年以上十五ヶ年以下ノ荒地免租ヲ許可セラレタル反別九十町六畝十六歩。橋梁ノ流失、落橋十六本。道路ノ欠潰埋没百三ヶ所。山林ノ崩潰百八十七ヶ所。其他家財、原料、商品、製品等ノ流失モ多數アリタリ。

推定損害總額壹百四萬六千五百六十圓ナリキ。

災害ノ狀況

叡聞ニ達シ御内幣金ヲ下賜アラセラレ、罹災者一同感泣セリ、此ノ外罹災救助金九千三百十八圓。義捐金二千九百四十七圓。耕地復舊費補助六萬六千七百五十圓。道路、橋梁、補助四萬二千三百二十五圓トヲ受ケ何レモ復舊ヲナシタリ。

此ノ外縣ニテ直營ヲ以テ道路、橋梁、山林、河川等ノ復舊ニ費サレタル額（本村分）幾萬ナルカ詳カナラス。

今回ノ被害ハ前代未聞ナリシカスノ如キ多額ノ補助ヲ受ケタルモ未曾有ナリ。

因ニ同一被害狀況ニアリタルハ本郡下山村、額田郡下山村、常磐村、岩津町ノ四ヶ町村アリタリ。

第十七章 人物

(イ) 武人

松平信盛公

在原廣俊ノ嫡男ニシテ公家ニ生レシモ弘安二年京都ヲ出テ、武家トナリ外下山郷ヲ拜領シテ入郷ス。其ノ際松樹ノ繁茂シ居ルヲ見テ是レ我が家門隆盛ノ兆ナリトシテ喜ビ、村名ヲ松平ト改メ土地ヲ鑿キテ館ヲ建テ、居住シ姓ヲ松平ト改ム、是レ在原家ノ始祖ナリ。

其ノ開拓ニ用ヒタル道具ノ一部今尙ホ現在ス、其ノ内鐵槌ノ如キ重量四貫五百匁アリ。

松平太郎左衛門信重公

九六

信重公ハ信盛ノ嫡男ニシテ武道ニ達シ其ノ家富ミテ豊ナリキ然レ共男子ナク、女子アリ應永、永享ノ頃坂井郷（碧海郡ト云ヒ、幡豆郡ト云フ、何レガ信ナルヤ詳ナラス）坂井（酒井）五郎左衛門ノ婿（婦ハ夭折シテ無シ）ト連歌ノ席ニテ親ミ遂ニ請ヒテ婿トナシ家督ヲ讓リテ隱居スルヤ其年卒スト謂フモ年號、享年詳カナラス墳墓ハ松平ノ比久尼山ニアリ。

松平太郎左衛門親氏公

公ハ新田政義ノ孫世良田有親ノ子ナリ、當時足利氏新田ノ一族ヲ斷タント、其搜索嚴重ナリケレバ父、弟ト共ニ僧トナリ、徳阿彌ト號シ流浪シテ坂井村ニ遇居ス、郷士坂井（酒井）五郎左衛門ノ信用厚ク請ハレテ其ノ女婿トナル一男（廣親）ヲ擧ゲテ幾何モナク其ノ婦ハ死没セリ。後松平信重ノ女ニ配シ、其ノ家督ヲ嗣キ太郎左衛門ト改ム。

親氏武勇、徳望克ク衆ヲ懷ケ士ヲ集ム、隣村林添村ニ藪田源吾忠元ト云フ暴戾ナル者アリテ民ヲ苦ムルコト甚シ、親氏見ルニ忍ヒズ之ヲ討チ亡ス、夫レヨリ武威益擧リ近隣ノ豪族來リ服スル者十七名（所謂中山十七名ト呼フ者アリ）ニ及ブ。

家督ヲ弟泰親ニ讓リ徳阿彌ト號シ大盤若經ヲ書寫シテ各所ニ奉納セラル（足助八幡宮）應永二十七年十一月八日徳阿彌ト奥書ス又常磐村大字瀧ノ萬松寺ノ法華經奥書ニハ應永三十四年二月十一日三河國松平郷主太郎左衛門尉源親氏トアリト云フ其ノ歿年ニ附テハ種々ノ説アリテ一定セス（詳細ハ岡崎市史ニアリ）墳墓ハ高月院ニアリ。

松平太郎左衛門泰親公

父（有親）兄（親氏）ト共ニ僧トナリテ三河ニ來リ居住ス後還俗シテ松平ニ移ル兄（親氏）ノ雄圖ヲ援ケテ武名ヲ揚ゲ繼イデ家政ヲ執ルニ及ヒ太郎左衛門ト改ム。岩津城ニ籠リテ威ヲ振ヒシ中根大膳（岩津大膳ト呼ブ）ヲ亡シ城ヲ修メテ信光ヲシテ守ラシム。

又大平城ヲ攻メテ之ヲ畧ス、威武大ニ振フ、當時參河ニ謫セラレタル朝臣アリ（洞院大納言實瀨ト明記セルモノアリ）泰親ヨク之ヲ扶助シタルヲ以テ其ノ許サレテ歸洛スルニ及ビ又之ヲ送リ行キシヲ賞セラレ參河ノ目代ニ任セラレタル由ヲ傳フ。永享二年九月二十日卒ス（卒年ニ就テハ種々ナル説アリ）享年明カナラザレド恐ラク七十歳ナリシナルベシ。墳墓ハ高月院ニアリ。

九七

松平乗元公

松平親忠（松平信光ノ子）ノ次子ナリ嘉吉三年生ル、初メ源次郎ト稱シ後加賀守ト改ム、父親忠ヨリ大給及ビ細川ノ兩城ヲ受ケ後又軍功ニ依リ奥殿、桑原、瀧脇、宮石、鍋田、下河内等ノ諸邑ヲ加封ス、是レ大給松平ノ始祖ナリ。

家督ヲ嫡子親世ニ讓リ剃髮シテ崇忠ト號ス。

天文六年四月十五日卒ス。年九十五歳

大給村城山ニ葬ル。

松平乗正公

乗元ノ嫡子ニシテ文明十四年生ル、初メ親世ト稱シ父ノ家督ヲ嗣キ細川城ニ居ヲ占ム、永正三年八月駿河ノ今川勢、岩津城ヲ攻ム親世先鋒トナリテ襲撃シ大ニ功ヲ奏ス、同七年鈴木氏（加茂郡）ト戦ヒ其ノ軍ヲ敗ル後大給ノ城壘ヲ修築シテ是ニ移ル之ヨリ名聲四方ニ知ラル名ヲ改テ乗正トス。

天文十年四月朔日卒ス。享年六十歳。足助町寶珠院ニ葬ル。

諡ヲ大光院攝翁成心大居士ト云フ。

鈴木次郎左衛門重信公

永正元年甲子酒吞ニ生ル、重政、信定、重村ノ三子ヲ卒ヒテ家康ニ仕へ、家ヲ興ス、元龜三年武田勝頼三河ニ侵入スルヤ足助、淺谷、八桑、阿摺、稻生、大沼、田代等ノ城砦皆陷ル、國谷ノ神詞、則定ノ藥師等ヲ燒キ、酒吞ニ迫ル、重信奮戦シテ敵ヲ撃退シ酒吞ノ砦ノミハ無事ナルヲ得タリ。

天正十二年卒ス。年八十一歳ナリキ。

鈴木織部康政公

康政ハ重信ノ三男ナリ、天正年中九久平村ヲ始メ外四ヶ村ヲ采地トス、父重信ハ酒吞村ニ居リ、長兄重政ハ則定村ニ移リ、次兄友之助政勝ヲシテ宗家ヲ嗣ガシム。之ヲ三鈴木ト謂フ、天正九年二月遠洲高天神ノ役ニ戦功アリ依テ家康ノ一字ヲ賜リタリト云フ、是レ九久鈴木ノ祖ナリ。

文錄四年十月十四日卒ス。享年詳カナラズ、九久平ニ葬ル。

菅沼作左衛門氏

祖父源一郎關東ヨリ流浪シテ三河ニ來リ九久平村ニ住ム、其ノ子彦右衛門屢々地頭鈴木康政ニ謁見ス、其ノ子作左衛門ニ至リ、鈴木家ノ家臣トナル、地頭鈴木市兵衛政重（鈴木家二代九久平ニ葬ル）ニ仕フ、慶長五年九月關ヶ原ノ役ニ徳川秀忠ニ

扈從シ東山道ヨリ進ミ戰功アリ伏見ニ於テ褒銀ヲ賜ル、爾來仕ヘテ忠勤セリ。
正保四年七月病歿ス。

松平太郎左衛門尙榮公

尙榮ノ父隼人佐由重ハ、松平親長ノ二男ナリ、尙榮ハ初メ藤之助、後太郎左衛門ノ稱ヲ襲フ、關ヶ原ノ役ニハ弟信晴ト共ニ家康ニ從ヒテ功アリ、慶長十八年舊領地ヲ賜リ、翌年大阪冬ノ役ニ從軍シテ功アリ、凱旋ノ後松平郷林添二百三十石餘ヲ加賜セラレ、家格一萬石以上ニ準ゼラル、正保年間剃髮シテ晴暗ト號ス、承應三年三月卒ス。年八十四歲。晴暗寺ニ葬ル。

一字ヲ建テ、晴暗寺ト號シ現在ニ至ル。

明治以後戰病殉死者人名

墓標名	所在地	官等氏名	略	歴
法名 釋 專 精	大字重田和	陸軍一等看護長 三田 磯 次郎		明治二十六年十二月入營明治二十八年清國海城附近ノ戰ニ參加明治二十九年臺灣守備隊ニ轉勤明治三十三年一月二十六日臺灣陸軍軍醫部ニ於テ病死ス

彰忠院鎌譽深廣智海居士

大字松平

海軍少尉正八位勳六等

近藤 鎌吉

明治三十三年十二月海軍兵學校ニ入學明治三十六年十二月卒業軍艦橋立乘組明治三十七年一月軍艦吉野ニ轉乘旅順、浦鹽、斯德等ノ海戰ニ參加全年五月十五日友鑑春日ト衝突吉野艦沈没ニ殉ス

誠忠院松岳永壽居士

大字岩倉

陸軍歩兵上等兵勳八等

河合 松三郎

明治三十七年三月應召明治三十七年清國、南山附近ノ戰ニ參加明治三十七年十月十四日全月十一日死亡

盡忠定安居士

大字九久平

陸軍歩兵一等卒勳八等功七級

松井 定吉

明治三十七年九月應召明治三十七年清國沙河附近ノ戰ニ參加明治三十七年十月十四日全所ニ於テ戰死

法名 釋 周 顯

大字椿木

陸軍歩兵上等兵勳八等功七級

蟹 廣吉

明治三十七年三月應召明治三十七年清國南山附近ノ戰ニ參加明治三十七年十一月十三日新立屯戰地定立病院ニ於テ病死

法名 釋 昇 然

大字九久平

陸軍工兵一等卒勳八等

宮嶋 幸太郎

明治三十七年應召明治三十七年清國龍山東舊砲臺前面攻撃戰ニ參加明治三十七年十二月十七日全所ニ於テ戰死

法名 釋 順 秀

大字林添

陸軍歩兵一等卒勳八等

柴田 鈴彦

明治三十七年十月應召明治三十八年清國奉天附近ノ戰ニ參加不幸膺寇扶斯ニ罹リ明治三十八年九月十二日大房身野戰病院ニ於テ病死

法名 釋 義 岳

大字赤原

陸軍歩兵上等兵勳八等功七級

小笠原 銀次郎

明治三十五年十二月入營明治三十七、八年清國南山、得利寺、海城、遼陽、首山堡、沙河、黑溝臺、奉天等ノ戰ニ參加依唐相公臺患者療養所ニ明治三十八年十月十九日死亡

全忠院名譽勇戰居士	大字岩倉	海軍二等水兵勳八等功六級 河合明	昭和五年六月吳海兵團へ入團昭和七年一月遣外艦隊司令部轉軍艦大井便乘上海陸戰隊司令部付昭和七年二月三日上海勤務第三艦隊司令部付戰死
輝譽忠山勇心居士	大字岩倉	陸軍工兵上等兵勳八等 成田輝吉	昭和六年一月電信第一聯隊入營全年十一月關東軍電信隊編入滿洲事變入軍昭和七年六月依病遂陽衛戍病院奉天分院三月日本赤十字社愛知支部八事療養所に移り昭和九年十月十八日全所於テ死亡
興國院仁譽義道禮厚居士	大字松平	海軍大尉正七位勳五等 近藤厚	昭和二年四月海軍兵學校入學昭和五年十一月全校卒業軍艦八雲外數艦乘組昭和六年乃至九年ノ事變ニ從軍昭和十年十月舞鶴海軍空隊於テ濃霧ノ爲テ殉死

原田 十 吉翁

大字日明二十八番戸ニ呱呱ノ聲ヲ舉ケラレシハ明治元年十月十日デアル、父ヲ孝七ト呼ヒ其ノ二男デアアル、明治二十一年徵兵ニ合格シ豊橋歩兵第十八聯隊ニ入隊セラル、三ヶ年ノ現役ヲ終リテ飯郷スルヤ、農耕ニ從事セラレタ、明治二十七年日清事變ノ起ルヤ同年八月五日充員召集ニ應シ歩兵第十八聯隊第六中隊ニ入隊シテ出征シ平壤戰ニ參加セラル、九月十五日午前六時ヲ期シテ平壤總攻撃ヲナス可シトノ命令ハ下リ（當時ノ聯隊長ハ鬼將軍トシテ有名ナ佐藤正大佐デアアル）伏シテハ射チ起

キテハ進ミ一壘ヲ奪ヒ、二壘ヲ取り、斯クシテ三壘ヲ越へ前進又前進シテ漸ク玄武門ニ達シタルモ土塀ヲ以テ廻ラシ何等施ス術モ無シ、何ノ障壁モナキ此ノ地ニ躊躇ハ出來ス決死ノ同士十三人ト共ニ塀上ニ攀シ登リ、早速身ヲ躍ラシテ内部ニ入り敵ヲ追ヒ散ラシテ障害物ヲ除キ滿身ノ力ヲ籠メテ錠前ヲ叩キ切ラムトセラレシモ仲々碎ケズ、此ノ上ハ神ノ力ニ依ル外ナシト、常ニ信仰セラル、六所神社ヲ念シツ、無我ニテ引カレタルニ斯ノ健固ナリシ錠前モ遂ニ破壊スルコトガ出來直ニ開門シテ味方ヲ引キ入レテ平壤城ヲ占領スルヲ得、玄武門（先登）破リノ勇士ノ名ハ三歳ノ童子モ知ルニ至レリ、明治二十八年六月二十八日凱旋、功七級金鷄勳章ヲ賜ツタ、凱旋後ハ農業ニ從事シテ専心自給肥料ノ研究ニ努メラレタ。

明治三十七年日露戰役ニ際シ後備歩兵第五十二聯隊ニ召集セラレ同年十二月十一日應召、大石橋附近、奉天附近ノ戰鬪ニ參加シ三十八年十一月三十日凱旋セラレ、爾來専心農蠶業ニ從事シ自給肥料トシテ燠炭肥料ヲ製造シ米麥ノ多收穫ヲ圖リ遂ニ反當十六俵收穫ノ大成功ヲナシ、大正十三年十二月愛知縣知事ヨリ優等賞ヲ得ラレタ。

副業トシテ粟ノ栽培ヲナシテ有利ナルヲ示シ、尙餘技トシテ「玄武」ナル書ヲ克

クセラル、實ニ氏ノ如ク出テ、ハ國家ノ干城トナリテ勇名ヲ轟カシ入リテハ實業ニ
従事シテ研究ヲ爲ス等眞ニ國民ノ龜鑑デアル。

(ロ) 文人

勳七等 菅沼錄造氏

氏ハ九久平領主鈴木清之助ノ代官彦衛ノ長男ニテ嘉永五年三月十五日九久平村ノ
家ニ生ル、家ハ代々代官職タリ。

資性温厚、恪勤ニシテ德望アリ、明治八年十一月志賀神社祠掌ヲ拜命シ、明治十
二年二月一日九久平村長ニ就職、明治十八年五月九久平村外十二ヶ村戸長ニ就任、
明治二十一年町村制ノ施行セラル、ヤ、同一區域ヲ以テ小川村ヲ創設セラレ選レテ
村長トナリ爾來其ノ職ニアルコト十六年、其ノ間郡會議員ニ當選三回明治三十八年
十一月村長ヲ辭職セラル、迄戸長、村長ヲ通シテ二十六年、此制度變革期ニ長年月
其ノ職ニ盡サレタル功績多大ナリト謂フヘシ、今其ノ一、二ヲ揚クレバ九久平小學
校ノ建設、増築、役場ノ新築、道路ノ改修、産業ノ開發及日清日露兩戰役ノ當時、
村民ヲ指導シテ歸趨ヲ誤ラシメス殊ニ軍需品ノ献納ニ努メララル、等自治ニ生涯ヲ捧
ケラレタル功績ハ筆紙ニ述べ難シ。

明治三十九年四月一日、日露戰役ノ功ニ因リ勳七等青色桐葉章ヲ賜フ。

明治四十二年六月五日五十八歳ニテ卒去セラル。

正七位勳六等 近藤行太郎氏

氏ハ明治五年十一月六日松平村ニ生ル、父ヲ源三郎ト云ヒ其ノ長男ナリ、其ノ祖
近藤正元松平郷ニ來住シテヨリ代々松平家ノ家臣タリ。

氏ハ明敏ニシテ神童ノ譽アリ小學校ヲ卒業スルヤ直ニ戸長役場書役トナリ、續テ

豊榮村
松平村

組合村役場書記ニ任用セラル、明治二十三年十一月四日東加茂郡役所雇トナ

リ、同二十六年十二月十四日東加茂郡書記ニ任セラル、明治三十一年四月十一日任
愛知縣屬、明治三十六年普通試験ニ合格シ、三十八年十月四日内務屬ニ任セラル、

明治四十一年十二月法政大學專問部法律科ヲ卒業シ大正八年三月正七位ニ叙セラル。

大正十一年三月三十日土木事務官叙高等官六等依願免官トナル。

大正十一年四月一日地方局事務取扱ヲ囑託セラル、又岡崎市顧問トナル、五月三
十一日叙勳六等瑞寶章ヲ賜ル。

大正十三年一月十四日享年五十三歳ニテ卒ス。

内務省地方局ニ在ルコト實ニ十七年生キ字引ノ稱アリタリ。

氏ハ篤學ノ士ニシテ常ニ自治ニ關スル研鑽ニ努メ遂ニ、市制町村制正義、町村制例規判例輯覽、市町村稅特別稅、市町村制實例總覽等ノ名著アリテ地方自治ノ振興ニ貢獻セラレタルコト多大ナリ、全國幾萬ノ自治行政ヲ鞅掌スル者ニ好箇ノ羅針ヲ與ヘラレタル功績筆紙ニ盡シ難シ。

從四位勳四等 成瀬名尾彌氏

氏ハ額田郡奥殿藩士兵馬ノ長男ニシテ慶應元年七月九日藩邸ニ生ル、明治十年四月茅原村ニ轉住ス、明治十三年二月ヨリ助教トシテ九久平學校ニ教鞭ヲ執リ、明治二十一年退職シ、同二十三年十月裁判所書記登用試験ニ合格名古屋地方裁判所書記ヲ拜命ス、是レ氏ガ司法畑ニ入ルノ第一歩ナリ、明治二十七年五月官ヲ辭シテ私立東京法學院ニ入りテ勉學シ螢雪ノ功空シカラス、明治三十一年十二月判事檢事登用試験ニ及第シテ司法官試補トナリ、長野區裁判所詰ヲ命セラレ、爾來各地ニ轉補セラレ到ル處令名アリシガ大正十三年五月二十三日大阪控訴院部長高等官二等ノ現職ニアリテ逝去セラレ、享年六十歲。

同日付ヲ以テ從四位勳四等ニ叙セラレ。

本村出身中明治、大正時代ニ於ケル最高位ニ昇ラレシ立志傳ノ人ナリ。

坂本七郎氏

安政四年三月八日尾張熱田御所内ニ生ル、明治十一年六月愛知縣師範學校ヲ卒業、明治十二年四月東加茂郡仁王學校長トナリ、爾來教職ニ在ルコト三十九年其ノ間謹直ナル氏ノ誠意アル教化ハ兒童、青年、郷黨ニ汎ク及ボシ、明治初期ニ於ケル初等教育者トシテ其ノ功績實ニ大ナリ、氏ノ薰陶ヲ受タル多數ノ郷黨ハ相謀リ大正七年十二月豊松尋常小學校庭ニ一大彰德碑ヲ建テ師ノ德ヲ萬世ニ傳フ。

大正七年四月退職後大字東宮口ノ自宅ニ安靜シ昭和四年三月三十一日享年七十三歲ニテ逝去ス。

彰德碑文

坂本君稱七郎貫于三河東加茂郡松平村東宮口安政四年三月八日生于尾張熱田御所内明治九年入愛知縣師範學校十一年六月卒業奉職愛知郡植田學校十二年四月轉東加茂郡仁王學校長爾後廢合數字三十八年五月改豊松尋常高等小學校君每爲校長四十年七月退職爲代用教員以至大正七年四月委身郷學三十九年眞摯精勵所薰陶太夥郷人相謀建彰德碑請銘于余銘白

教育抽身 感化郷黨 三十九年

坂本先先生碑

盡瘁鞅掌

厥德維馨

父老瞻仰

大正七年十二年

文部大臣正四位勳三等

中橋徳五郎

題額

東加茂郡長從六位勳六等

鶴見專太郎

撰文

野田鐵謹書

(ハ) 篤行者

宮本儀平氏

桂野村宮本八右衛門ノ弟ニシテ寛政九丁己年正月二日其ノ家ニ生ル、長シテ分家ヲナシ製粉業ヲ營ミ孜々トシテ怠ラス少時ニシテ産ヲ收ム、資性數理ニ通シ商才ニ富ム。

由來桂野村ハ良田少クシテ糧米ヲ自給シ能ハサル状態ナリキ。

偶天保ノ凶作ニ遇ヒ里民ノ窮狀ヲ目撃シタル氏ハ田ノ開墾ヲ思ヒ立チ自己製粉用水路ヲ基準トシテ毎夜月光ヲ便リトシテ密ニ測量ヲナシ約三町歩ノ畑ニ灌漑ヲ爲シ得ルノ確信ヲ得タルヲ以テ之ヲ里民ニ諮ヒ贊同ヲ得テ嘉永元戌申年用水路ノ開墾ヲ起工スルト共ニ地目ノ變換ニ着手シ僅々二ケ年ニシテ工成リ舊來ノ畑ハ面目ヲ改メ

テ美田ト化シ糧米ハ自給シ得ルニ至リ里民喜ヒテ新ニ成レル用水ヲ新田用水ト稱シ其ノ徳ヲ賞ス。

氏ハ又讓酒業ヲ營ミ大ニ得ル處アリタリ。

氏ノ生涯ハ入りテハ産ヲ收メテ家ヲ富シ、出テハ一身ヲ捧ゲテ公事ニ効シ郷黨ノ福利ヲ進ム等實ニ其ノ効偉大ニシテ後世ニ朽チサルナリ。

明治十一年五月十二日享年八十二才ニテ卒ス、聞ク者悼惜セサルナシ。

近藤 勇氏

氏ハ文化六年九月三十日松平村ニ生ル、幼ニシテ慈父ニ死別シ、一家ノ生計ヲ若少ナル双肩ニ荷ヒテ成長ス。

克己心強ク温厚ニシテ學識アリ、常ニ若者(青年)ノ教育ニ力ヲ効シ、自宅ヲ修業場トシテ指導薰育ニ努メルト共ニ民心ノ善導ニ盡瘁セラレシガ偶々天保飢饉トナルヤ百方奔走シテ善後策ヲ講セシモ成ラス遂ニ下河内ノ松平辰造等ノ騷擾事件起ルヤ之レニ參加シテ農民ヲ窮迫ノ中ヨリ救済スルニ努メタルモ其ノ罪ヲ問ハル(判決ハ御叱リ)後免サレテ飯郷スルヤ益々思想ヲ善導シテ勤勞ヲ奨メ身ヲ以テ範ヲ垂レ篤農ノ譽高カリシカ明治十八年六月五日享年六十七歳ニテ逝ク。

加藤 ふき 女

大給村加藤清平ノ後妻ナリ、姑ニ孝養ヲ盡シ且ツ繼子ヲ慈ム、偶々老母ノ中風症ヲ患フヤ、其ノ看護ニ事フルト共ニ一家緝睦ヲ旨トシテ家事ニ勉勵スル等其ノ行爲奇特ニ付明治十九年三月愛知縣知事ヨリ金圓ヲ下賜セララル。

明治三十七年三月十三日死去ス。

成田 まつ 女

岩倉村成田半三郎ノ長女ニシテ天保十年八月十一日生ル。

家貧ニシテ所有地僅々二畝三步ナリ、小作農ヲ業トシ傍ラ船乗ヲ兼業シ辛シテ糊口スルヲ得居リタルニ安政年中父半三郎ハ妻子ヲ振り捨テ家出シテ不明トナリタリ、資性温厚ニシテ孝心深キ、まつハ他家ニ傭レテ糊口ノ資ヲ得テ母ニ仕ヘス、然ルニ母病氣ニ罹リケレバ日夜看護ニ手ヲ盡ス傍ラ僅少ナル自己ノ衣類ヲ賣却シテ藥餌ノ資ニ充ツル等只管療養ニ手ヲ盡スコト久シキニ亘ルモ倦怠ヲ見ス實ニ衆ノ模範タリ仍テ、明治十一年五月愛知縣知事ヨリ其ノ善行ヲ賞シ金圓ヲ下賜セララル。

明治四十一年八月十九日死去ス、

鶴見 うた 女

桂野村ノ人嘉永三年十一月十一日喜平ノ長女ニ生ル、幼ニシテ母ニ別レ父ニ仕ヘテ孝養ヲ怠ラス、家貧ニシテ生活困難ナレバ家業ニ一層精勵スル傍ラ他家ニ傭レテ賃金ヲ得テ老父ニ嗜好物ヲ與ヘ納税ハ期日ヲ誤リタルコトナク附近ノ寺院ニ法話アルヤ老父（盲目ニ等シ）ヲ背負ヒテ參詣セシメル等其行爲殊勝ナリトシテ明治十二年四月愛知縣知事ヨリ賞トシテ金圓ヲ下賜セララル。

昭和二年一月十日死去ス。

第十八章 褒 賞

明治二十六年以降表彰ヲ受ケタル者左ノ如シ（郡役所以下ヲ除ク）表彰文ハ省略ス
松平村及村農會ノ受ケタルモノ

官 公 衙 名	年 月 日	褒 賞 事 項
日本赤十字社長	明治四十四年三月十八日	社業ノ進歩顯著ニシテ成績良好
愛 知 縣 知 事	大正三年三月三十日	多年納税完納
名古屋稅務監督局長	大正三年十一月二十日	同

同	大正八年七月二十四日	同	
帝國森林會長	大正十年十二月一日	植樹成績優秀	
愛知縣知事	大正十三年二月十一日	多年納稅完納	
名古屋稅務監督局長	昭和三年十一月十日	同	
岡崎稅務署長	昭和五年十一月三日	同	
愛知縣知事	昭和十一年一月二十三日	經濟更生成績優良	
愛知縣知事	昭和十年六月十日	定時勵行	

團體及個人ノ受ケタル者

官公衙名	年月日	褒賞事項	受賞者
愛知縣知事	明治廿九年十一月十八日	巴川ニ顛落溺死セントスル者ヲ救助シタルニ依リ	木戸末次郎
同	明治三十八年三月三十日	學務委員トシテ功績顯著	竹内善重
同	明治四十一年三月卅一日	農蠶業ノ改良功績	石倉藤吉
大日本農會總裁	明治四十二年十二月九日	農村風紀ノ改良	竹内善重

愛知縣知事	大正二年三月三十日	模範產業従業員	柴田みと
同	同	同	近藤きよ
愛知縣農會長	大正二月十月二十六日	多年農業振作ニ盡力ノ功績	石倉藤吉
愛知縣知事	大正六年二月十一日	誠實勤勉克業務精勵	寺澤齊次郎
同	大正十年二月十一日	多年農事ニ精勵シ改良發達ニ資シタル功績	三浦鋏二郎
愛知縣農會長	大正十一年十月二十九日	農事改良發達ニ盡力功績	鈴木惣次郎
愛知縣知事	大正十三年十月三十一日	金品寄附	鈴木權吉
名古屋稅務監督局長	昭和三年十一月十日	租稅道德ノ振興ニ實踐窮行シ民心ヲ善導シタル功績	加藤文嗣
愛知縣知事	昭和四年四月二十九日	地方開發功勞	宇野鐘太郎
同	昭和五年二月十一日	孝子	高木芳夫
同	同	地方自治功勞	加藤伊三郎
陸軍大臣	昭和八年二月十一日	軍事功勞	坂本衛壽
帝國農會長	昭和八年三月二十五日	經濟更生事例優良	平岩庄三郎

愛知縣農會長	昭和八年九月三十日	經營狀況、記帳成績優良	同人
愛知縣知事	昭和九年三月一日	共同經營ノ成績顯著	歌石農事改良 實行組合
同	昭和九年六月八日	金品寄附	中根 金造
愛知縣農會長	昭和十年三月二十一日	經營狀況、記帳成績優良	柴田 止生
文部大臣	昭和十年九月三十日	青年指導功勞	原田 重雄
農林大臣	昭和十一年三月十六日	農林統計改善刷新	鈴木竹次郎
愛知縣知事	昭和十一年四月二十九日	地方自治功勞	宮川 鏝三郎
大日本蠶絲會總裁	昭和十一年五月二十五日	蠶絲業ノ共同經營優良	下河内養蠶 實行組合

在郷軍人松平分會ノ受ケタルモノ

官公衙名 年 月 日 褒 賞 事 項

帝國在郷軍人會 豐橋支部長	昭和四年二月十一日	諸般ノ事業成績優秀	
同上第三師團管 聯合支部長	昭和七年一月四日	會ノ向上發展ニ努力ノ功勞	
帝國在郷軍人會長	昭和八年七月一日	諸般ノ事業成績優秀	

第十九章 附 錄

三河縣履記

天保七丙申年ハ春以來氣候不順ニシテ五穀餘ラズ所謂天保ノ大飢饉トナリ物價日
 二日ニ騰貴シ申ニモ米ノ如キハ前年ノ冬ニハ一兩ニ付七斗至ノ相場ナリシガ俄然四
 斗臺ニ上リ民皆糊口ニ窮シ生活ノ難ヲ叫ブ聲、巷ニ充テ滿チテ物價騰然タリ。

附 錄

時ニ九久平村定吉ノ男ニ仙橋ト云ヘルモノアリ。之レガ救濟ノ道ハ米ノ價ノ安カ
 ラシムルニアルベク、米價ヲ下落セシムルハ人心ヲ煽動シテ、地方ニ不穩ノ事アル
 ナリ。然シテ商人ヲ恐怖セシメテ、以テ値下ゲヲ遂行セシム
 其ノ弟實義及北川向村文藏ノ男仙藏等ト謀リ先づ五久平村に於テ
 河内村長實義及北川向村文藏等ト謀リ先づ五久平村に於テ
 河内村長實義及北川向村文藏等ト謀リ先づ五久平村に於テ

愛知縣農會長	昭和八年九月三十日	經營狀況、記帳成績優良	同
愛知縣知事	昭和九年三月一日	共同經營ノ成績顯著	歌石農事改良 實行組合
同	昭和九年六月八日	金品寄附	中根 金造
愛知縣農會長	昭和十年三月二十一日	經營狀況、記帳成績優良	柴田 止生
文部大臣	昭和十年九月三十日	青年指導功勞	原田 重雄
農林大臣	昭和十一年三月十六日	農林統計改善刷新	鈴木竹次郎
愛知縣知事	昭和十一年四月二十九日	地方自治功勞	宮川 鏝三郎
大日本蠶絲會總裁	昭和十一年五月二十五日	蠶絲業ノ共同經營優良	下河内養蠶 實行組合

在郷軍人松平分會ノ受ケタルモノ

官 公 衙 名	年 月 日	褒 賞 事 項
帝國在郷軍人會 豐橋支部部長	昭和四年二月十一日	諸般ノ事業成績優秀
同上第三師團管 聯合支部部長	昭和七年一月四日	會ノ向上發展ニ努力ノ功勞
帝國在郷軍人會長	昭和八年七月一日	諸般ノ事業成績優秀

附 錄

愛知縣農會會長	昭和八年九月三十日	經營狀況、記帳成績優良	同
愛知縣知事	昭和九年三月一日	共同經營ノ成績顯著	同
同	昭和九年六月八日	金品寄附	同
愛知縣農會會長	昭和十年三月二十一日	經營狀況、記帳成績優良	同
文部大臣	昭和十年九月三十日	青年指導功勞	同
農林大臣	昭和十一年三月十六日	農林統計改善功勞	同
愛知縣知事	昭和十一年三月二十九日	地方自治功勞	同
大日本蠶絲會總長	昭和十一年五月二十五日	蠶絲業ノ共同經營優良	同

在野軍人松平分會ノ受テタルモノ

官公 姓名	年 月 日	褒 賞 事 項
帝國在野軍人會 支 部 長 關上 第三團團長	昭和四年二月十一日	諸般ノ事業成績優秀
同上	昭和七年三月十四日	同上

第十九章 附 錄

三河騷擾記

天保七丙申年ハ春以來氣候不順ニシテ五穀稔ラズ所謂天保ノ大飢饉トナリ物價日ニ日ニ騰貴シ中ニモ米ノ如キハ前年ノ冬ニハ一兩ニ付七斗臺ノ相場ナリシガ俄然四斗臺ニ上リ民皆糊口ニ窮シ生活ノ難ヲ叫ブ聲、巷ニ充チ滿チテ物情騷然タリ。

時ニ九久平村定吉ノ男ニ仙橋ト云ヘルモノアリ。之レガ救濟ノ道ハ米ノ價ヲ安カラシムルニアルベク、米價ヲ下落セシムルハ人心ヲ煽動シテ、地方ニ不隱ノ舉アルガ如ク風説ヲ立テシメ然シテ地方ノ商人ヲ恐怖セシメテ、以テ値下ゲテ遂行セシムルニ如カズトナシ、其ノ弟繁喜及北川向村文藏ノ男仙藏等ト謀リ先ヅ九久平村附近ニ流言ヲ傳布セシメ、而シテ下河内村辰藏及比松平村柳助ノ二人ハ地方ニ於テ名望モアリ信用モアルモノナレバ其ノ一人ニ請ヒテ之レガ主唱者タラシメントセリ。

當時辰藏モ亦思ヘラク今ヤ米價頓ニ騰貴シ貧民日ニ困難ヲ極メ將ニ餓死セントスルモノアルヲ見ル、豈憐然ノ極ナラズヤ我レ之レヲ見ルニ忍ビズ如何ニモシテ之レガ救濟ノ策ヲ立テザルベカラズ。之レヲ救フノ道敢テ他アルナシ各地頭ニ訴ヘテ其

ノ藏ムル所ノ穀ヲ出サシメ時價ニ拘泥セズ渾ベテ一兩ニ六斗位ノ價格ヲ以テ糶セシメ一方地方ノ釀造家ニ強イテ其ノ本年ノ讓造額ヲ減少セシムル時ハ彼ノ需要供給ノ平均ヲ得テ自然價格ノ下落ヲ見ルニ至ルベシ。然レドモ之レ甚ダ至難ニシテ容易成功スベクモアラズ縦令身ハ如何ナル重科ニ處セラルトモ之レ多クノ人々ノ爲ナリ此ノ非常ナル場合須ク非常ノ方法ニ依ラザルベカラズ。故ニ先ヅ各村ヨリ多數ノ農民ヲ集合セシメ一撥徒黨シテ騷擾ヲナサントスルガ如クナシ以テ釀造家ヲ威喝シ傍ラ交渉ヲ開始スル時ハ各地頭等ハ必ズ鎮撫使ヲ派遣セシムベシ。果シテ然ラバ其ノ時直ニ其ノ吏ニ就キ面ノアタリ狀ヲ具シテ哀訴惻願スル時ハ必ズ願意ノ徹底スルコト疑ナカラント、專ラ其ノ實行上ニ思ヲ凝シツ、アリキ、干時九月十六日九久平村繁喜突然訪ヒ來リ兄仙橋等ノ意中ヲ耳語シ之レガ主唱者タランコトヲ請フ、辰藏意遂ニ決ス。偶々松平村柳助ハ嘗テ辰藏ニ讓リ置キシ農馬賣掛代金不足額請求ノタメ來リ會セリ、乃チ三人鼎坐密カニ談ジテ去ル。

越テ全月二十日ノ夜ニ至リ繁喜突然松平村柳助宅ヲ訪ヒ今夕コノ家ニ會合シテ曩ニ密議セシ件ヲ尙ホ熟セントノ約アリト傳フ、柳助大ニ驚ク暫クニシテ辰藏又來リ平吉仙藏等亦相前後シテ集ル、柳助夫妻其ノ陣屋ニ近ク謀ノ洩レンコトヲ恐レ宅ヲ

貸スコトヲ肯ンゼズ、依テ止ムヲ得ズ轉ジテ茅原村石龜峠ヲ越ヘ坂ノ中腹ニ至リ此處ニ會議セントス、然レドモ地僻陋ニシテ、後ヨリ來リ會スルモノ、或ハ知ル能ハザルヲ慮リ火ヲ焚キテ之レガ目標トナシ、且ツ仙藏ハ竹筒ヲ吹キ鳴ラシテ相圖トナス、平吉、彌平亦同ジク之ヲ作リテ吹キ立テ大ニ勢ヲ示メス、時ニ會スルモノ辰藏繁喜ヲ始メ川向村文六九久平村吉藏七賣村清助切二木村喜助、參平、喜右工門及ビ松平村近藤勇等合計二十余人ニ過ギザリキ。茲ニ於テ辰藏徐ロニ言ヲ發シテ曰ク本年ハ意外ノ不作ニシテ、農民ノ困難一方ナラズ、依テ米ハ一兩ニ六七斗位其他酒類雜品ハ可成安價ニ賣リ拂ハシメ且ツ無盡(頼母子講)ハ二ケ年間休會セシムベク、酒屋穀屋等へ交渉セント欲ス、然レドモ之ヲナス、約六七十人ノ人數ヲ要ス、各村二三名ヅ、出會アルベク取計ハンコトヲ諾セヨト、時ニ文六座中ニ進ミ出テ曰ク事甚ダ重大ナリ或ハ其ノ洩レンコトヲ恐ル故ニ若シ同志中内通スルモノアラバ、直チニ其ノ家屋ヲ破壊スベシ又奥殿、大島ノ兩所へ晝二人夜三人羽明村へ晝夜一人宛各三百文ノ日當ヲ給シテ犬(秘密探偵ノコト)ヲ附ス可シト、坐中騷然未ダ決スル所アラズ、辰藏ツラノ思ヘラク會同ノ人數少ク事ノ或ハ爲スベカラザルヲ察シ乃チ言ヲ構ヘテ曰ク、今ヤ北方ノ村々ハ議已ニ決シ、西南ノ村々ハ石御堂山ニ集リ、六

所山東麓ノ村々ト共ニ登山シテ、大ニ謀リ將ニ大舉シテ事ヲナサントシツ、アリト聞ク、獨リ當地方何ゾ躊躇シテ他ノ嗤ヲ招クコトヲセンヤト議遂ニ決シ明夜ヲ約シテ去ル。

二十一日夜前夜ノ約ヲ履ミテ石御堂山ニ會スルモノ約八十人然レドモ瀧脇村未ダ一人ヲ出サズ依七賣村米右衛門ヲ急使トシテ其ノ會同ヲ促ス、里正犬右衛門逡巡シテ聽カズ、詳黨大ニ怒リ直チニ進ンデ其ノ居ヲ毀チ勢ニ乗ジテ切二木村ニ至リ大沼村日野屋ヨリ酒三斗餘リヲ徵發シテ之レヲ飲ミ勢ヲ籍リテ東ニ向フ、沿道附加スルモノ多ク勢益々振フ、夫レヨリ更ニ進ンデ日野屋ヲ襲フテ交渉セントス。主人源八驚キ狼狽躊躇ス、急ニ百雷天ヨリ下リ電光石火酒庫中ニ闖入シ大樽五本小樽若干ヲ破リ且ツ米二十余石ヲ散乱ス、酒潺溪トシテ川ヲナシ、米累々トシテ丘ノ如ク醜氣鼻ヲ衝キ白沙脛ヲ沒ス時ニ夜ノ七ツ頃ナリ、下弦西ニ傾キ天將ニ白カラントスル頃群黨益々東シテ大沼村ニ入り須賀養信ヲ襲ハントス途、越田和ニ至ル洞樹院ノ住僧來リ迎へ訴願ノ旨ヲ容レテ居宅破壊ヲ詫ブ依テ事ナク同所ヲ去ル。

是レヨリ先キ變報一度傳ハルヤ松平家（麾下太郎左工門）大ニ驚キ二十一日夜ヲ以テ家臣一同ヲ陣屋ニ會合セシメ是レカ前後ノ策ヲ議シ領民柳助始メ外七名ノモノヲ招キ名ヲ御用人足ニカリテ實ハ拘足ヲ命シ其ノ出デ、徒黨ニ加ハラザラシメント努メ其ノ他林添村民ニモ此ノ處置ヲ命ゼシモノ數多アリタリト云フ。

二十二日拂曉（六ツ時）折地村ニ至リ里正助右衛門宅ヲ襲フテ無盡延期ヲ談ズ、里正未ダ答ヘズ、乃チ直チニ家ヲ毀チ凱歌ヲ奏シテ、歸路ニ着キ柵澤村ニ至ル、是レヨリ先キ六所山麓ナル村々ノ民變ヲ聞キ舉ヲ贊シテ雷同附加セントスルモノ約三四百名大田和ケ原ニ屯シテ群黨ノ來ルヲ待ツ、茲ニ於テ二者邂逅シテ勢大イニ振ヒ食ヲトラント欲シテ定吉、源右衛門ニ焚キ出シヲ命ズ、二人命ニ應ジテ楨ケ田和村ニ徵發ス、此時林添村等ノ民モ來リテ烏合スルモノ多ク人數合計六百有余ト註セラ、食了ルヤ、步ヲ日明村ニ轉ジ更ニ東シテ岩谷村ニ出デ藤四郎（一本ニ作右工門トアリ）宅ヲ破壊シ歸リテ眞垣内村ニ至リ酒屋佐吉（一本ニ里正吉藏トアリ）ヲ犯サントス、辰藏仲ニ介シテ和議成リ酒食シテ去ル、此ノ時松平村柳助密カニ村ヲ脱ケ出デテ黨ニ加フ、進ンデ東宮口村ニ至リ郷渡坂ニ着ス、時ニ松平村未ダ一人モ出サズ、群黨之ヲ惡ムコト甚シ、故ニ羽明村ヲ犯シ進ンデ松平村ニ入ラントスルノ勢ヲ示メス、地頭之ヲ探知シ大ニ恐レ羽明村河合庄兵衛（一本ニ河合善右衛門トアリ）本人ハ松平家代官ナリ）ニ内命シテ焚キ出シヲナサシメ且ツ法恩寺住僧ヲ出シテ慰

安ノ方法ヲ盡ス。(此ノ焚キ出シ米七八俵ナリト云フ) 時ニ林添村帳外者磯右衛門ト名乗ルモノアリ、大聲ニ呼ンデ曰ク松平村敢ヘテ徒黨ニ與ミセズ故ニ之レヨリ侵入シテ全村内ヲ破ラン、コノ報松平村ニ達ス、地頭大イニ恐レ鎗鐵砲其ノ他ノ武器ヲ以テ入口ヲ固メ人數ヲ徵集シテ益々警戒ヲ嚴ニス。

奥殿、大島、九久平三地頭ノ代官既ニ來リテ下河内村ニ在リトノ報ヲ得テ辰造我謀ノ成レルヲ喜ビ乃チ黨ヲ率ヒテ急ギ赴カントス、朽本村藤兵衛其ノ他四ツ松村始メ二三ケ村ノ輩頻リニ足助町ヲ衝カント獎ム、辰藏聞カズシテ西下ス、途次大津村ニ出ヅ、酒屋平兵衛及ビ茅原村成瀬甚兵衛里正ヲ以テ途ニ呼バシメ無事通過ヲ乞フ、辰藏柳助等快諾シテ衆ヲ率ヒテ將ニ下河内ニ入り吏ニ謁シテ請フ所アラントス後隊ノ一部即チ朽本村藤兵衛等ノ徒五六十名歩ヲ廻ラシテ平兵衛甚兵衛二宅ヲ犯シ家屋器具ヲ毀ツ、甚兵衛等大イニ驚キ急ヲ辰藏ニ訴ヘテ其ノ援ケヲ乞フ、時ニ辰藏等既ニ三家ノ吏ト會シ大ニ前後策ヲ講ジツ、アリ。報ヲ得テ大イニ驚キ再ビ歸リテ茅原ニ至リ鎮撫ニ努ム乃チ柳助棍棒ヲ振イテ群中ニ入り大聲叱呼シテ曰ク男子タルモノ曩ニ一旦承諾シテ毀タザルヲ誓ヒ未ダ掌ヲ回サズシテ敢テ此ノ舉ヲナス男子ノ面目那邊ニアルヤト辰藏亦門外ヨリ走セ來リ同ジク棍棒ヲ振ヒ衆ヲ睥睨シテ曰ク咄鼠

輦一人モ逃ゲ去ルヲ許サズ今ヤ出役既ニ在リ願意正ニ容レラレントス若シ尙ホ亂暴狼籍ヲ敢テスルモノアラバ或ハ交渉モ畫餅ニ屬スベシ何ゾ思ハザルノ甚ダシキヤ、村民等亦アラン速ニ來リテ我レニ加勢シ暴民ヲ制セヨト遂ニ七人ヲ縛ス、然ドモ後甚兵衛ノ言ニ依リ解キ放チテ共ニ下河内ニ歸ル。

辰藏ガ三地頭ノ出頭吏ニ提供セシ訴願ノ大項左ノ如シ。

- 一、貢租ハ渾テ金納トシ一兩ニ付キ八斗ノ相場タルベキコト。
- 一、各家ノ藏米ヲ出シテ、全上價格ヲ以テ糶賣スルコト。
- 一、酒ハ諸白十二文、片白八文ヲ以テ賣拂フコト。
- 一、無盡ハ向フ二ケ年間休會ヲ命ズルコト。

以上諸項ノ中奥殿ハ米六斗ニ讓歩シ其ノ他ハ悉ク許容セラレ、大島ハ熟考ヲ要ストナシ、九久平ハ逡巡未ダ決セズ。時ニ辰藏等ノ茅原ニ於ケル處置ニ嫌焉タラザルノ徒、即チ朽本村庄兵衛、全村善右衛門等大イニ罵リテ辰藏宅ヲ襲ヒ薪ヲ投ジ石ヲ擲チ家屋ヲ破壊シテ狼藉ヲ極メ且ツ其ノ軒頭ニ點ゼシ提灯(思フニ地頭ノモノナルベシ)ヲ破ル辰藏止ムヲ得ズ乃チ拔キ出テ、防ギ則定村勝五郎ヲ傷ク遂ニ蜂群散ジテ事平グヲ得タリ時ニ夜、子刻ヲ過グ茲ニ於テ辰藏事ノ大半成レルヲ知り、去リテ

又黨ニ加ハラズ。一黨辰藏ヲ失フモ勢尙ホ猖獗ナリ直ニ進ンデ九久平村ニ入ル、代官菅沼某大ニ恐れ戰々トシテ願意ヲ容レ七八斗ヲ諾シテ無事通過ヲ乞フ。

變報一度官ニ達スルヤ乃チ赤坂代官所及ビ岡崎藩捕手約二百人ヲ出シテ、大谷村ヲ固メ又別ニ赤坂ハ大澤山ヲ固ム、其ノ他岡崎藩兵數百ヲ派遣シ分テ五隊トナシ要害數ヶ所ヲ固ム、二十三日一黨進ンデ中村ニ至リ曾吉及ビ質商文七宅ヲ毀チ倉庫ヲ破リテ、典物ヲ路ニ捨ツ時ニ大風雨ノ後ニシテ、道路泥濘タメニ衣服悉ク泥ニ壁ミル。此ノ時一黨中更ニ進ンデ奥殿藩ヲ襲ヒ金納八斗ヲ強請シ且ツ米會所ヲ破壊セント主張スルモノアリ、會々同藩再ビ吏ヲ出シテ慰撫セントスルニ遇フ、群黨稍々和グ夫レヨリ道ヲ轉ジ川ヲ渡リ平藪村酒屋某ヲ犯ス、某豫メ之レヲ期シ食ヲ準備シテ遇スルコト甚ダ懇ロナリ、依テ無事ナルヲ得、後同家ヲ去リ七里街道ヲ進ミ左折シテ矢並村ニ出デ質商友吉ヲ襲フ、同家又風説ヲ聞キ豫メ食ノ準備ニカム、然レドモ遲レテ期ニ合ハズ己ニ一黨門内ニ浸入シテ喧囂ヲ極メ狼藉ヲ盡ス、其ノ妻驚キテ氣絶卒倒ス、衣服疊ノ類ヲ破壊シテ足助村ニ向フ。足助又此ノ變ヲ聞キ豫メ歡迎ノ準備ヲナシ酒食菓子等ヲ擔ヒ出シテ途ニ迎フ、甚ダ鄭重ヲ盡ス、然レドモ酒屋與茂八上田屋喜右衛門、白木屋宗七、米商仁兵衛及ビ紙屋利兵衛控家等都合五戸ヲ毀ツ、

茲ニ於テ全所地頭本多家吏ヲ出シテ慰諭ニカメ且ツ高札ヲ立テ、願意悉ク許容スベキヲ告示ス、時ニ大雨至ル、紙屋利兵衛兩具ヲ供シテ歡心ヲ買フ、依テ暫ク足ヲ休メ將來嚮フ所ヲ議ス、或ハ足助以北ニ入ラントスルモノアリ或ハ直チニ舉母町ヲ突カントスルモノアリテ議遂ニ決セズ分レテ二隊トナル。二十四日足助ニ分レタル半隊人數一千人沿道附加ノ徒ヲ合セ總勢一萬以上ト註セラル。

因ニ是ヨリ先キ今ノ西加茂郡市野々村圓右衛門、川見村金右衛門等相謀リテ出所知レザル回狀ヲ作り貧民困難ヲ口實トシテ貸借金ノ利子、小作ノ掟米、賣掛代金ノ拂ヒ等總テ金額ノ五分納トシ又頼母子講ノ延期、日雇人夫賃減額諸奉加謝絶等ノ條項ヲ列記シ而シテ其末尾ニ以上ノ協議ヲ遂ゲ夫々へ交渉セント欲ス、因テ一村兩三名ヅ、下二木村々社境内へ出會アルベキ旨ヲ附記シ附近村落へ傳達セシメテ、大ニ人心ヲ鼓舞煽動セリ、然レドモ未ダ會合スルノ期ニ至ラザリキ宜ナル哉、徒黨一度足ヲ西加茂郡ノ地ニ入ルヤ急チ來テ附加雷同スルモノ多キヲ見ル豈偶然ニアラザルヲ知ルベシ。

進ンデ飯田街道ヲ過ギ廣瀬村民ヲ嚮導トシテ寺部村ニ入ル、寺部未ダ一人ヲ出サズ依テ慣用手段ヲ以テ狼藉ヲ試ム、寺部勢ニ恐れテ多ク附ク、乃チ暗ニ乘ジテ矢作川

ヲ渡ル、堤上既ニ人アリ其數三四十許リ皆簑笠ヲ身ニ裝ヒ燐ヲ焚キ勢ヲ示シテ群黨ノ至ルヲ待ツ、群黨上陸シ了ルヤコレヲ誘フテ酒屋穀商等ヲ襲ハントシ相率ヒテ子守神社境内ニ至ル、急チ簑笠ヲ捨テ竹槍ヲ揮フテコレニ抗ス、實ハ舉母藩ノ捕吏ナリキ、群黨大ニ驚ク、是ヨリ先キ舉母藩別ニ松岡惣十郎、川西六右衛門、中川惣五郎外一名ヲ長トシ士卒同心ヲ附シテ、四隊ヲ組織シ各戎衣シテ手ニ弓鐵砲槍等ヲ持タシメ神社ノ内外ヲ固ムルコト甚ダ嚴重ナリ、則チ出デ、群黨ニ説ク、皆輕侮シテ聽カズ讒謗罵詈至ラザルナシ、茲ニ於テ隊兵銃隊ニ命ジテ銃ヲ擬セシム、衆益々激シ胸ヲ露ハシテ打ツベキヲ指示ス依テ止ムヲ得ズ發砲ヲ令ス操銃ニ巧ミナルモノ六人等シク火ヲ切ル、聲天地ニ轟キ彈丸急チ霰ノ如ク飛ブ、徒黨ノ一人犬右衛門ナルモノ急チ丸ニ中リテ殞ル、群黨氣稍々沮ム藩吏虛ニ乗ジテ刀槍ヲ揮ヒ迎ヘ拒グ傷クモノ數人衆遂ニ潰ル。此ノ時既ニ尾藩鳴海ノ代官三澤喜右衛門卒四五十人ヲ率ヒ來ツテ小坂ヲ固メ岡崎藩モ亦數百騎ヲ出シテ之ヲ援ク。茲ニ於テ徒黨急チ潰亂シ矢作堤上ニ奔ル堤下己ニ岡崎藩ノ伏アリ川ヲ涉ラントスルモノ多ク此ノ手ニ捕ハル其數八百餘北ニ逃グントスルモノ又赤坂捕吏白刃ヲ揮ツテ堤上ニ遮ル捕ハル、モノ若干又西ニ赴カントスルモノ多ク尾藩ノタメニ逮捕セラル其數三百余人其他逃レテ勘八

山ニ匿ル、モノ亦多シ、尾藩岡崎藩、カヲ合セ追撃シテ之ヲ捕フ。

二十四日足助ニ留マレル半隊三四百人山藏有洞ノ兩村未ダ募リニ應ゼザルヲ以テ夜ニ入りテ里正源助、權右衛門（一本ニ重藏トアリ）ノ二戸ヲ毀チ再ビ足助ニ歸ル茲ニ於テ近村附加雷同スルモノ益々多ク正ニ五千人以上ト註ス、復ビ淺屋幸吉、石原忠吉二戸ヲ毀チ東ノ方今朝平ニ進ミ紺屋宗助、車屋源藏二戸ヲ毀チ中ノ御所村ニ至リテ與右衛門宅ヲ毀ツ。

二十五日朝益々東シテ東丹羽村ニ至リ又一戸ヲ毀ツ此ノ時岡崎藩那須猪太夫ノ率ユル一隊鐵砲組二百五十餘人來リ屯ス、群黨之ヲ聞キ避ケテ藤澤村ニ潜ム、藩兵策ヲ運ラシテ、遂ニ數百人ヲ捕フ、時ニ二十六日ナリ、殘黨瓦解竄匿ス是ヨリ先キ西尾藩ハ清原村ニ吉田藩ハ加納村ニ各々兵ヲ屯シテ、變ニ備フ依テ相狹ンデ逮捕ニ努ム。其他逃レテ所在ニ匿ル、モノ順次各藩ノ手ニ捕ハル、辰藏ハ九月二十五日ノ夜自宅ニ於テ尾藩捕手ノタメニ縛セラレ、近藤勇、久吉ノ二人居村松平ニ於テ赤坂捕吏ノ手ニ逮捕セラル。

徒黨悉ク縛ニ就クヤ各藩吏岡崎ニ會シ大ニ議リテ善後ノ策ヲ講ジ巨魁首唱ノ徒ヲ悉ク獄ニ下シ次第赤坂ニ引致ス。

赤坂ハ幕府代官（平岡熊太郎ナラン）ノ駐在地ナリ幕府更ニ吏（深谷遠江守ナラ
ン）ヲ遣ハシテ共ニ斷獄ノ事ヲ司ラシメ鞠問審理ノ後遂ニ翌々年天保九年五月ニ至
リ左記ノ如ク處分セラレ事全ク落着スルヲ得タリ。

判決寫

- 一、存命ナラバ獄門 辰藏、仙橋 小計 二 人
 - 一、存命ナラバ遠島 繁喜、仙藏、柳助、藤兵衛 小計 四 人
 - 一、存命ナラバ中追放 金右衛門、圓右衛門、平市、彌平、喜藏、喜助 小計 六 人
 - 一、入 墨 追 放 寅橋、嘉七 小計 二 人
 - 一、追 放 橋右衛門、周藏外十五名 小計 十 七 人
 - 一、手 鎖 庄兵衛、勝五郎外八名 小計 十 人
 - 一、急 度 御 叱 リ 近藤勇、源兵衛外三十一名 小計 三 十 三 人
 - 一、過 料 松平村、瀧脇村其ノ他ノ百姓 小計 一 萬 一 千 三 百 八 十 三 人
- 此ノ金額七百九十二貫七百匁
- 合計一萬一千四百五十七人

其ノ他右騷擾ニ連座セラレ過料御叱リ等ニ處セラレシ里正其ノ他ノ者亦少カラズ

則チ左ノ如シ。

從犯者判決寫

- 一、過 料 舉母町七町庄屋七名
- 一、急 度 御 叱 リ 此金額二十一貫匁（一名三貫文ヅ、）
舉母町組頭七名
- 一、御 叱 松平村外二百三十八ヶ村庄屋二百三十九名
- 一、逼 塞 全上組頭二百三十九名
廣濟寺住職成宜
- 一、過 料 右ハ犬右衛門葬儀ニ參與セシ廉ニ依ル
常助、瀨兵衛
- 一、急 度 御 叱 リ 此金額六貫匁（一名三貫文ヅ、）
右ハ全人ヲ病死ト偽リタル罪ニヨル
犬右衛門妻てい弟大助

以上

707
209

昭和十一年九月十日印刷
昭和十一年九月廿日發行

非賣品

愛知縣東加茂郡松平村大字桂野
編輯人 兼政 宮川 鎧三 郎

愛知縣岡崎市能見町二六六
印刷者 久保 田政 勝
印刷所 久保 田 印刷 所

發行所 愛知縣東加茂郡松平村役場
電話 一 番

